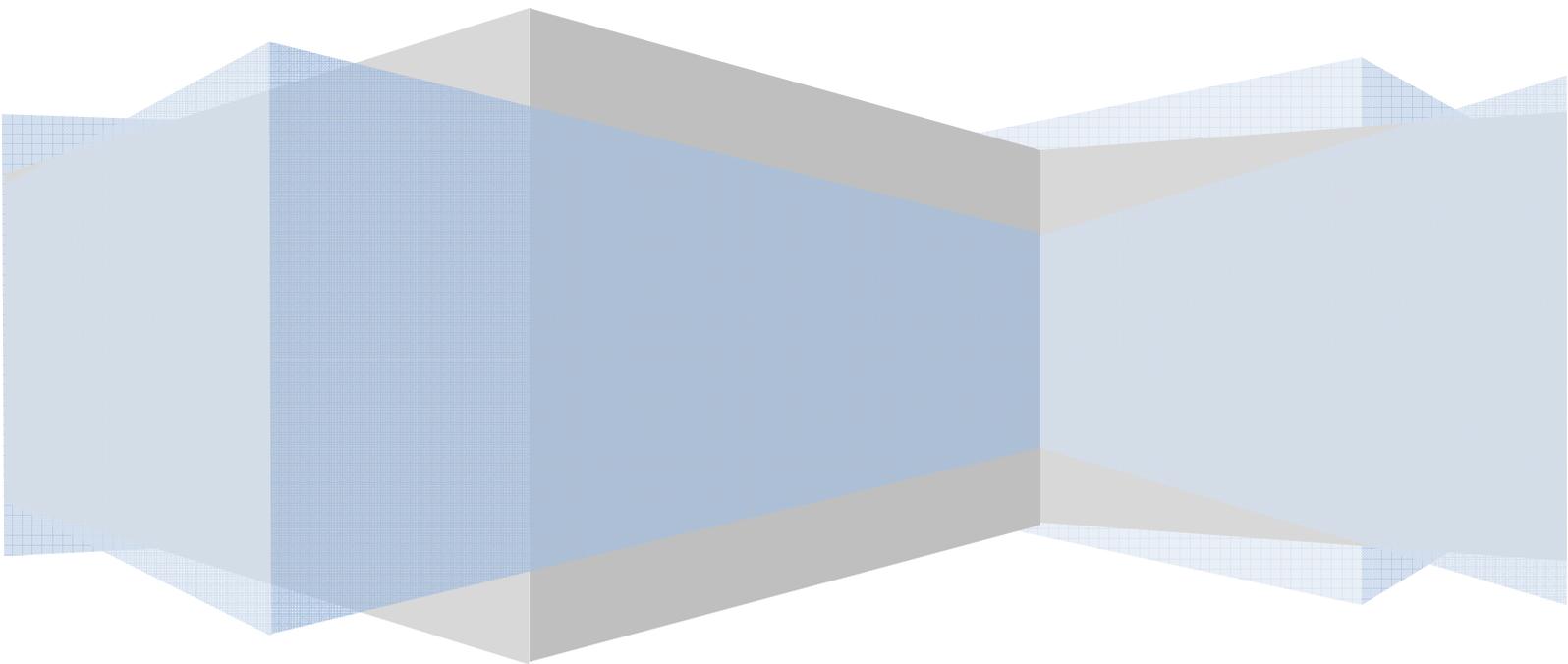


矢臼別演習場周辺

まちづくり構想

(第3回住民懇話会用素案)

北海道野付郡別海町



【目次】

1、矢臼別演習場周辺まちづくり構想の目的と位置づけ	4
1-1、まちづくり構想の背景	4
1-2、まちづくり構想の目的	5
1-3、まちづくり構想の位置づけ	5
1-4、まちづくり構想の対象エリア	5
2、別海町及び別海地区の概況	6
2-1、別海町の概況	6
(1)位置・地勢	6
(2)別海町の歴史	6
(3)気候とその特徴	7
(4)人口、世帯数	8
(5)防衛関連施設の概要	18
(6)自衛隊員等と町民の交流・協力	19
2-2、別海町市街地活性化計画について	21
2-3、上位計画等について	25
(1)第6次別海町総合計画	25
(2)別海町防災計画	27
2-4、構想対象エリアの位置づけ	30
3、構想対象エリアの現状と課題	34
3-1 構想対象エリアの現状	34
3-2、構想対象エリアの課題	34
4、構想策定の経緯	36
4-1、まちづくり構想策定の進め方	36
4-2、まちづくり構想策定の実施状況	36
5、アンケート調査の実施	38
5-1、アンケート調査の概要	38
5-2 アンケート調査の結果	- 40 -
(1) 回答者属性	- 40 -
6、まちづくり構想	- 89 -
6-1 構想策定の視点	- 89 -
6-2 基本的考え方と基本方針	- 90 -
6-3 まちづくり構想	- 91 -

はじめに

【町長による巻頭言】

別海町長 水 沼 猛

1、矢臼別演習場周辺まちづくり構想の目的と位置づけ

1-1、まちづくり構想の背景

現在、本町を取り巻く状況は、世界経済の動向や、人口減少・少子高齢化の進行などにより、大きな環境変化の中にあります。

日本の食糧基地として、国内の生乳生産量のおよそ2割を占める本町においても、少子高齢化における労働人口減少や、環太平洋戦略的経済連携協定(略称、TPP)の大筋合意における影響は、避けることの難しい大きな課題となっています。

本町における現状の課題については、様々な要因によるマイナスの影響が考えられますが、そのひとつとして、昭和38年から本格的な共用開始となった矢臼別演習場及び昭和40年に発足した別海駐屯地の防衛関連施設の存在は、住民生活に有形・無形の様々な影響を与えています。

中でも、国内最大規模の面積を有する矢臼別演習場は、中長距離の実弾射撃訓練が可能な国内でも数少ない防衛関連施設として、これまでも年間平均300日、延べ26万人以上による演習が行われています。

加えて、平成9年度からは、米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散化の目的による演習場となっています。

これらの演習に伴う障害は、単なる住民不安としてだけでなく、平成25年には演習中の第12海兵連隊第3大隊が発射した155mm榴弾砲が演習場外の国有地に誤着する事故が発生したことから、その他の射撃訓練やヘリ等の航空機の航行、重車両の往来に対しても今後同様の事故が懸念されています。

また、本町は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策の推進に関する特別措置法の対象自治体として、平成5年に釧路沖地震、平成6年に北海道東方沖地震、平成16年には根室半島沖地震など、ここ30年の間でも大規模な地震災害に数多く見舞われています。

加えて、近年では、爆弾低気圧と呼ばれる急速に発達する温帯低気圧による高潮や暴風雪などの気象災害も多く、海岸部の被害だけでなく、内陸部の交通網を寸断するなど災害発生時におけるライフラインの維持が大きな課題となっています。

これら種々の災害と防衛施設の存在によって生じる町民への影響を最小限に抑え、人口減少・少子高齢化する本町にとって望ましい生活環境を構築するためには、町内にある防衛施設に係る要素を含め、様々な要素を結び付けるまちづくりが必要となります。

その中でも、年間延べ26万人以上の矢臼別演習場を利用する自衛隊員等と別海駐屯地に勤務する自衛隊員は、単なる消費者や通勤族としてだけでなく、それぞれが持つ専門性や個性を生かした交流人口としても地域に取り込むことが、今後のまちづくりに求められています。

1-2、まちづくり構想の目的

防衛施設等との関連性を活かし、町民の安心安全な地域社会の構築と質の高い生活の維持を目指し、市街地活性化につながることを目的とします。

1-3、まちづくり構想の位置づけ

本町では、第6次総合計画における「笑顔あふれる豊かさ実感のまち べつかい」の実現に向けて、基本目標の中で「快適で安全なまち」「人を育てる学びのまち」「活力ある産業のまち」を掲げています。

これらの目標達成に向けて、市街地の活性化に大きく係る中小企業の振興や、町民の自主的な地域活動に必要な社会教育の充実、防災体制の整備に対して、包括的な計画策定を行い、整合性の取れた事業の進捗に取り組むこととします。

1-4、まちづくり構想の対象エリア

本町は、全国の市町村として9番目(平成26年10月現在)の面積を有し、中央部に位置する別海地区、西部内陸側の西春別駅前地区、東部海岸側の尾岱沼地区と3つの大きな市街地が存在する散居型の都市構造となっています。この散居型の都市構造により、まちの中心地として大きく拓かれた場所としての商工業が集積した「にぎわい」や文化的な「高まり」が表現され難い状況にあります。

このような状況を改善するため、平成26年度には「別海町市街地活性化計画」を策定し、町内でも多くの商工業施設や公共用施設を有している別海地区における交流人口の増加や防災対応の整備を進めることで、町内各地区に対する旗艦機能と、町内外に対する訴求力を高める重点的なエリアとして設定しています。

本構想において、最も重要な視点のひとつである防衛関連施設との連携においても、矢臼別演習場に隣接する地域として、別海地区を中心にこれらの課題解決に向けたエリアとして設定し、進めて行くこととします。

本町の近代開拓期としては、江戸時代後期に野付半島及びその周辺に漁場が開設されたことにはじまり、北海道沿岸部の多くの自治体がそうであったように「鯨漁」で栄えました。

また、オホーツク海に飛び出す形となっている野付半島は、地理的要因から知床・根室・国後・択捉方面を結ぶ港として、重要な役割を担ったとされています。

しかしながら、当時の漁場は季節労働的な就業形態であったことから、和人による定住を基礎とした地域社会の形成には至らず、別海町の原型となる地域の誕生は、150年以上過ぎた明治初期の開拓使による移民政策の実施以降となります。

明治2年、根室開拓使出張所管轄のもと西別出張所が本別海地区に開設され、移住政策の推進の本格化とともに、江戸時代後期から産業の主体であった漁業を中心とした地域に村落が形成されました。

その後の明治12年、郡区町村編成法によって、周辺の5村(別海村・平糸村・野付村・西別村・走古潭村)を統括する現行の別海町の基礎となる「別海外四ヶ村戸長役場」が設置されました。

その後、農業を中心とした開墾が本格化する明治43年からの北海道第1期拓殖計画の施行によって、農業従事者としての開拓移民の入植がはじまると、内陸部の拠点であった西別地区(現在の別海地区)が大きく発展。大正12年には、現在の別海町と同等の地域を有する別海村が誕生しました。

江戸時代から海岸部を中心として発展した別海村でしたが、開拓事業による内陸部への人口流入によって、別海地区を中心とした開発へと転換された結果、昭和8年には役場庁舎などの行政施設も別海地区に移転することとなり、現在の別海町の基礎が形成されました。

(3) 気候とその特徴

気候は広義の太平洋岸式気候に分類されますが、緯度が高いことから東部北海道型として2月の平均最低気温は-14.5度、8月における平均最高気温も23度と冷涼な気候にあります。

一方で、他の高緯度太平洋式気候の地域に比べ、年間の降雪深度は345cmと少なく、晴天率が高いのが特徴です。

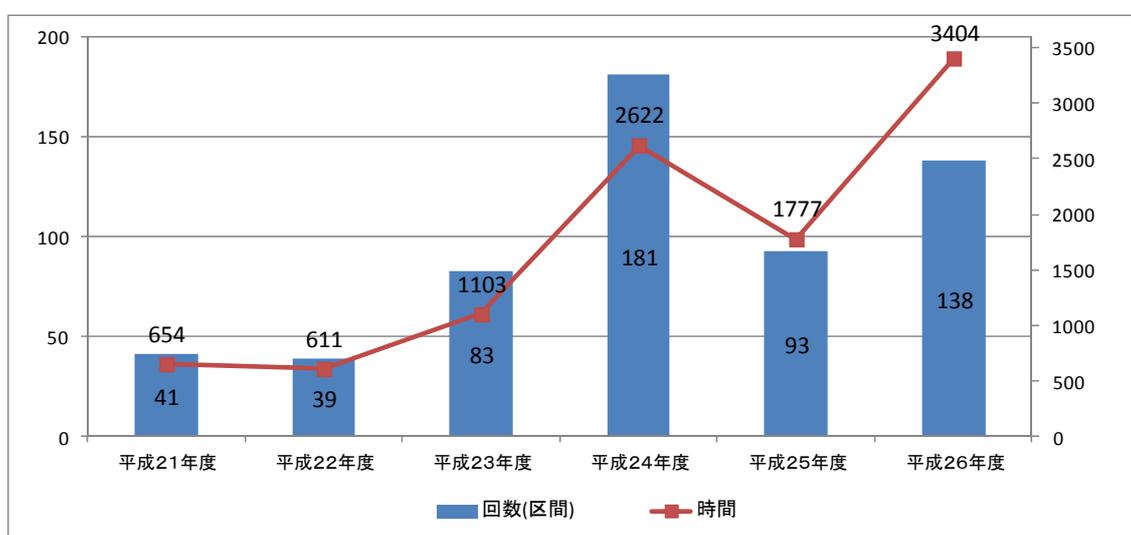
気象災害としては、台風や熱帯低気圧の上陸自体が他県に比べ少ないことから、件数としては多くないものの近年では激甚災害に指定された平成18年10月7日から10日にかけて、台風16号の影響によって発生した低気圧によ

る大雨・強風によって、町内でも海岸部を中心に住宅床上浸水や漁具、営農施設など601件の被害が発生しています。

また、冬季から春季において発生することの多い、爆弾低気圧と呼ばれる温帯低気圧は、オホーツク海上において発達する傾向があり、北海道東部の沿岸地域は雪を伴う強風や高波となることが多くあります。

近年では、平成25年3月2日から3日にかけて北海道を横断した爆弾低気圧による暴風雪によって、送電線へのダメージや航空機・船舶・鉄道の運休、交通障害などのライフラインへの影響も大きく、北海道東部を中心に9名の方が亡くなる被害が発生しました。

■近年の国道通行止め状況



資料:国土交通省北海道開発局 暴風雪に伴う国道通行止め状況

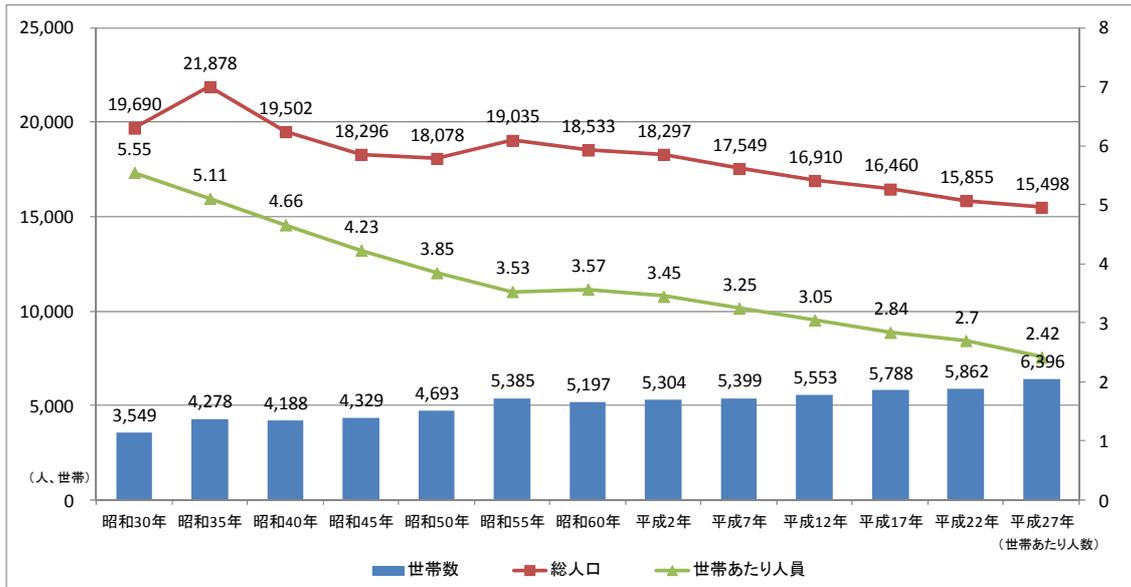
平成21年度から25年度は11月から3月まで、平成26年度は11月から2月17までの履歴

(4)人口、世帯数

国勢調査による本町の総人口は、昭和35年の21,878人をピークに減少傾向に転じ、平成27年10月末現在の住民基本台帳人口は15,498人まで減少しています。

一方で、世帯数は増加傾向にあり、1世帯あたり人員は、昭和30年の5.55人から平成27年には2.42人まで減少し、世帯規模の縮小による核家族化が進行しています。

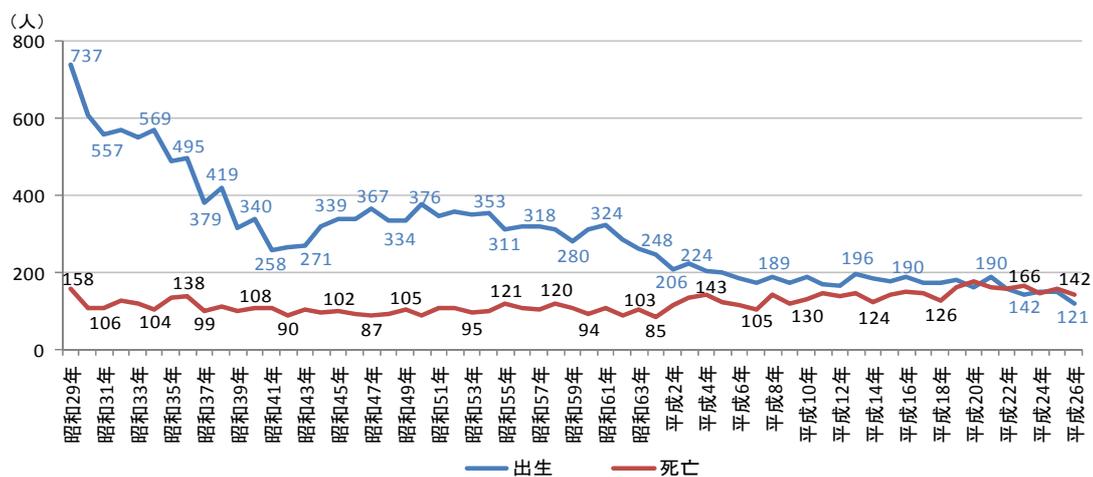
■人口と世帯数の推移



資料：平成22年まで 国勢調査、平成27年 住民基本台帳（10月末現在）

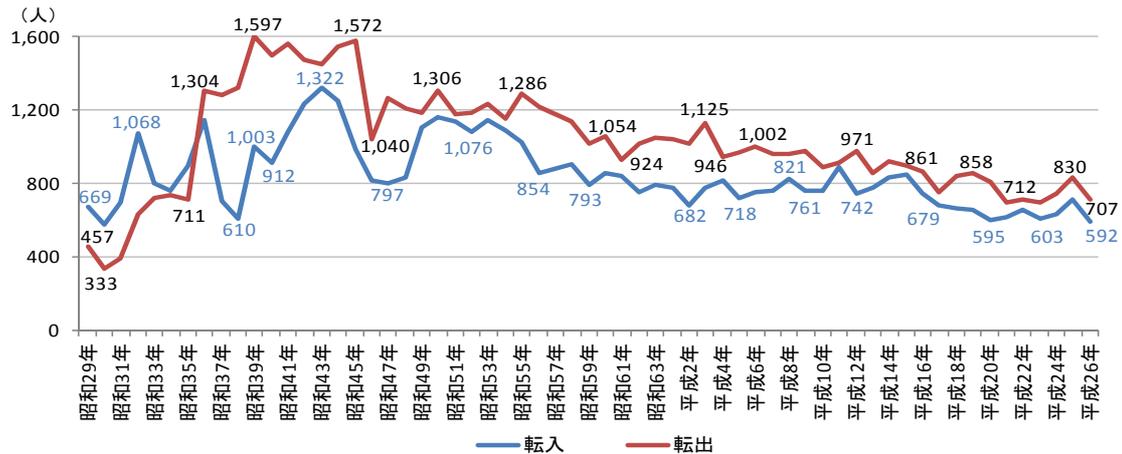
人口減少の要因としては、出生や死亡による自然要因と転入や転出による社会要因を比較した結果、社会要因にあり、昭和36年以降は、転出超過の状況が続いています。

■出生や死亡による自然要因による人口増減



資料：住民基本台帳移動報告（各年12月31日現在）

■ 転入や転出による社会要因による人口増減

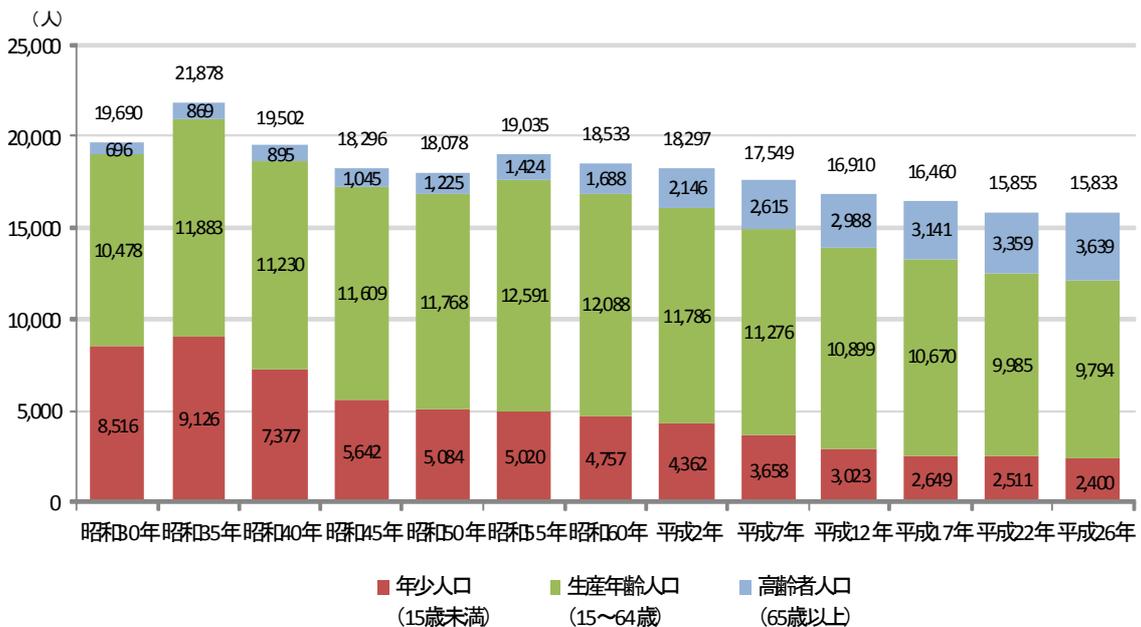


資料：住民基本台帳移動報告（各年12月31日現在）

年齢階層別の構成としては、年少人口が昭和35年から減少し、平成26年には2,400人まで減少しています。同様に、生産人口も平成26年にはピーク時と比較して約18%減少しています。

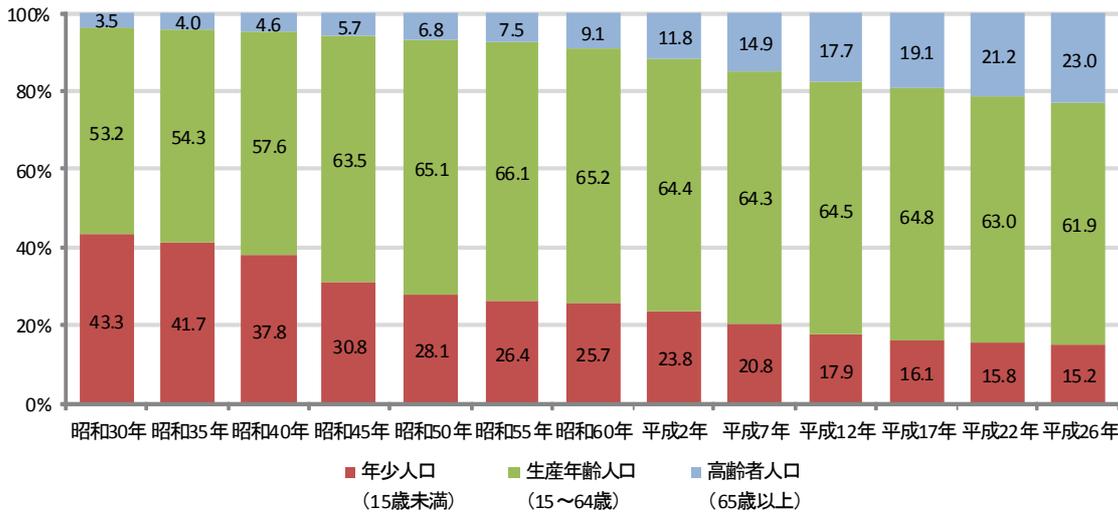
一方で、高齢人口は増加を続け、総人口に占める割合でみると平成17年には、年少人口の割合を超えて、平成26年には23.0%まで上昇しており、第1次産業を中心とする産業構造を持つ本町としては、人口だけでなく、人口構成の維持も今後の大きな課題となっています。

■ 年齢階層構成毎の人口推移



資料：平成22年まで：国勢調査、平成26年：住民基本台帳（10月1日現在）
 ※総人口は年齢不詳を含む：昭和50年（1人）、平成2年（3人）

■ 年齢階層構成毎の人口比率



資料：平成 22 年まで 国勢調査、平成 26 年 住民基本台帳（10 月 1 日現在）

また、別海町の将来人口推計としては、次のとおり別海町人口ビジョンにおいて示されており、総人口の減少及び少子化の進展とともに、現在の一・二次産業における生産・製造力や、地域の担い手としても影響力の大きい労働年齢層の減少が懸念されます。

■ 推計の条件

基準人口	平成 26 年 10 月 1 日現在住民基本台帳人口
将来の生存率	「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）から得られる全国の男女・年齢別生残率を利用。
将来の純移動率	平成 21～26 年に観察された市区町村別・男女年齢別純移動率が平成 27 年以降の期間についても一定とする仮定を置いた。
将来の子ども女性比※2	平成 22 年の全国の子ども女性比と各市区町村の子ども女性比との較差をとり、その値を平成 27 年以降平成 52（2040）年まで一定として市区町村ごとに仮定値を設定。
将来の 0～4 歳性比※3	「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）により算出された全国の平成 27 年以降平成 52（2040）年までの 0～4 歳性比を各年次の仮定値として設定。

※1 純移動率：各年齢階級別の人口における転入出者数の割合。転入はプラス、転出はマイナスとなる。

※2 子ども女性比：15～49 歳女性人口に対する 0～4 歳人口の割合。将来の出生数を算出する際に用いられる。

※3 0～4 歳性比：0～4 歳女性人口に対する 0～4 歳男性人口の割合。将来の出生における男女別人数を算出する際に用いられる。

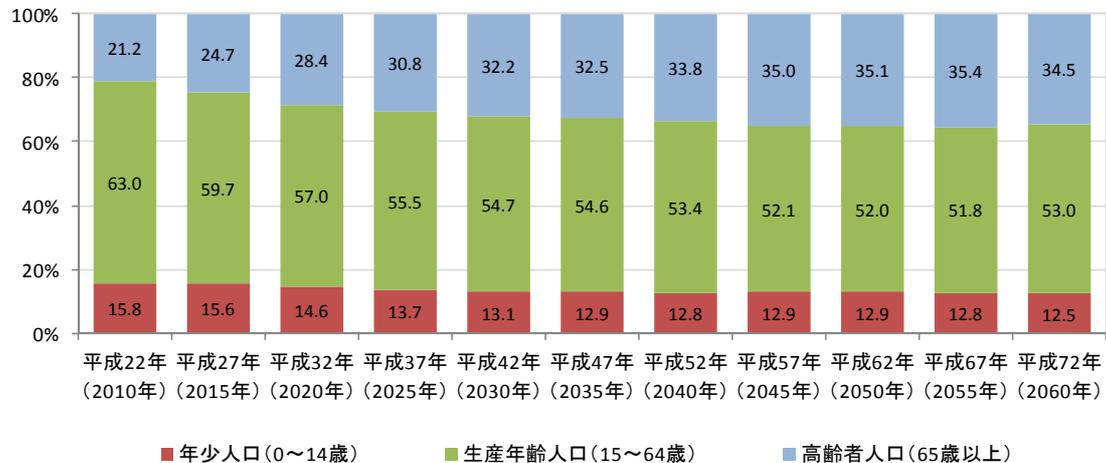
■将来人口推計（5歳階級別）

	平成 22年	平成32年 (2020年)		平成42年 (2030年)		平成52年 (2040年)		平成62年 (2050年)		平成72年 (2060年)	
	人数	人数	H22 年比								
総数	16,297	15,380	94.4%	14,307	87.8%	12,867	79.0%	11,310	69.4%	9,935	61.0%
0～4歳	849	751	88.5%	598	70.4%	521	61.4%	459	54.1%	379	44.6%
5～9歳	908	730	80.4%	647	71.3%	548	60.4%	477	52.5%	409	45.0%
10～14歳	782	754	96.4%	679	86.8%	540	69.1%	471	60.2%	415	53.1%
15～19歳	767	775	101.0%	624	81.4%	552	72.0%	468	61.0%	407	53.1%
20～24歳	876	596	68.0%	588	67.1%	531	60.6%	422	48.2%	368	42.0%
25～29歳	943	722	76.6%	738	78.3%	599	63.5%	532	56.4%	450	47.7%
30～34歳	1,097	974	88.8%	695	63.4%	687	62.6%	620	56.5%	493	44.9%
35～39歳	1,090	912	83.7%	722	66.2%	744	68.3%	602	55.2%	534	49.0%
40～44歳	888	1,067	120.2%	935	105.3%	667	75.1%	659	74.2%	595	67.0%
45～49歳	1,025	1,041	101.6%	881	86.0%	697	68.0%	718	70.0%	581	56.7%
50～54歳	1,166	865	74.2%	1,041	89.3%	912	78.2%	650	55.7%	643	55.1%
55～59歳	1,342	956	71.2%	985	73.4%	832	62.0%	655	48.8%	677	50.4%
60～64歳	1,199	1,044	87.1%	785	65.5%	945	78.8%	827	69.0%	587	49.0%
65～69歳	880	1,225	139.2%	874	99.3%	899	102.2%	758	86.1%	594	67.5%
70～74歳	698	1,071	153.4%	944	135.2%	710	101.7%	854	122.3%	746	106.9%
75～79歳	738	735	99.6%	1,058	143.4%	757	102.6%	780	105.7%	656	88.9%
80～84歳	573	505	88.1%	822	143.5%	719	125.5%	544	94.9%	649	113.3%
85～89歳	320	436	136.3%	457	142.8%	651	203.4%	472	147.5%	485	151.6%
90歳以上	156	221	141.7%	234	150.0%	356	228.2%	342	219.2%	267	171.2%
0～14歳	2,539	2,235	88.0%	1,924	75.8%	1,609	63.4%	1,407	55.4%	1,203	47.4%
15～64歳	10,393	8,952	86.1%	7,994	76.9%	7,166	69.0%	6,153	59.2%	5,335	51.3%
65歳以上	3,365	4,193	124.6%	4,389	130.4%	4,092	121.6%	3,750	111.4%	3,397	101.0%

■将来人口推計（年齢3区分別）



■将来人口推計（年齢3区分別割合）



また、今後の別海地区の人口推移を把握するため、本構想においては次の条件を設定した上で、各地区の人口推計を行いました。

各地区の人口推計値の合計が、町人口ビジョンや国立社会保障・人口問題研究所と異なる傾向となっている部分がありますが、これは算出に用いた数値や時期、手法の違いによるものです。

■本構想における人口推計の条件

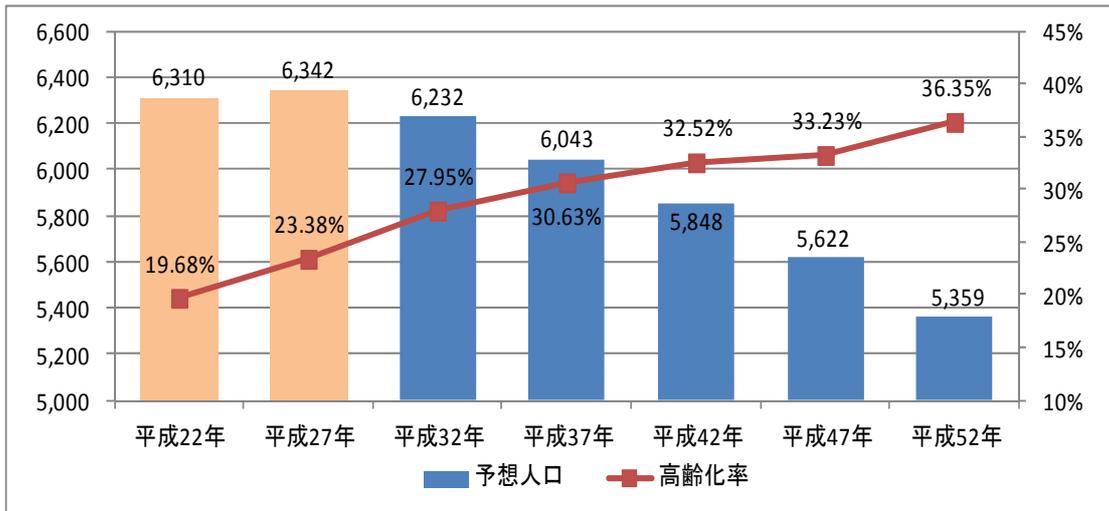
条件期間	平成17年、平成22年、平成27年の各9月末時点の住民基本台帳における掲載者数とする。
コーホート変化率	過去における動態を参考にどのように人口が変化するかを定めるコーホート変化率は、特殊状況を可能な限り除外するため、3時点における全期間の平均値を用いた。
将来の子ども女性比	将来の出生数の算定に用いる子ども女性比率は、平成27年時点での町内における15から49歳女性人口に対する0から4歳人口の割合とした。
将来の0-4歳性比	将来の出生における男女別人数の算定に用いる子ども性比率は、平成27年時点での町内における0から4歳女性人口に対する0から4歳男性人口の割合とした。
推計地区名	住所名基本に、学校区及び地域的なつながり等を考慮した区分とした。

推計に用いた住民基本台帳住所別人口は、平成27年度現在ある9つの学校区を基本に地域的なまとまりを考慮したものとしています。

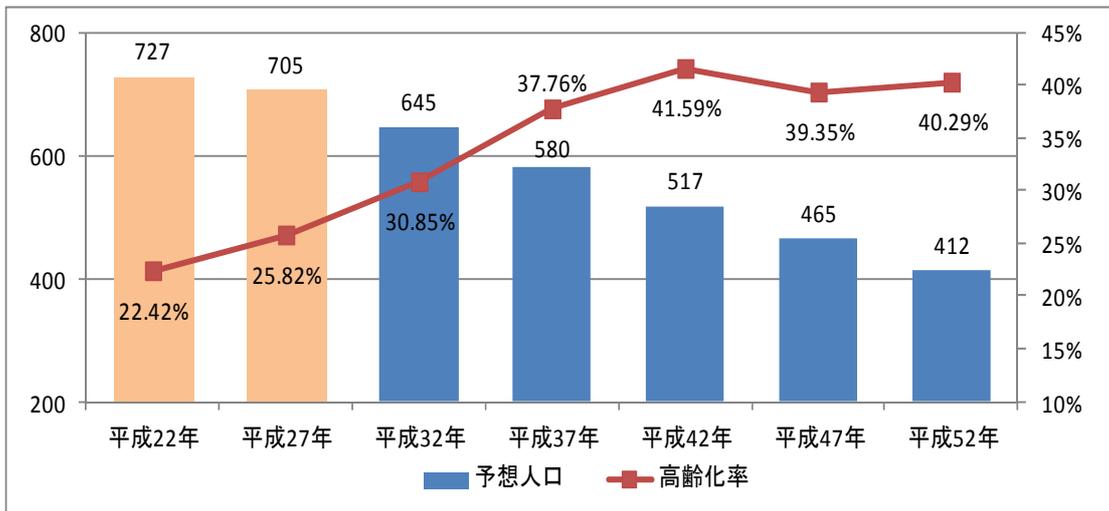
■将来人口推計に用いた地区の区分

地区名称	各地区に含まれる住所地
別海地区	別海新栄町、別海常盤町、別海宮舞町、別海西本町、別海旭町、別海寿町、別海緑町、別海鶴舞町、別海川上町、別海
中西別地区	中西別本町、中西別光町、中西別朝日町、中西別緑町、中西別
上風連地区	奥行、矢臼別、上風連
本別海地区	走古丹、本別海
中春別地区	中春別、中春別東町、中春別西町、中春別南町、豊原、美原
西春別地区	西春別、西春別昭栄町、西春別本久町、西春別宮園町、西春別清川町、西春別幸町
西春別駅前地区	大成、本別、西春別駅前寿町、西春別駅前錦町、西春別駅前栄町、西春別駅前西町、西春別駅前柏町、西春別駅前曙町、泉川
上春別地区	上春別、上春別緑町、上春別旭町、上春別南町、上春別栄町
尾岱沼地区	床丹、尾岱沼、尾岱沼潮見町、尾岱沼港町、尾岱沼岬町

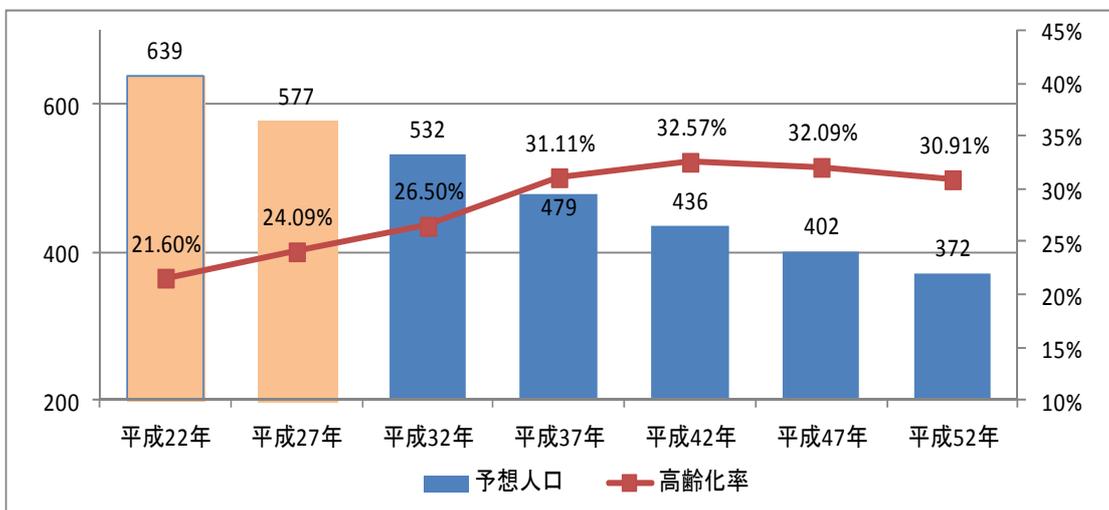
■別海地区の将来人口推計



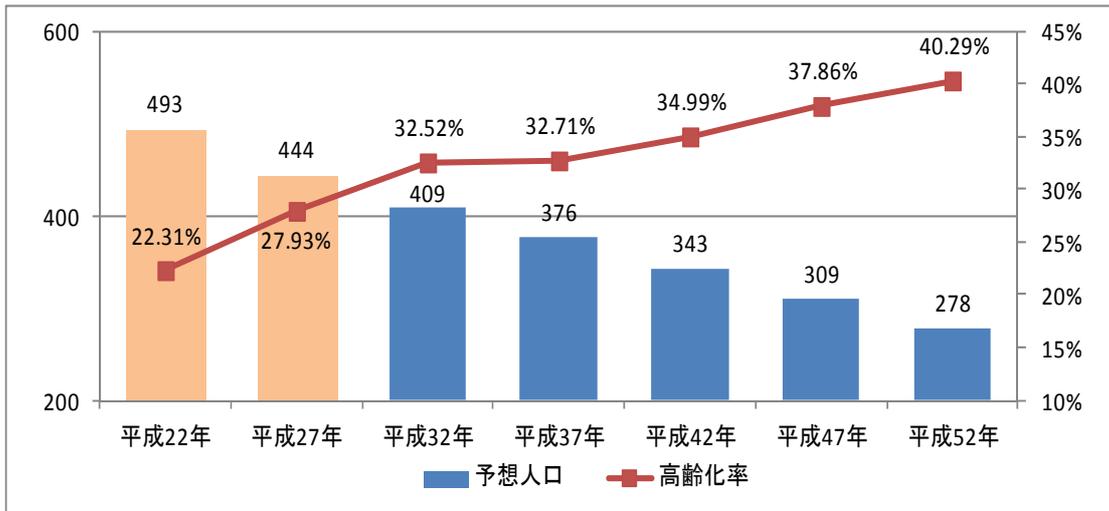
■中西別地区の将来人口推計



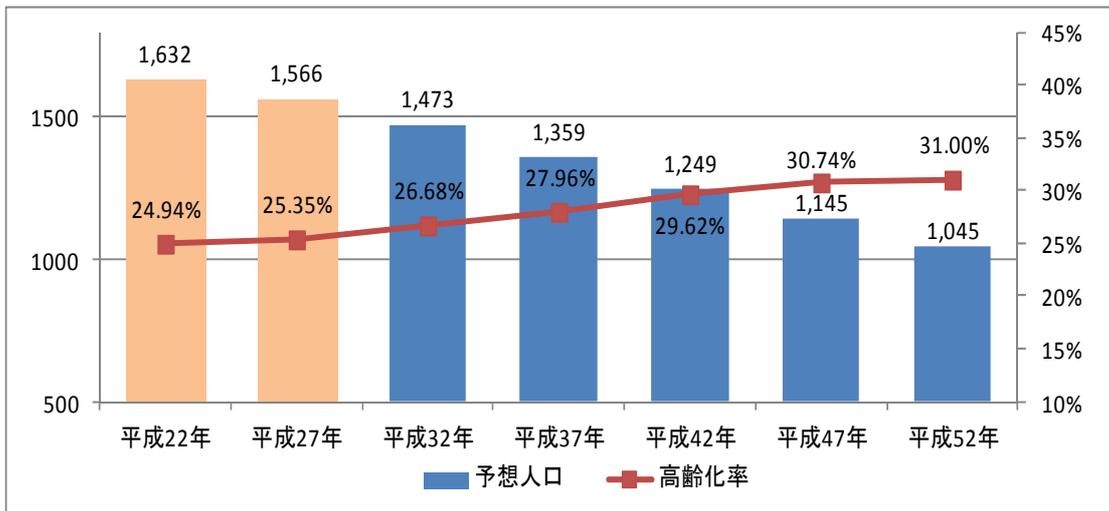
■上風連地区の将来人口推計



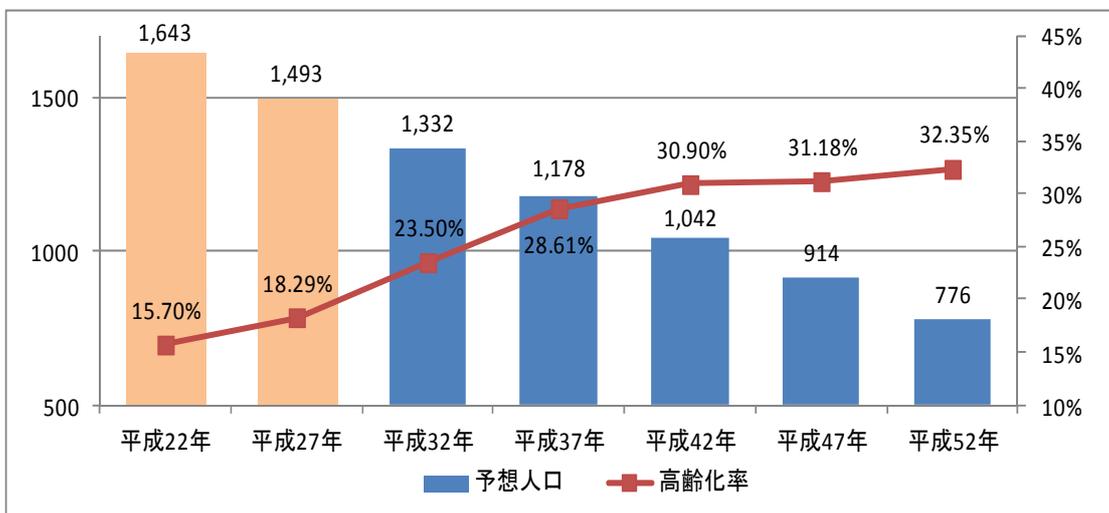
■本別海地区の将来人口推計



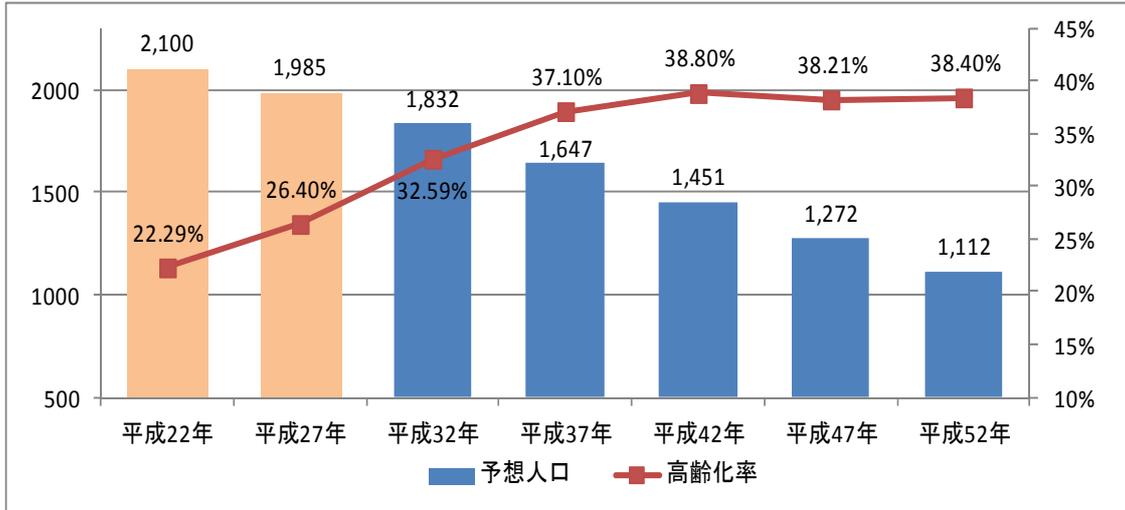
■中春別地区の将来人口推計



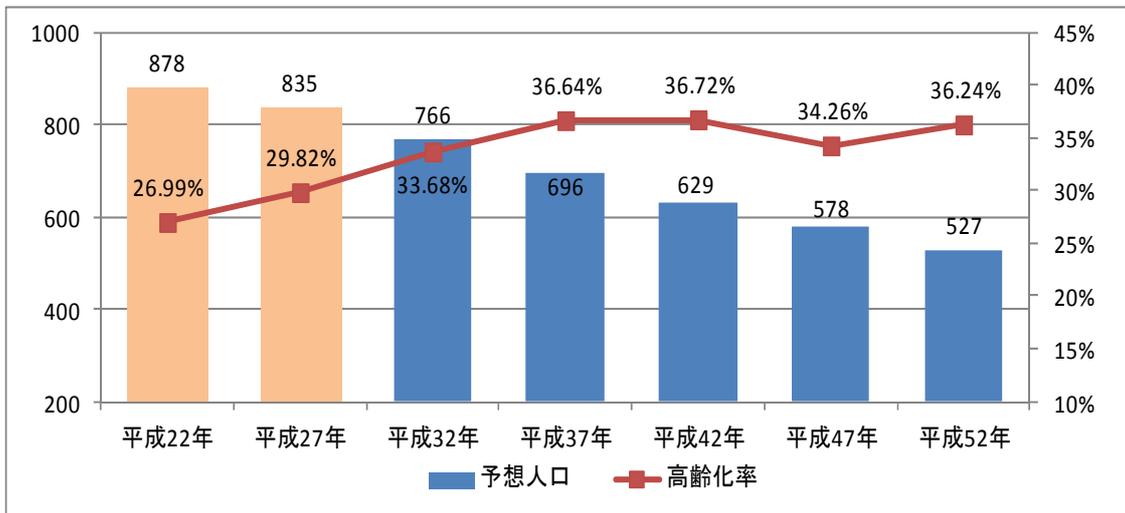
■西春別地区の将来人口推計



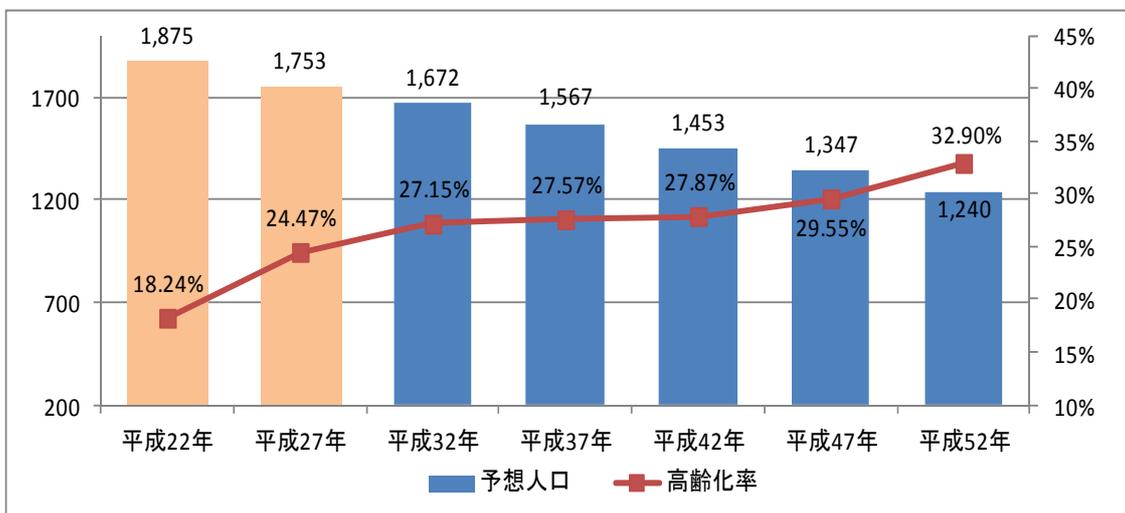
■西春別駅前地区の将来人口推計



■上春別地区の将来人口推計



■尾岱沼地区の将来人口推計



(5)防衛関連施設の概要

本町には、昭和38年からの利用が開始された矢臼別演習場及び昭和40年に発足した別海駐屯地の防衛関連施設が存在します。

中でも、町南部に位置し、釧路管内厚岸町・浜中町にまたがる矢臼別演習場は、東西に28km、南北に10kmあり、総面積16,771.5447haに及ぶ国内最大規模の演習場です。

広大な敷地を利用した最大射程距離18kmに及ぶ射撃訓練では、多連装ロケットによる実弾射撃訓練が可能な国内唯一の演習場となっており、その他にも203mm・155mm榴弾砲、多目的誘導弾、120mm迫撃砲、爆破薬、小火器、各種ヘリコプターによる航空機訓練など様々な内容が実施されています。

また、平成9年度からは、米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散化による実施演習場となるなど、近年は訓練の規模や内容が多様化する状況にあります。

これらの演習は、昼夜を問わず頻繁に実施されることから、騒音や振動などの障害となり、町民生活への影響だけでなく、本町の産業の中核である畜産・酪農業への影響も大きく、これまで多くの対策が継続的に講じられています。

■矢臼別演習場使用状況

年 度	使用人員	使用日数	射撃日数	米海兵隊による訓練の有無
平成22年度	264千人	300日以上	120日程度	大隊規模の訓練を実施
平成23年度	241千人	300日以上	100日程度	実施なし
平成24年度	257千人	300日以上	90日程度	大隊規模の訓練を実施
平成25年度	245千人	300日以上	70日程度	大隊規模の訓練を実施
平成26年度	277千人	300日以上	90日程度	大隊規模の訓練を実施

※使用人員については、延べ人数

■平成26年度に実施された防衛施設周辺整備実績

道路整備事業	根室中部3号主要幹線改良舗装(2地点)
障害防止事業	矢臼別演習場土砂流出対策
農業施設整備事業	西春別地区草地造成改良実施設計
防音事業	上西春別中学校・講堂防音事業実施設計
調整交付金事業	町道改良舗装・実施設計、消防車購入(基金積立)、塵芥収集車・スクールバス・道路パトロール車、消防ポンプ車購入
調整交付金基金事業	福祉施設改築事業(中春別ふれあいセンター)、消防団拠点整備事業(尾岱沼第3分団詰所・書庫)

また、西春別駅前地区にある別海駐屯地は、国内で最も東に位置する駐屯地として、偵察及び警戒を担当する第5偵察隊のほか、前述の矢臼別演習場における年間20万人以上に及ぶ訓練部隊に対する管理及び駐屯地の運営、維持管理を行う業務隊などが駐屯しています。

(6) 自衛隊員等と町民の交流・協力

矢臼別演習場を利用する自衛隊等や別海駐屯地隊員は、本構想の対象エリアである別海地区をはじめ、別海駐屯地のある西春別駅前地区において、様々な交流事業などが実施されています。

■北部方面音楽隊 コンサートツアー2014 別海公演

陸上自衛隊北部方面音楽隊による演奏会が開催され、自衛隊協力会々員や一般町民など320名が来場しました。

町内での実施は、日程等の調整により不定期開催となっているものの、部外演奏支援として地域イベントアトラクション等での出演も多数行われています。

開催日 平成26年8月6日

場 所 別海町中央公民館(別海地区)

■別海駐屯地記念行事

別海駐屯地では、毎年、周年記念行事が開催され、地区内外から多くの方が来場しています。平成27年度は、発足50周年にあたることから、部隊の観閲行進において、陸上自衛隊第5飛行隊のヘリコプターが列するなど例年以上の規模で開催されました。

また、児童のための特設遊具の設置や、地域名産品を使った町内飲食店から出店があるなど、イベントとしても盛会なものとなっています。

来場者 一般町民●●●●名

開催日 平成27年●月●日

場 所 別海駐屯地(西春別駅前地区)

■産業祭出展

別海駐屯地並びに自衛隊帯広地方協力本部 中標津地域事務所では、別海町の秋季最大のイベントである産業祭に出展し、装備車両の展示や活動広報グッズの配布などを行い、活動周知を図っています。

来場者 2日間で約2万人

開催日 毎年10月初旬の土日

場 所 別海町コミュニティーセンター(別海地区)

■別海町パイロットマラソン大会への実施協力

別海駐屯地では、大会実行委員会と協定を結び大会実施時における傷病者発の応急や救命措置、救急車両による医療スタッフ・傷病者の搬送などを自衛隊員が担うことで大会運営を支援しています。

支援員 隊員 10名 車両 3両

参加者 出場選手 1,706名

開催日 毎年10月初旬

場 所 町内(主に別海・中西別地区)

■別海町ウエスタンカーニバル

別海駐屯地のある西春別駅前地区のイベント開催に対し、装備品である車両の展示を行い、自衛隊への理解を促すとともに、隊員の積極的なイベント参加を促すことで、開催を後援しています。

来場者 町民を中心に約2,000名

開催日 毎年8月上旬

場 所 西春別駅前地区

■駐屯地周辺清掃活動

3等陸曹から陸曹長までの陸曹と呼ばれる自衛隊員で構成される別海駐屯地曹友会では、地域交流の一環として、年2回駐屯地周辺の清掃奉仕活動を実施し、より地域環境の充実に貢献しています。

参加者 秋季実施時 126名

実施日 毎年5月、11月

場 所 別海駐屯地周辺の道路

■地域活動、サークル活動指導

別海駐屯地のある西春別駅前地区では、駐屯地隊員や自衛隊OBによる児童・生徒へのスポーツ指導が行われ、地域の社会教育活動が推進されています。

主なサークル指導 サッカー少年団、空手少年団等

■米海兵隊による奉仕活動

米海兵隊による奉仕活動として、町民との交流を深めることを目的に、社会福祉施設訪問等が実施されています。平成27年度は、通所介護施設を訪問し、利用者とのレクリエーションをはじめ、米海兵隊による歌や踊りが披露されました。

参加者 72名

(海兵隊員 25 名、施設利用者 24 名、その他施設運営者等 23 名)

実施日 平成 27 年 12 月 7 日

場 所 デイサービスセンター(別海地区)

また、自衛隊等からの地域への交流や協力だけでなく、自衛隊に地域が協力することで、共通の課題に対して、より具体性のある取り組みが行うことが可能となる場合があります。

平成 27 年度は、北部方面隊が行う災害対処演習に地域住民や自治体等が協力することで、様々な被災状況を仮定した防災訓練が実施されました。

■ノーザン・レスキュー2015

北部方面隊等による災害対処能力向上と即応体制の充実を目的に実施された災害対処演習に対し、本町では、市街地部・海岸部の自治会組織が協力し、孤立した海岸部からの避難者輸送や避難生活を想定した食料炊き出し訓練が実施されました。

2-2、別海町市街地活性化計画について

別海町市街地活性化計画(以下、活性化計画と表記)では、「人がにぎわい」「憩い」「集う」別海町の中心市街地として、別海地区に新たな都市機能の集積を促し、町内における旗艦機能を高め、活性化するべく 3 つの基本方針を掲げています。

(方針 1) 豊かな地域生活の持続

郊外への宅地進出や空洞化する市街地内の対策として、まちなか居住を勧め、コンパクトな生活圏を設定することで、持続可能な生活と地域社会の維持に取り組めます。

【想定される事業】

町有地の宅地化、省エネ防犯灯整備、防災施設整備 等

(方針 2) 地域活動の主役を作る

自分の住む町について考え、より良くするための町民活動を支援することで、長年に渡って暮らす上で重要な地域活動や社会教育の推進、環境整備に取り組めます。

【想定される事業】

社会教育の推進、学習機会の創出、団体活動支援、活動拠点の確保 等

(方針3) 魅力ある商業地域と環境の創出

商工業者が集まり、主要道路に面した町内外の来街者の通過点として重要な位置にある旧別海駅前周辺の再興を促し、地域内再投資を主体とした経済活動を進めます。

【想定される事業】

中小企業等支援、まちづくり団体の推奨、適地適業の推進、サービス能力向上等

また、これらの方針を実現するために、以下の3つ目標を目標と達成すべき数値目標について掲げています。

〈別海地区活性化の基本方針〉

方針1 豊かな地域生活の持続

方針2 地域活動の主役をつくる

方針3 魅力ある商業地域と環境の創出

〈別海地区活性化の目標〉

■目標Ⅰ

定住を促進する

■目標Ⅱ

来街者を増やす

■目標Ⅲ

事業具体化への町民参加

■目標Ⅰ 定住を促進する

- ・別海番外地への宅地進出を抑制するため、別海地区市街地における宅地の分譲や空き家対策など定住促進に向け、良質な住環境と生活を支える官民の取り組みを充実させることで、地域コミュニティと街のにぎわいを担う人口の回復を図ります。
- ・町民の移動手段に合わせて、地区内外の移動や移動先での対応がスムーズになるよう都市機能を集積させたコンパクトなまちづくりを行う。
- ・大規模災害に備え、避難場所となる施設や非常時の物流拠点を整備し、域内における町民生活の安全を確保する。

■目標Ⅱ 来街者を増やす

- ・空洞化する重点地区の再構築を図ることで、町民生活の利便性を向上させ、来街者を増やすことで、住民の持続的な地域での生活を守り、地域内再投資を主体とした経済活動を進める。
- ・北海道らしい豊かな自然と景観の維持に取り組むなど北海道ブランドを

守るとともに、再生可能エネルギー事業など他の自治体が「マネ」することができない地域力を創造する。

■目標Ⅲ 事業具体化への町民参加
 ・今後も町民参加機会を用いた社会資本等の整備は、近年欠かすことのできない視点であり、今後のまちづくりにおける町民活動の高まりに対する布石としても重要です。

なお、活性化計画の策定にあたっては、より多くの町民が「まちづくり」に触れることで、行政と課題を共有するとともに、計画における合意形成と今後の町民活動の広がりを目指し、町民参加による意見聴取機会を行いました。

■市街地活性化計画における町民参加機会

別海町市街地活性化計画 別海地区(原案)へのパブリックコメント

公開日程	平成26年2月5日(水)から3月6日(木)の間(30日間)
閲覧場所	別海町ホームページ及び町内公共用施設 11箇所 周知状況:別海町ホームページ及び広報べっかい
意見数	2名5件
<p>【意見概要】 公民館の設置場所や高齢者の重点地区集住などの市街地活性化策。また、野付半島・尾岱沼など海岸地区の観光プログラムや移住定住策などの交流人口増加策について、いずれも具体的な提案がされました。</p>	

児童・生徒対象「1日町長 ぼくの、わたしのまちづくり学習会」

実施日時	平成26年2月15日(土) 午後1時から午後4時30分
概要	町長講話、委嘱状交付式、記念撮影、グループワーク
参加者数	20名(小学生14名、中学生5名、高校生1名)
講師	水沼町長、北海道地域づくりアドバイザー 神長 敬氏
<p>【成果物等】 現状の課題解決を想定したまちづくり物語を作成。参加者の多くは、高齢化問題や災害への備え、持続可能な地域社会の形成など将来的な課題を選択し、課題の顕在化に備えた中長期的な計画による対策が必要であるなどの提案がされました。</p>	

一般町民対象「まちを知って、まちをつくる 別海“町”学習会」

実施日時	平成26年2月24日(月)、4月11日(金)、4月25日(月) 午後7時から午後9時まで
概要	計画説明、講演、グループワーク

参加者数	延べ 88 名(一般町民)
講 師	北海道地域づくりアドバイザー 神長 敬 氏
<p>【成 果】 別海市街地の現状と課題、他自治体におけるまちづくり事例について知ること、町民ニーズの顕在化と目指すべき姿について検討を実施。具体的な例として、町民活動と公民館施設機能の関連性について検討・提案がなされ、まちづくり活動の拠点として(仮称)生涯学習センターが果たす役割への期待が伺える結果になりました。</p>	

まちづくり活動報告会(べつかいまちづくりフォーラム)

実施日時	平成 26 年 2 月 8 日(土) 午後 1 時から午後 4 時 30 分まで
概 要	講演、パネルディスカッション(事例報告)、公募型補助金相談会
参加者数	55 名(一般町民の他、公募型補助金活用団体、各地区生涯学習推進協議会、ボランティア活動団体、地縁団体、自治推進委員、教育関係者)
講 師	札幌国際大学 教授 吉岡 宏高 氏
<p>【成 果】 講演では、他の自治体における住民の取り組みとその必要性について学び、現状の課題解決への手法について知る機会とした。また、町内事例の報告では、会員数の減少や高齢化、施設維持など活動に係る資金捻出の問題など、まちづくり活動を行う団体からその現実と目指すべき姿について報告がされました。</p>	

別海町商工会会員向け説明会

実施日時	1)平成 26 年 6 月 26 日(木) 午後 2 時 30 分から午後 3 時 30 分まで 2)平成 26 年 6 月 30 日(月) 午後 7 時 30 分から午後 9 時 00 分まで
概 要	計画説明、質疑応答
参加者数	延べ 38 名
<p>【質疑内容】 道路拡幅や空洞化対策等の具体策の実施に加え、市街地活性化策における専門所管部署の創設要望があった。また、商工会自身で現在検討している市街地活性化策の実現に向けた共同体制の提案がされました。</p>	

2-3、上位計画等について

(1)第6次別海町総合計画

第6次別海町総合計画では、まちづくりの将来像として「笑顔あふれる豊かさ実感のまち ベつかい」として掲げ、物質的な豊かさだけでなく、協働や共助といった地域のつながりを重視した精神的な豊かさを求めたものとなっています。

中でも、まちづくりのテーマのひとつとして掲げられた「協働と自立」は、地方分権時代における自治体運営について、町民と行政、さらには多様な主体がそれぞれの役割と責任をもって進める協働について強く進め、今後の自立したまちづくりを強く打ち出したものとなっています。

■関連する主要事業(教育・福祉関連)

中央公民館(仮称:生涯学習センター)の建替え検討	町民のニーズに応える(仮称)生涯学習センターの建替え検討を行います。
学校応援ボランティア	様々な知識や技能を持つ地域の「人材」を登録・リスト化し、ボランティアとして学校に派遣します。
地域子育て支援	子育て支援センターを拠点とし、「出張子育て親子の交流の場」の実施など地域における子育て支援の充実を図ります。 児童館や放課後児童クラブの充実を図ります。
地域福祉の拠点整備	地域福祉の拠点となる施設整備の検討を行います。

■関連する主要事業(生活関連)

町民憩いの森公園整備事業	町民の憩いと安らぎ、交流、ふれあい、子どもの楽しい遊び場としての機能を有する公園整備を行います。
町立公園遊器具等補修事業 児童遊園地遊具等整備事業	公園施設・設備の点検及び改修を計画的に行います。

■関連する主要事業(防災関連)

要援護者支援	災害時の避難支援体制整備のため、要援護者マップを作成します。
災害用備蓄資機材整備事業	災害時の避難生活で必要とする防災用品(食糧・飲料水・毛布)を購入します。

避難施設建設事業	本別海地区に避難所を建設します。 野付半島に災害時の一時避難施設を建設します。
災害時要援護者避難支援プランの推進	災害時用要援護者避難支援プランを活用し、横断的な避難支援体制を整備し運用を推進します。
個人住宅耐震改修の推進	町民の安全・安心を確保し、地震発生時の住宅の倒壊などによる被害を軽減するため、耐震改修費用の一部を補助し、既存住宅の耐震改修の推進を図ります。

■ 関連する主要事業(協働関連)

別海町自治基本条例に基づく協働のまちづくりの推進	別海町自治基本条例で定める「情報共有」と「町民参加」による積極的な住民参画の機会の拡充に努め協働のまちづくりを推進します。
べっかい協働のまちづくり推進事業	地域社会や経済に活性化を与え、広く町民参加が見込まれる公益性のあるまちづくり活動を支援します。 また、協働のまちづくり活動が継続して行われ、地域・社会へ貢献する事業、地域の人材育成などについても支援します。
社会資源の創造と活用	各種福祉活動団体などとの懇談会の実施により、地域や住民との連携を図ります。

■ 関連する主要事業(市街地整備関連)

土地利用計画の策定	本町の土地利用に関する総合指針として、住民参画のもと、土地利用の方向性（ビジョン）を示した土地利用計画の策定に向けて取り組みを進めます。
景観計画の策定	景観に配慮したまちづくりを進めるため、町民意識の高揚を図りながら土地利用計画などとリンクした景観計画の策定を進めます。
別海町市街地活性化計画の策定	市街地の空き店舗や未利用地の総合的な利用計画を策定し市街地の活性化に取り組みます。
道路整備事業	町道の整備を計画的・効率的に進めるための道路整備計画に基づき取り組みを進めます。
町道等維持補修事業	道路・橋梁・排水などの維持補修を行い、安全で快適な道づくりを進めます。

別海町振興奨励防犯灯整備事業	各町内会で行う防犯灯（省エネ防犯灯を含む）の設置や電気料などの維持費に対し補助を行います。
----------------	---

■ 関連する主要事業(商工業関連)

滞在型・通年型観光推進の取り組み	本町の「食のブランド」を向上させ、都市との「人・モノ・情報」交流の活性化を図り、通年を通して別海町の食と観光PRを実施します。 また、観光客の集客やまちのPRに取り組む事業に対して支援します。
起業家支援事業	新たな創業や新分野に進出する事業者、古くなった店舗の改修及び空き店舗への入居によって店舗の魅力づくりを図る事業者に対して開業経費の一部を支援し、町内での起業と雇用を促進します。
にぎわい商店街創造事業	商店街への誘客、販売促進、イメージアップ等商店街の活性化を図る団体等に対し経費の一部を助成します。

(2) 別海町防災計画

本町の防災に係る計画は、別海町地域防災計画(平成26年4月策定 以下、防災計画と表記)として示され、その他に別海町地域防災計画資料編や別海町防災避難マップなどが附帯しています。

本構想の対象地区である別海地区に係る防災関連機能としては、災害対策本部が設置される別海町役場庁舎、町民体育館や各校種学校が避難所としても設定されているほか、中央公民館、給食センターが炊き出し施設として指定されています。

なお、個々の災害種別に対して設置が必要な緊急避難場所としては、海岸部から遠く離れ津波の到達も想定されないことから特段に設けられていません。

■ 地域別防災避難施設一覧

地区名	施設名	収容人数	地区名	施設名	収容人数
別海	別海町役場庁舎 (災害対策本部)	680	尾岱沼	尾岱沼地域センター	730
	別海町体育館	1,480		別海町東公民館	660
	別海町交流館	600		野付中学校	410
	北海道別海高等学校	4,550		野付小学校	380
	別海中央中学校	1,390	本別海	本別海地域防災センター	287
	別海中央小学校	2,820		別海中学校	180
中西別	中西別ふれあいセンター	380	西春別 駅前	別海小学校	160
	中西別中学校	1,310		西春別ふれあいセンター	660
	中西別小学校	220		上西春別中学校	1,240
中春別	中春別ふれあいセンター	350	西春別	上西春別小学校	2,330
	中春別中学校	1,120		西春別体育館	730
	中春別小学校	380		西春別地域センター	470
上春別	上春別地域センター	490	上風連	西春別中学校	410
	上春別中学校	240		西春別小学校	380
	上春別小学校	410		上風連地域センター	460
走古丹	走古丹地域防災センター	490	上風連	上風連中学校	400
床丹	床丹地域防災センター	200		上風連小学校	220

また、別海町耐震改修促進計画では、災害時に学校や公民館、地域会館などを避難場所として活用することを想定し、建築物の耐震改修の促進に関する法律に掲げられた規模や用途に応じ、特定建築物の平成27年度までに9割の施設が達成することを目指しており、平成27年2月現在、改築や耐震改修の予定も含め、およそ9割の避難収容施設が耐震化される見通しとなっています。

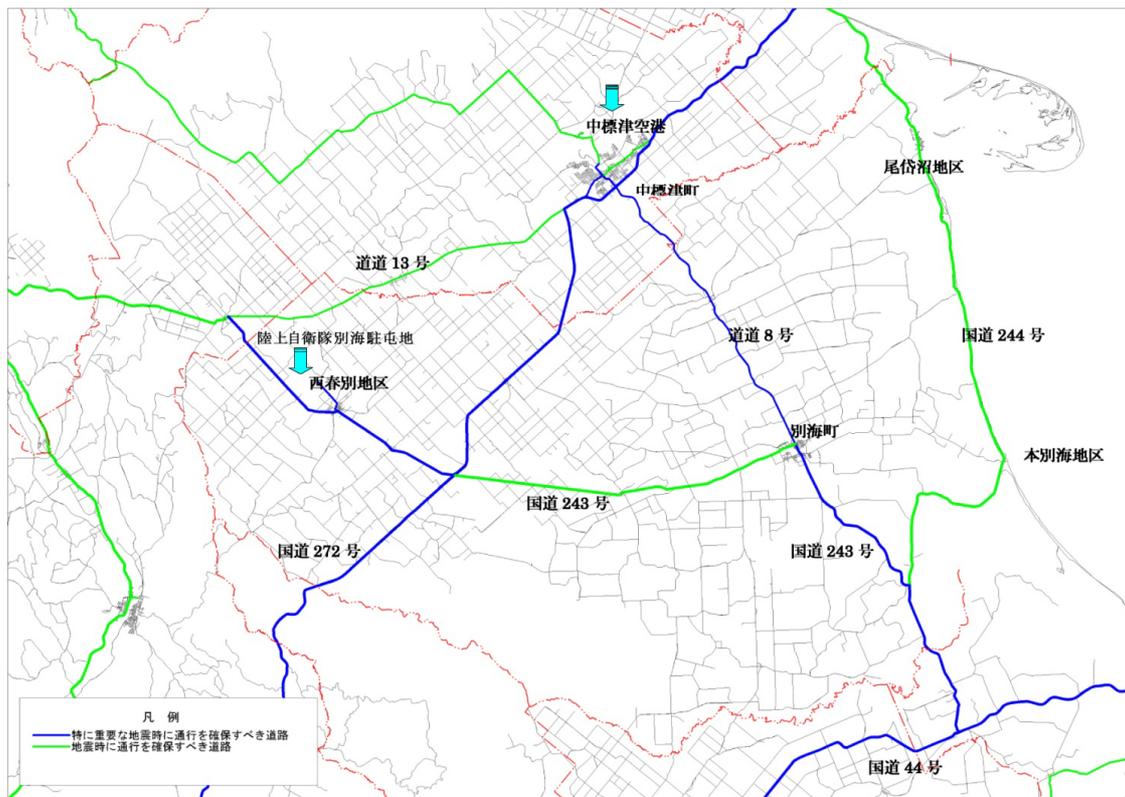
しかしながら、町内でもっとも多い11,520人の避難者収容を想定している別海地区の状況としては、炊き出し施設として設定されている学校給食センター、中央公民館のいずれも現行の耐震強度を満たした状態になく、建設から45年以上が経過していることから、災害時に十分その能力を発揮することが難しいことが想定されます。

この他にも別海地区には、前述の給食センター、中央公民館の2施設の他に、昭和46年、或いは昭和56年以前の建築基本法改正以前に建てられた建築物の中で、不特定多数が利用する公共建築物である別海町郷土資料館や、一般行

政財産として貸付を行なっている社会福祉センター、地域活動団体施設等では、改築や廃止を前提に検討が進められた経緯から、具体的な進捗がないまま現在も使用されている状況にあります。

その他の計画としては、北海道地域防災計画において地震発生時に確保すべき道路として、西春別駅前にある陸上自衛隊別海駐屯地を中心として、隣接する中標津町を含め位置づけ、災害時における救護や復旧における交通網を確保するよう取り組まれています。

■北海道地域防災計画における震災時に交通を確保すべき道路

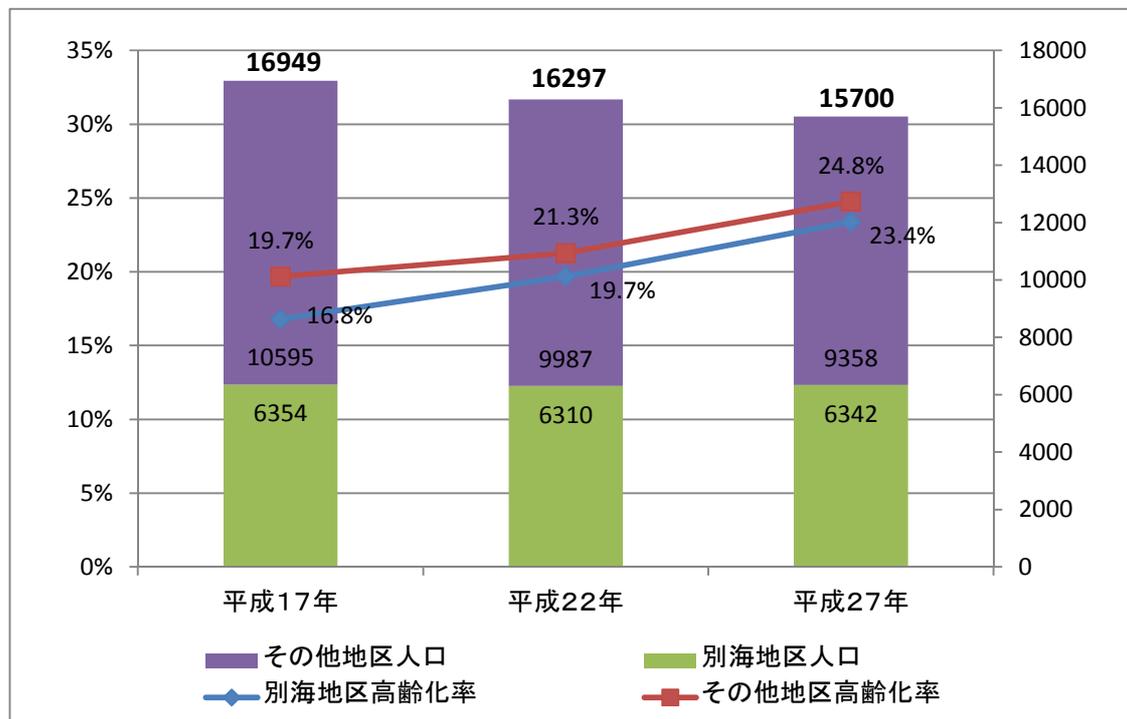


2-4、構想対象エリアの位置づけ

別海地区は、平成元年に廃止となった旧別海駅周辺を中心に小売業や飲食業などが集積しており、一般的に都市のにぎわいを創出する商業者が集まった地域になっています。

特に別海地区は、人口減少が続く本町の中でも、唯一維持・増加傾向にあり、平成27年度現在において町内人口の約4割が居住する本町の中心的な市街地と位置づけています。

■別海地区とその他の地区との人口比較



■主要3地区における産業別事業所設置割合

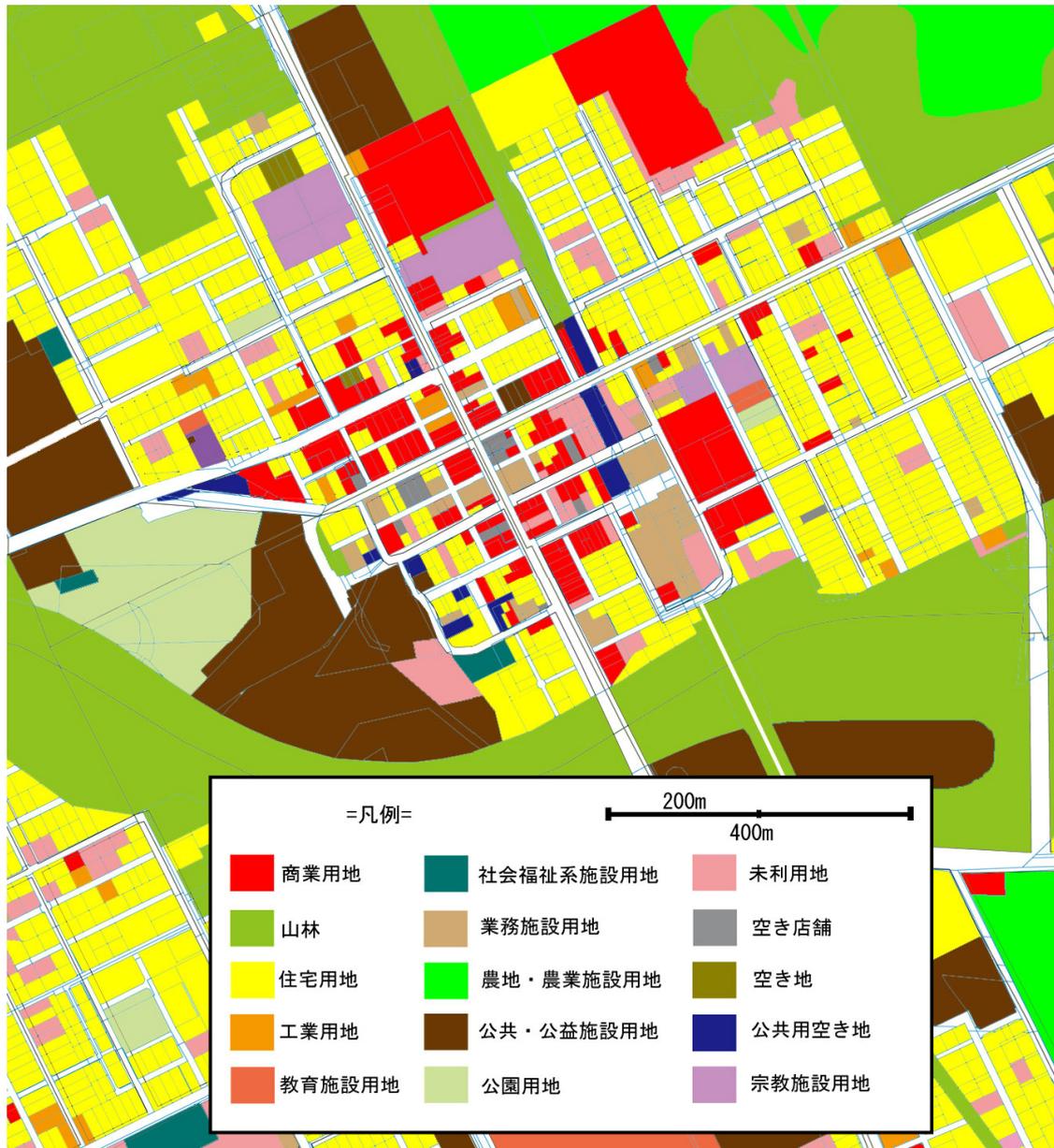
	第一次産業	第二次産業	第三次産業
別海地区	10%	16%	75%
西春別駅前地区	6%	13%	81%
尾岱沼地区	2%	21%	77%

資料：平成21年度経済センサス

■主要3地区における産業別従業員割合

	第一次産業	第二次産業	第三次産業
別海地区	8%	18%	73%
西春別駅前地区	8%	17%	75%
尾岱沼地区	1%	63%	35%

■旧別海駅前周辺の土地利用状況



※平成25年8月末時点

また、別海地区の中でも、別海町役場や中央公民館、病院などの公共公益施設は、比較的狭い地域に集積されており、利便性の高いものとなっています。

ただし、一度に多くの人が集まる町民体育館や陸上競技場、各種のイベント会場となるコミュニティーセンター及び農村広場は、来街者の利用する交通手段の大半が自家用車である状況を考慮して、多数の駐車場を確保できるよう別海地区の中でも外延部に設置されています。

■別海地区におけるイベント一覧

月	イベント	場所	主催・主管
	別海町商工青年夏まつり	別海町交流館 ぶらと前広場	別海町商工会
8月	各種ビアパーティー	別海町交流館 ぶらと前広場	商工業者団体
	福祉まつり	別海町交流館 ぶらと前広場	別海町社会福祉協議会
9月	別海マルシェ サンデーランチマーケット	別海町交流館 ぶらと前広場	別海町観光協会
	別海町産業祭	農村広場	別海町産業祭実行委員会
10月	別海町パイロットマラソン 大会	別海町 陸上競技場	別海町パイロットマラソン実行 委員会
11月	別海町文化祭	中央公民館	別海町
1月	新年交礼会	別海町役場	別海町、別海町内会連絡協議会
	別海消防団出初式	別海市街地	別海消防署/別海消防団
2月	ふゆとぴあ in BETSUKAI	農村広場	ふゆとぴあ in BETSUKAI 実行委 員会

3、構想対象エリアの現状と課題

3-1 構想対象エリアの現状

本構想における対象エリアである別海地区は、本町の中心地と移転となつてから70年余りが経過していますが、その背景には酪農業の台頭があつたことは明白です。

特に、国策として実施されたパイロットファーム建設は、酪農業に従事する人間だけでなく開墾に携わる土木作業や農業施設整備などの建設特需を起し、昭和35年本町の人口は2万人を超えました。続く昭和44年に新全国総合開発計画で示された大規模畜産基地建設構想「新酪農村事業」では、それまで手付かずの原野であつた別海町中南部地域が広く開発されたことにより、別海町全域への人口流入が果たされることとなりました。

この二度に渡る大規模な開発事業によって、別海地区は本町における中心的な地域として、酪農業に必要な道路開発を行う土木建設業や生乳出荷に必要な運送業などの関連分野が集まることで商工業の基礎を築きました。

国内を代表する生乳生産地となつた本町には、生乳の製品化若しくは一次加工品とするための乳業工場が進出し、工業に係る人口流入と消費活動が、別海中心市街地の商業の更なる発展に寄与してきたと考えられます。

これらの酪農業・水産業は、生産高とそれに伴う移出産業による外貨獲得能力・訴求力など様々な面において本町経済の主流となっています。

特に別海地区にある雪印メグミルク株式会社 別海工場、西春別地区にある株式会社明治 西春別工場、森永乳業株式会社 別海工場における日本三大乳業メーカーの存在は大きく、全道的に見ても町村として製造品出荷額2位、現金給与総額でも12位に位置し、非常に大規模なものとなっており、根室管内での比較においても製造品出荷額2位である根室市との差は100億円近くあり、工業都市として別海町の大きさは際立ったものになっています。

3-2、構想対象エリアの課題

構想対象エリアの課題については、「別海町市街地活性化計画」で整理した内容を以下に課題としてまとめました。

①拡大する住宅域の位置づけ

- ・別海地区は、**人口の減少が続く本町の中でも唯一の増加傾向にあり、核家族化や離農者が転居してくるにより住宅域が拡大しています。**今後のまちづくりにおいて**市街地を**どのように位置づけ（コンパクト化やまちなか居住）

ていくかが課題となっている。

②市街地のコンパクト化

- ・高齢化が進み、車社会に対応できない町民や市街地における生活を望む町民が増えていくことが予想されるため、町民が自立した生活を営めるよう、重点地区へ隣接した地域や別海市街地内でどのように集約化（コンパクト化）を図っていくかが課題となっている。

③消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化

- ・近隣自治体に建設された大型店舗への消費購買力の域外流出と中小小売業等の衰退が著しく、商店街の活性化が課題となっている。

④空き店舗や未利用地の有効活用

- ・上記の状況により、空き店舗や未利用地の増加にどのように対処していくかが課題となっている。
- ・旧別海病院跡地や老朽化した公共施設の建て替え計画などに加え、道東あさひ農業協同組合事務所の移転や、Aコープ店舗の廃業に伴う未利用地などをどのように活用していくかが課題となっている。

⑤来街者の増加、回遊性や滞留時間の向上

- ・案内表示や情報掲示板、パンフレットなど来街者に対するサービスが不足しており、来街者が町内各所に円滑に移動することが困難である。

⑥交流拠点、防災拠点となる施設の整備

- ・中央公民館の老朽化による建て替えについて、新たな交流拠点、防災機能拡充のため、生涯学習センターの整備が求められている。

⑦災害時の避難場所の確保

- ・大規模災害時の避難場所や、他の地域からの2次避難受け入れや物資の供給拠点の整備が課題となっている。

⑧防衛関連施設との関連性

- ・防衛関連施設に係る障害に対する十分な安全性の確保が課題となっている。
- ・自衛隊員等が持つ能力を生かした交流や学習会等を通じて町民理解を深め、まちづくりの担い手となれる環境の醸成が課題となっている。

4、構想策定の経緯

4-1、まちづくり構想策定の進め方

本構想の策定については、関係団体の代表者と町民で組織する住民懇話会の設置や町民アンケートを実施するなどし、町民意見の収集に努めています。

また、庁内には横断的な検討体制を構築し構想策定を進めています。

■町民参加機会と検討体制について

会議体	構成メンバー	回数等
住民懇話会	関係団体の代表者及び町民	●回
町民アンケート	町民から 2,500 名を無作為抽出	1 1 月から 1 2 月
まちづくり住民大会	全町民	2 月
パブリックコメント	全町民	2 月～ 3 月
防災関係機関の会議	北海道開発局、自衛隊、北海道 北海道警察等	1 回
検討委員会	副町長、教育長、総務部長、福祉部長、産業振興部長、建設水道部長、教育部長、会計管理者、病院事務長、農業委員会事務局長、議会事務局長及び監査委員事務局長、別海消防署長等	5 回

4-2、まちづくり構想策定の実施状況

■住民懇話会の状況

	開催日	主な内容	開催の様子
第 1 回	平成 27 年 12 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・辞令交付 ・構想の概要説明 ・アンケート結果（中間報告） ・こうありたい別海町の将来像（意見交換） 	

第 2 回	平成 28 年 1 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回住民懇話会の振り返り ・アンケート結果の報告 ・構想で大切にしたいこと (ワークショップ) 	
第 3 回	平成 28 年 2 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回住民懇話会の振り返り ・構想 (素案) ・構想を考えよう (ワークショップ) 	第 3 回写真

■その他町民意見の収集機会の状況

開催日等	内容	実施状況
平成 27 年 11 月 20 日 から 12 月 11 日まで	<ul style="list-style-type: none"> ・町民アンケート (無作為抽出 2,500 名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答数 868 通 ・回答率 34.72%
平成 28 年 2 月 12 日 から 3 月 14 日まで	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見者数 ●人 ・意見数 ●件
平成 28 年 2 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり住民大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 ●人

■防災関係機関の会議の状況

開催日	主な内容
平成 28 年●月●日	<ul style="list-style-type: none"> ・構想の概要説明 ・

■まちづくり構想検討委員会

	開催日	主な内容
第 1 回	平成 27 年 7 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> ・構想の概要説明 ・構想の業務委託
第 2 回	平成 27 年 11 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回検討委員会以降の経過報告 ・町民参加の進め方 <ul style="list-style-type: none"> (1) 住民懇話会の設置 (2) 町民アンケート (3) パブリックコメント (4) まちづくり住民大会

第 3 回	平成 28 年 1 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ・町民参加の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 住民懇話会（中間報告） (2) アンケート結果（中間報告） ・今後の取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1) まちづくり住民大会 (2) 防災関係機関の会議
第 4 回	平成 28 年 2 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ・町民参加の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 住民懇話会報告 (2) アンケート結果報告 ・構想（素案） ・今後の取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1) パブリックコメント (2) まちづくり住民大会 (3) 防災関係機関の会議
第 5 回	平成 28 年 ●月●日	<ul style="list-style-type: none"> ・町民参加の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) パブリックコメント (2) まちづくり住民大会 ・防災関係機関の会議実施報告 ・構想（案）

5、アンケート調査の実施

5-1、アンケート調査の概要

■調査の目的

町民からの発意と行動に基づくまちづくりに取り組むため、住民参加機会の一環として、町民の視点から見たまちづくりの課題を明らかにし、総体的な住民要望を確認するとともに、現在建設が計画されている生涯学習センター及び防災食育センター建設に向けた種々の取り組みにおける意義を高めることを目的とする。

また、基本構想の策定にあたり、別海町民が市街地に対してどのようなイメージを持っているのか、また既存施設や商店街利用の状況、災害に対する備えやニーズ、自衛隊の地域貢献などについてどのような状況になっているのか、意見傾向を把握し、構想策定に反映させる事を目的とする。

■調査の対象者

18歳以上の別海町民の内、無作為抽出による2,500名

【抽出条件】

- ①平成27年11月1日現在、別海町民として住民記録のある者
- ②平成27年3月31日時点で、満18歳以上の者

【抽出方法】

- ①乱数を用いた抽出番号の生成
- ②発送日3日前に、異動者一覧表による死亡及び転出者を確認し、不足の場合には次点者を繰り上げて対象者とする。

■調査方法

アンケートの送付は、日本郵便株式会社を用いて実施することとし、送付に当たっては、役場指定の角形2号定形外封筒を用い送付する。

■調査実施期間

調査票の発送時期：平成27年11月20日（金）

調査票の回収期限：平成27年12月28日（月）

■調査項目

- ・回答者属性
- ・別海町での生活について
- ・既存施設の利用状況について
- ・今後の別海町・別海地区の目指すべき姿について
- ・災害に備える 減災のまちの実現について
- ・自衛隊の地域貢献等について
- ・より多くの人々が住むまちを目指して
- ・まちのにぎわいを目指して

■発送数、回収数

アンケート発送数：2,500件

有効回収数：868件

アンケート回収率：34.7%

■その他

【まちづくり構想住民懇話会委員の確保】

経済団体や庁内諮問機関からの参加が多い住民懇話会の構成に配慮して、多様な層の町民意見を収集するため、アンケート回答者の中から5名を上限に住民懇話会委員を募るものとし、決定の方法は別に定める。

5-2 アンケート調査の結果

(1) 回答者属性

1) 年代と性別

性別は、「女性」が52.3%、「男性」が46.5%と、あまり変わらない。

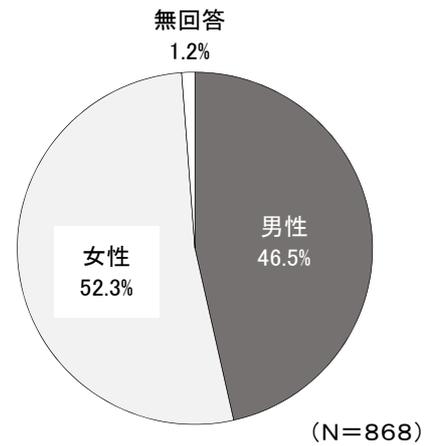


図2-1 性別

年代は、「60代」が22.5%と最も多く、次いで、「70歳以上」19.6%、「50代」18.8%、「30代」15.8%、「40代」14.5%、「20代」7.4%となっている。

『60歳以上』は全体の4割以上を占める。

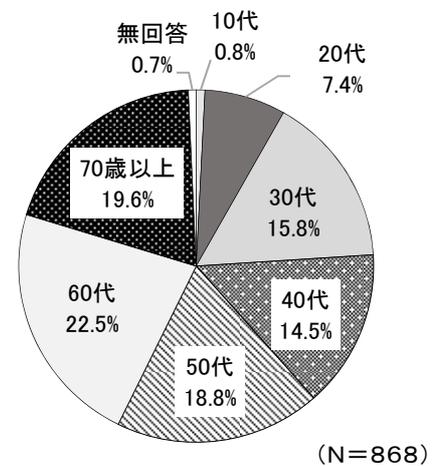


図2-2 年代別

性年代別では、「60代女性」が11.4%と最も多く、次いで、「60代男性」10.8%、「50代女性」10.6%、「70歳以上男性」10.3%、などとなっている。

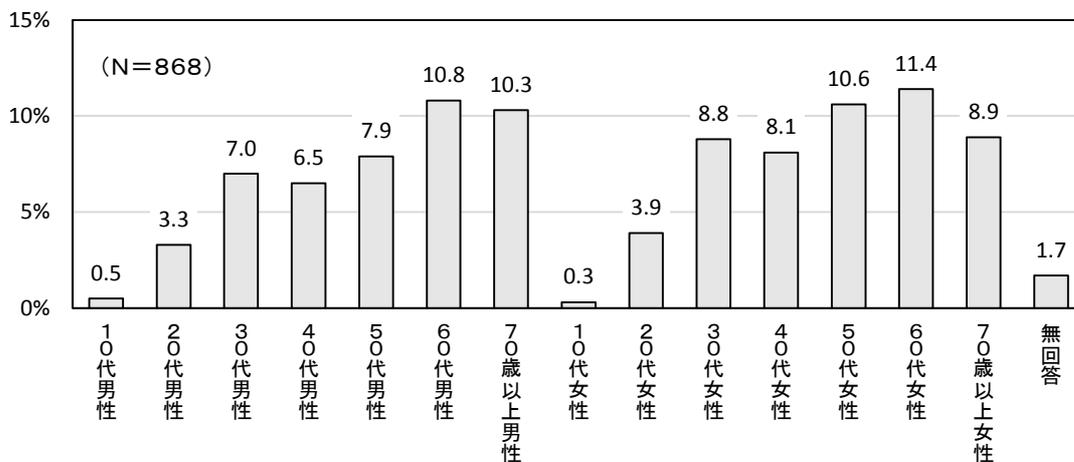


図2-3 性年代別

2) 職業別

職業別では、「**その他サービス業（公務員含む）**」が23.6%と最も多く、以下、「**農林水産業**」20.6%、「**無職**」20.0%、「**主婦（夫）**」17.2%、「**製造業、建設業**」7.0%などとなっている。

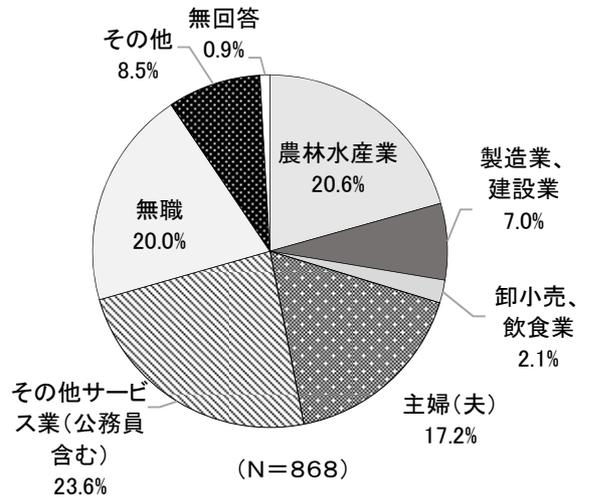


図2-4 職業別

3) 居住歴

居住歴は、「**道内の他の市町村から転入してきた**」が32.4%と最も多く、以下、「**生まれてから、別海町にずっと住んでいる**」27.4%、「**別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある**」24.4%、「**道外の市町村から転入してきた**」14.6%となっている。

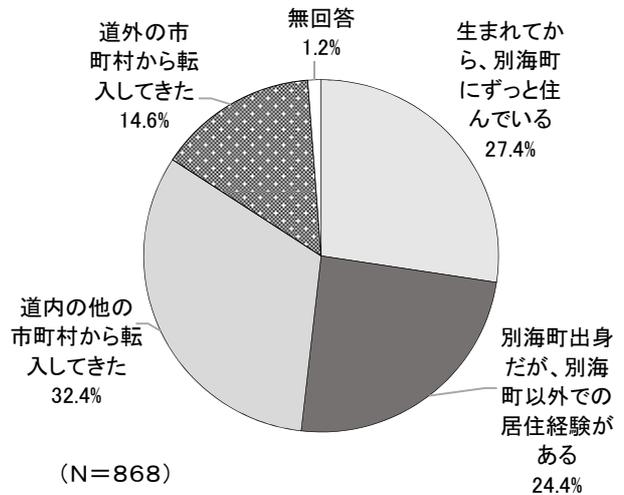


図2-5 居住歴

4) 現居住区

居住区別では「**別海地区**」が4割以上を占め、他地区を大きく上回っている。以下、「**西春別駅前地区**」10.9%、「**尾岱沼地区**」8.5%、「**中春別地区**」「**西春別地区**」ともに6.1%などとなっている。

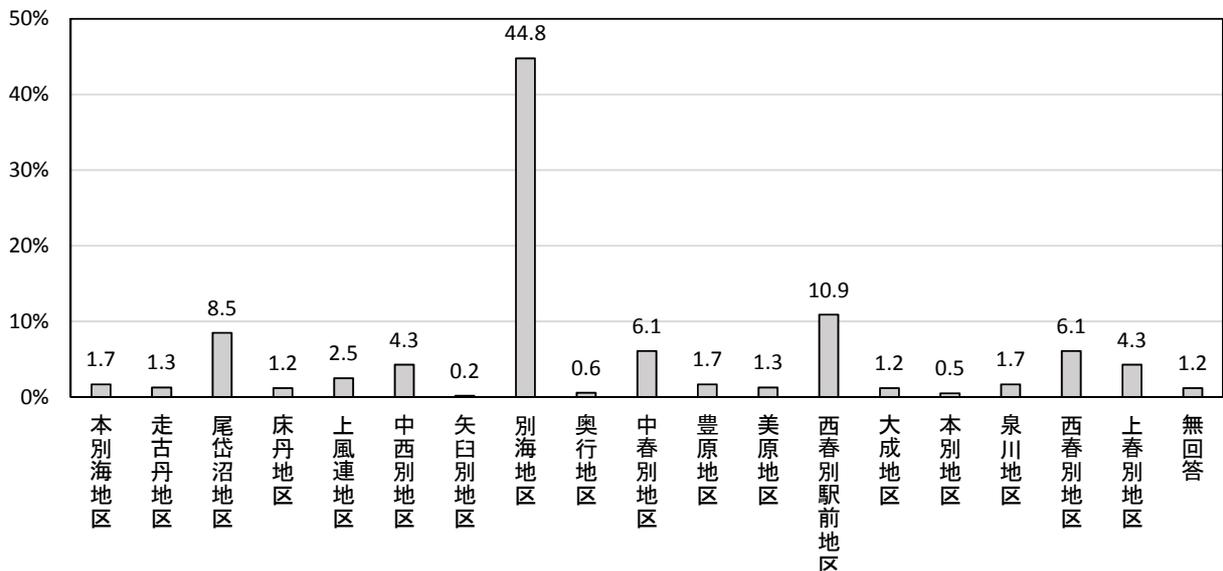


図2-6 現居住区

5) 居住形態

居住形態別では「一戸建持ち家」が7割以上を占めている。以下、「社宅・寮」9.3%、「公営住宅」5.2%、「民間の賃貸住宅（アパート等）」4.5%、「一戸建借家」3.8%などとなっている。

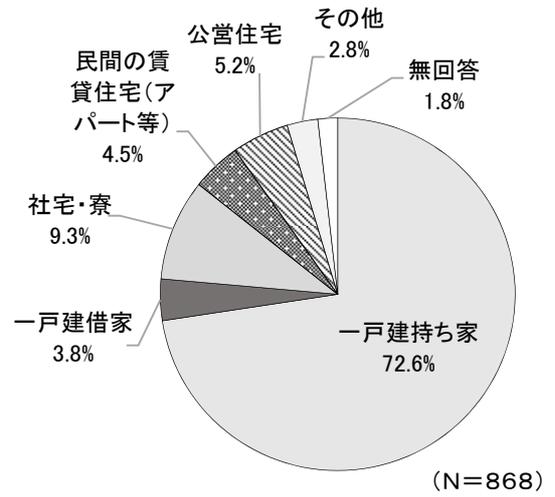


図 2 - 7 居住形態

6) 別海町居住年数

別海町居住年数別では「20年以上」が7割以上を占めている。以下、「20年未満」10.8%、「10年未満」6.1%、「5年未満」4.4%、「3年未満」3.9%「1年未満」1.4%となっており、8割以上の人が『10年以上』別海町に住んでいる。

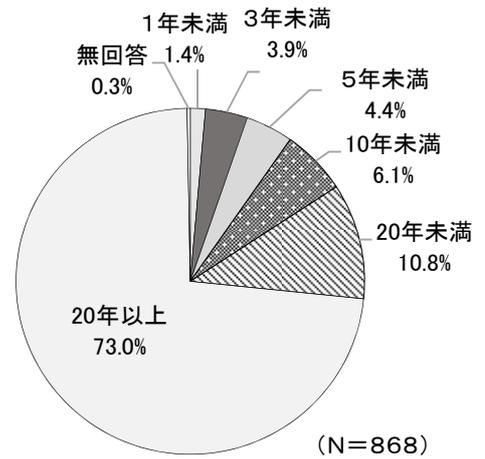


図 2 - 8 別海町居住年数

(2) 別海町での生活について

1) 別海町での生活について

次の(1)～(12)の項目について、あなたのお考えに近いものをお聞かせください。
(1つだけに○)

別海町での生活について尋ねたところ、「(1) 公共施設が充実している」「(6) クルマが利用しやすい」「(10) 今後も別海町に住み続けたい」「(11) いま住んでいる家の満足度」「(12) いま住んでいる地域は、環境が良い」の5項目については4割以上の方が「そう思う」と回答しており、特に「(6) クルマが利用しやすい」は6割近くを占めている。

一方、「(4) 公共交通機関に満足」「(8) レジャー施設が充実している」「(9) 他自治体から人が訪れる魅力を持ったまち」の3項目については4割以上の方が「そう思わない」と回答しており、特に「(8) レジャー施設が充実している」は半数以上となっている。

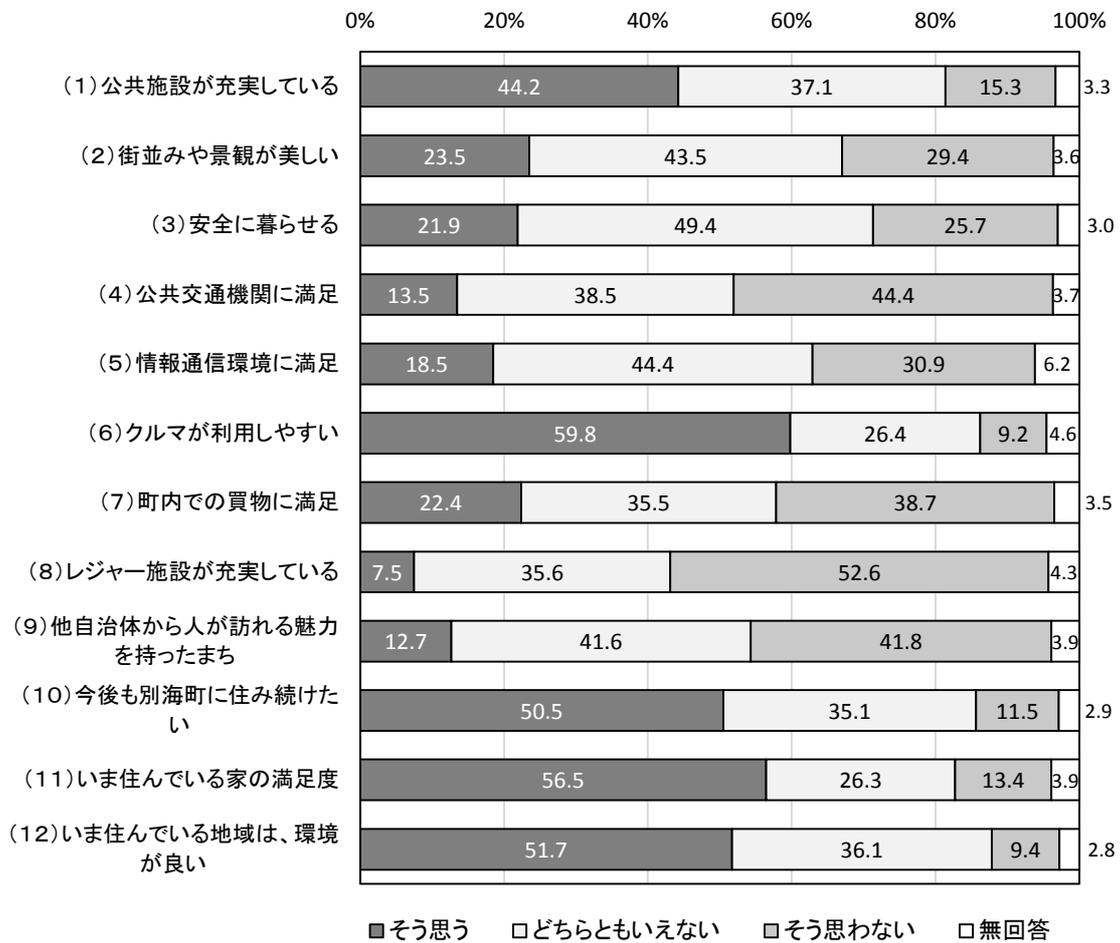


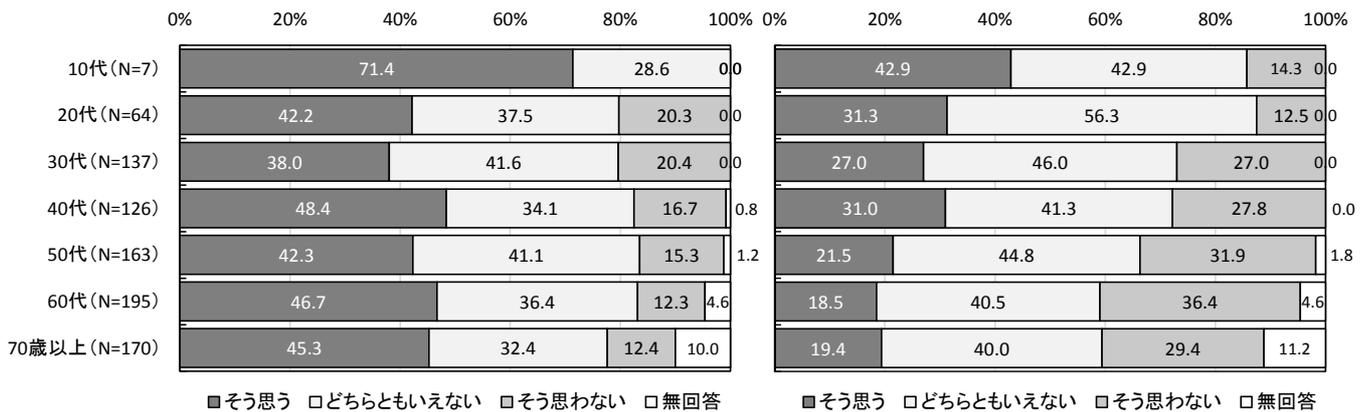
図2-9 別海町での生活について

年齢別にみると、「(2) 街並みや景観が美しい」は20代・40代で3割以上の人が「そう思う」と回答している。「(3) 安全に暮らせるまち」は年齢が高くなるにつれて「そう思う」と回答する割合が多くなる傾向がみられる。「(6) クルマが利用しやすい」は全年代で半数以上、「(10) 今後も別海町に住み続けたい」では60代以上で半数以上、「(11) いま住んでいる家の満足度」では30代以上の半数以上が「そう思う」と回答している。

一方、「(4) 公共交通機関に満足」では40代・50代で半数以上、「(5) 情報通信環境に満足」では20代～30代で4割以上、「(7) 町内での買物」では20代・30代・50代で4割以上、「(8) レジャー施設が充実している」では20代～50代で6割以上が「そう思わない」と回答している。

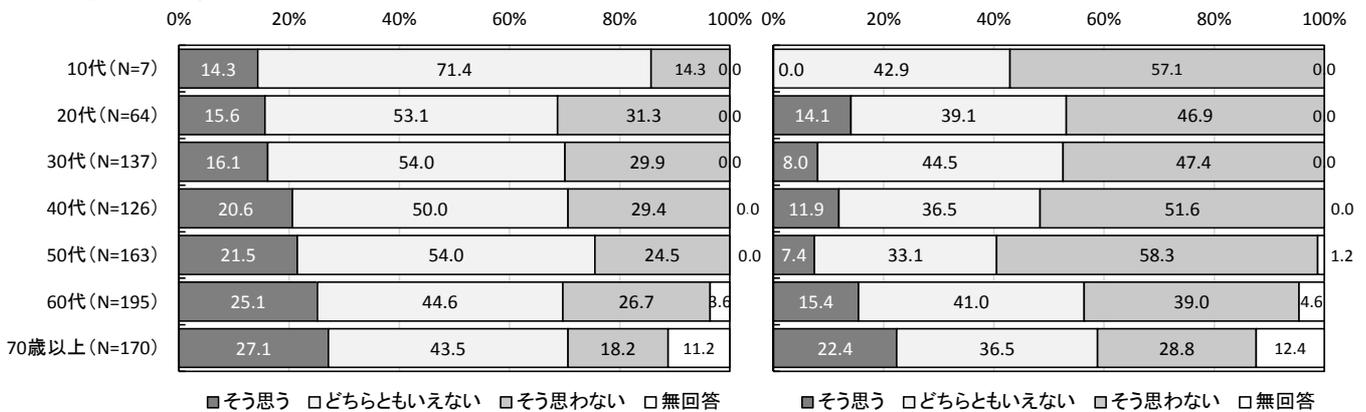
①公共施設が充実している

②街並みや景観が美しい



③安全に暮らせる

④公共交通機関に満足



⑤情報通信環境に満足

⑥クルマが利用しやすい

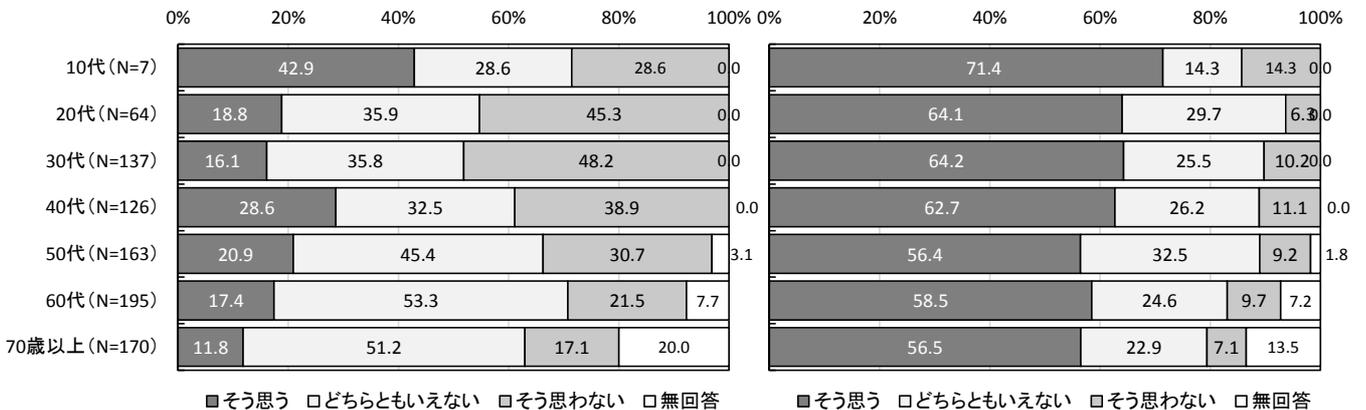
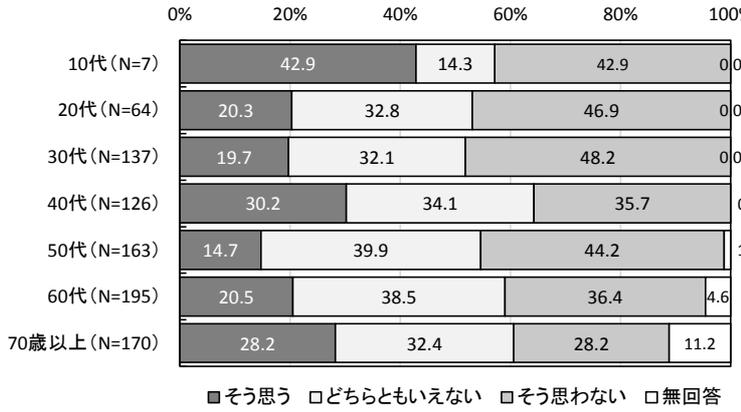
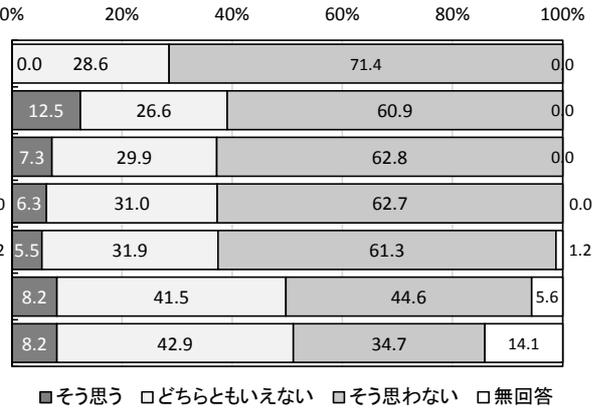


図 2 - 1 0 別海町での生活について (年代別)

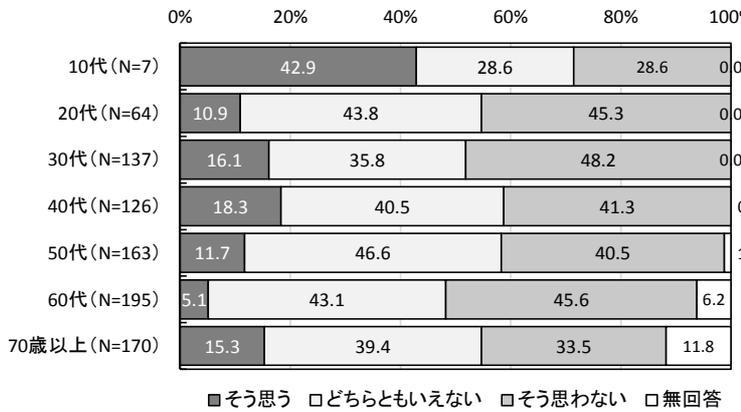
⑦町内での買物に満足



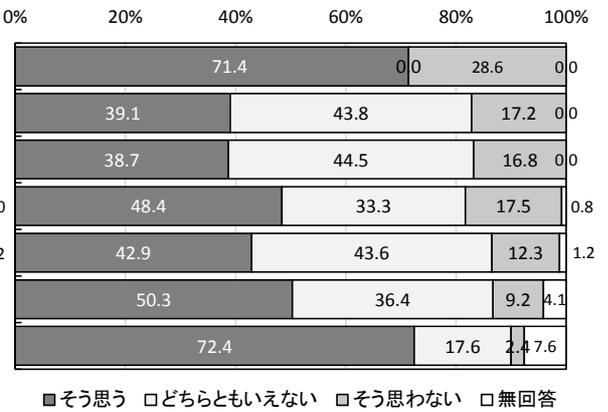
⑧レジャー施設が充実している



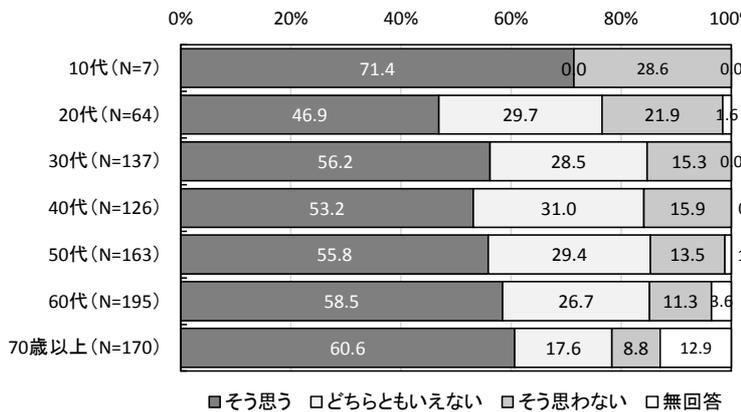
⑨他自治体から人が訪れる魅力を持ったまち



⑩今後も別海町に住み続けたい



⑪いま住んでいる家の満足度



⑫いま住んでいる地域は、環境が良い

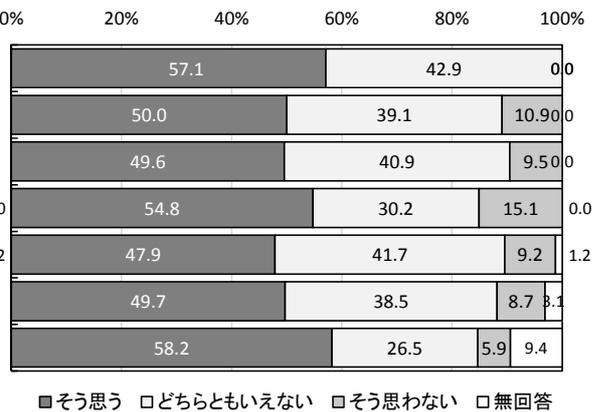


図 2 - 1 0 別海町での生活について (年代別) 続き

(3) 既存施設の利用状況について

1) 中央公民館の利用頻度

3-1 あなたは、中央公民館をどのくらいの頻度で利用しますか。(〇は1つだけ)

中央公民館をどのくらいの頻度で利用するかについて尋ねたところ、全体では「行かない」が33.8%と最も多く、「ほとんど行かない」22.0%を合わせた『ほとんど行かない・行かない』は半数以上となっている。

また、『月1回以上行く』は、14.2%となっている。

これを年代別にみると、『ほとんど行かない・行かない』は20代~60代では半数以上を占めており、特に20代では8割近くの人が『ほとんど行かない・行かない』と回答している。

一方、70歳以上では『ほとんど行かない・行かない』と回答した人が37.7%と他の年代より低く、また『月1回以上行く』が30.6%と他の年代に比べて多くなっている。

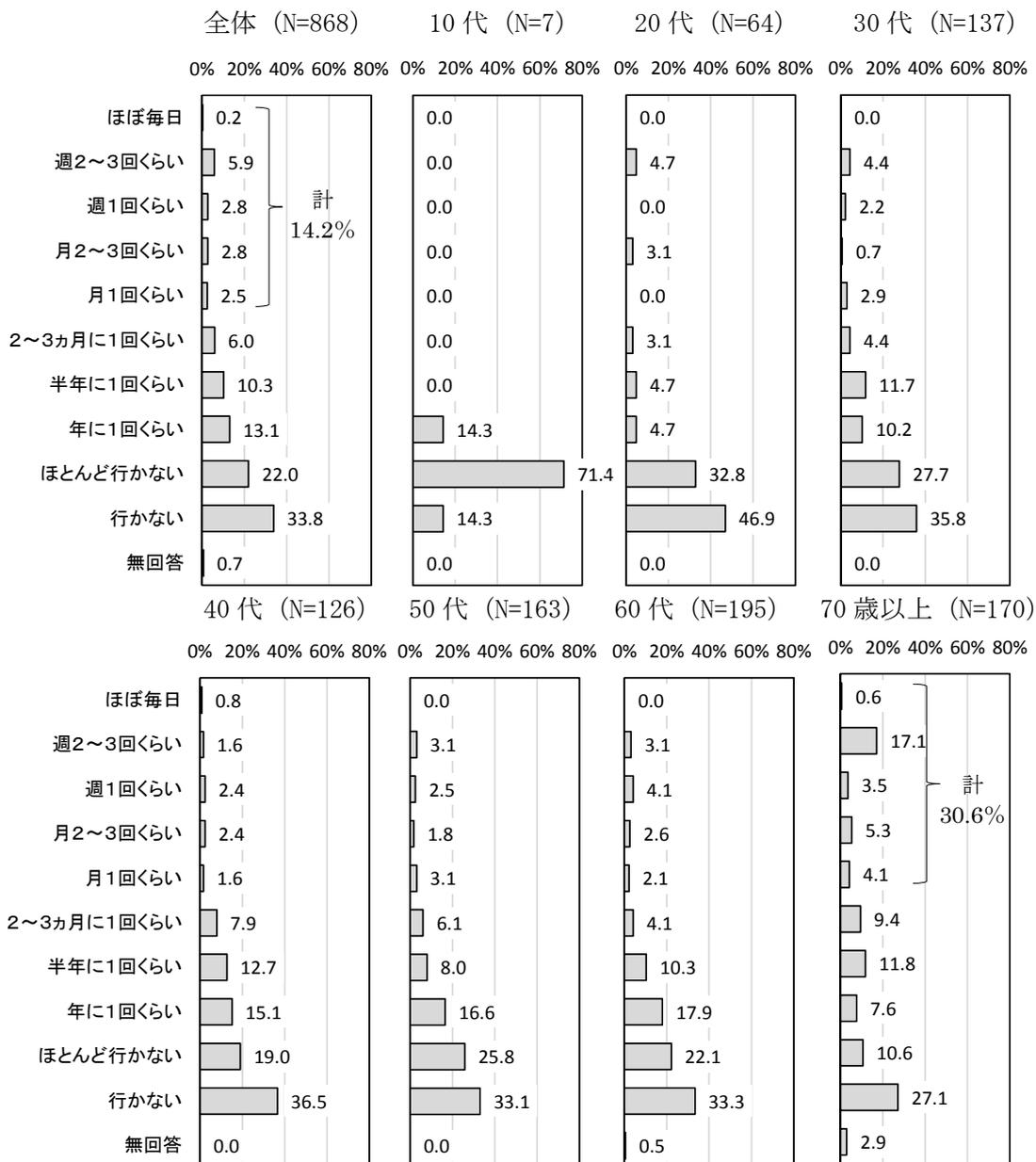


図2-1-1 中央公民館の利用頻度 (全体・年代別)

2) 利用目的

3-2 中央公民館を利用する目的は何ですか（〇はいくつでも）

『年に1回以上』中央公民館を利用すると回答した人に、中央公民館を利用する目的について尋ねたところ、「文化祭や催事などのイベント参加」が43.8%と最も多く、以下、「写真や絵画などの展示会」26.7%、「福祉牛乳の受け取り」21.1%、「コンサートなどの鑑賞」19.5%などとなっている。

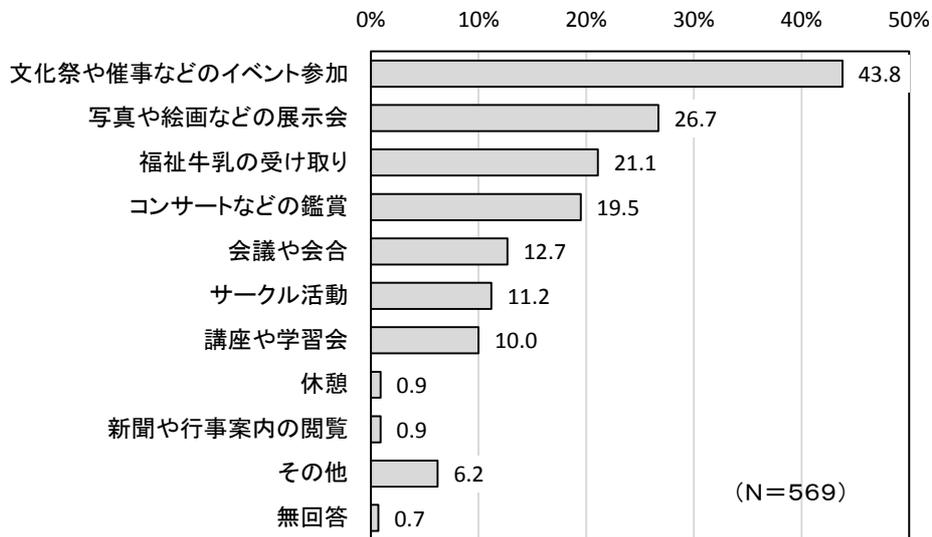


図2-12 利用目的

これを性別にみると、男女ともに「文化祭や催事などのイベント参加」の割合が最も多く、女性は男性より約9ポイント多くなっている。

年代別にみると、30代以上では「文化祭や催事などのイベント参加」の割合が最も多く、3割を超えている。対して20代では「コンサートなどの鑑賞」が20.6%と最も多くなっている。

70歳以上では「福祉牛乳の受け取り」が48.7%と他の年代よりも多くなっている。

居住歴別にみると、いずれも「文化祭や催事などのイベント参加」の割合が最も多く、特に道外の市町村から転入してきた人では6割近くを占めている。

		調査数	コンサートなどの鑑賞	写真や絵画などの展示	サークル活動	休憩	福祉牛乳の受け取り	新聞や行事案内の閲覧	会議や会合	講座や学習会	文化祭や催事などのイベント参加	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)											
全体		569 100.0	111 19.5	152 26.7	64 11.2	5 0.9	120 21.1	5 0.9	72 12.7	57 10.0	249 43.8	35 6.2	4 0.7
性別	男性	255 100.0	39 15.3	63 24.7	19 7.5	3 1.2	60 23.5	2 0.8	50 19.6	21 8.2	98 38.4	16 6.3	1 0.4
	女性	306 100.0	71 23.2	88 28.8	44 14.4	2 0.7	56 18.3	3 5.1	22 7.2	35 11.4	146 47.7	19 6.2	3 1.0
年代別	10代	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0
	20代	34 100.0	7 20.6	5 14.7	3 8.8	1 2.9	6 17.6	1 2.9	4 11.8	6 17.6	6 17.6	4 11.8	0 0.0
	30代	88 100.0	14 15.9	16 18.2	7 8.0	0 0.0	14 15.9	0 0.0	7 8.0	10 11.4	33 37.5	12 13.6	0 0.0
	40代	80 100.0	15 18.8	22 27.5	5 6.3	2 2.5	9 11.3	1 1.3	14 17.5	7 8.8	40 50.0	4 5.0	1 1.3
	50代	109 100.0	29 26.6	35 32.1	10 9.2	0 0.0	9 8.3	0 0.0	12 11.0	7 6.4	53 48.6	8 7.3	0 0.0
	60代	129 100.0	27 20.9	42 32.6	10 7.8	1 0.8	23 17.8	2 1.6	21 16.3	12 9.3	48 37.2	4 3.1	2 1.6
	70歳以上	119 100.0	15 12.6	30 25.2	27 22.7	1 0.8	58 48.7	1 0.8	14 11.8	15 12.6	64 53.8	3 2.5	1 0.8
	居住歴	生まれてから、 別海町にずっと住んでいる	154 100.0	34 22.1	44 28.6	19 12.3	1 0.6	42 27.3	1 0.6	25 16.2	14 9.1	64 41.6	8 5.2
別海町出身だが、 別海町以外での居住経験がある		151 100.0	33 21.9	44 29.1	11 7.3	2 1.3	26 17.2	0 0.0	21 13.9	14 9.3	68 45.0	6 4.0	0 0.0
道内の他の市町村から 転入してきた		184 100.0	37 20.1	43 23.4	21 11.4	0 0.0	40 21.7	3 1.6	15 8.2	18 9.8	70 38.0	17 9.2	1 0.5
道外の市町村から転入してきた		74 100.0	7 9.5	19 25.7	12 16.2	2 2.7	8 10.8	1 1.4	10 13.5	11 14.9	44 59.5	3 4.1	1 1.4

表2-1 利用目的（性別・年代別・居住歴別）

3) 利用する際の交通手段

3-3 中央公民館を利用する際の交通手段は何ですか。(○は1つだけ)

『年に1回以上』中央公民館を利用すると回答した人に、中央公民館を利用する際の交通手段について尋ねたところ、「自家用車」が84.2%と8割以上を占め、以下、「徒歩」8.8%、「自転車」3.0%、「バス」1.6%などとなっている。

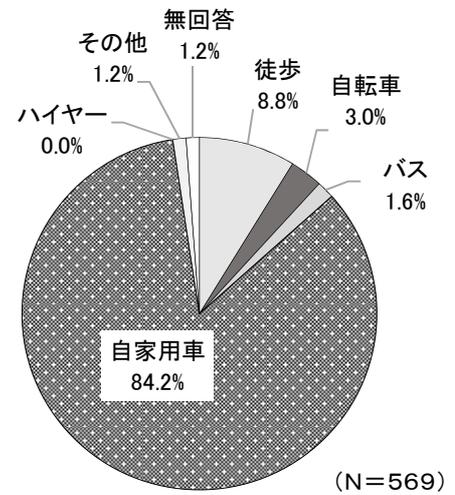


図2-13 利用交通手段

年代別にみると、いずれの年代も「自家用車」が最も多く、7割以上となっている。また、70歳以上では「バス」と回答した人が6.7%と、他の年代よりやや多くなっている。

		調査数	徒歩	自転車	バス	自家用車	ハイヤー	その他	無回答
		(上段：実数)							
		(下段：割合)							
全体		569	50	17	9	479	0	7	7
		100.0	8.8	3.0	1.6	84.2	0.0	1.2	1.2
年齢別	10代	6	1	2	0	3	0	0	0
		100.0	16.7	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20代	34	5	2	1	26	0	0	0
		100.0	14.7	5.9	2.9	76.5	0.0	0.0	0.0
	30代	88	3	2	0	82	0	1	0
		100.0	3.4	2.3	0.0	93.2	0.0	1.1	0.0
	40代	80	7	2	0	68	0	1	2
	100.0	8.8	2.5	0.0	85.0	0.0	1.3	2.5	
50代	109	5	1	0	102	0	1	0	
	100.0	4.6	0.9	0.0	93.6	0.0	0.9	0.0	
60代	129	14	4	0	106	0	1	4	
	100.0	10.9	3.1	0.0	82.2	0.0	0.8	3.1	
70歳以上	119	14	4	8	90	0	2	1	
	100.0	11.8	3.4	6.7	75.6	0.0	1.7	0.8	

表2-2 利用交通手段 (年代別)

4) 今後の公民館において充実して欲しい取り組み

3-4 公民館において充実して欲しい取り組みは何ですか。(〇は3つまで)
【学級・講座について】

公民館において充実して欲しい取り組みについて尋ねたところ、「趣味や教養に関する講座」が48.8%と最も多く、以下、「健康・スポーツに関する講座」31.9%、「子どもの習い事や学習などの学校旧育を補完する教室」29.7%、「食育や料理に関する講座」19.1%、「子育てや家庭教育に関する講座」18.9%、「地域の防災に関する講座」17.6%などとなっている。

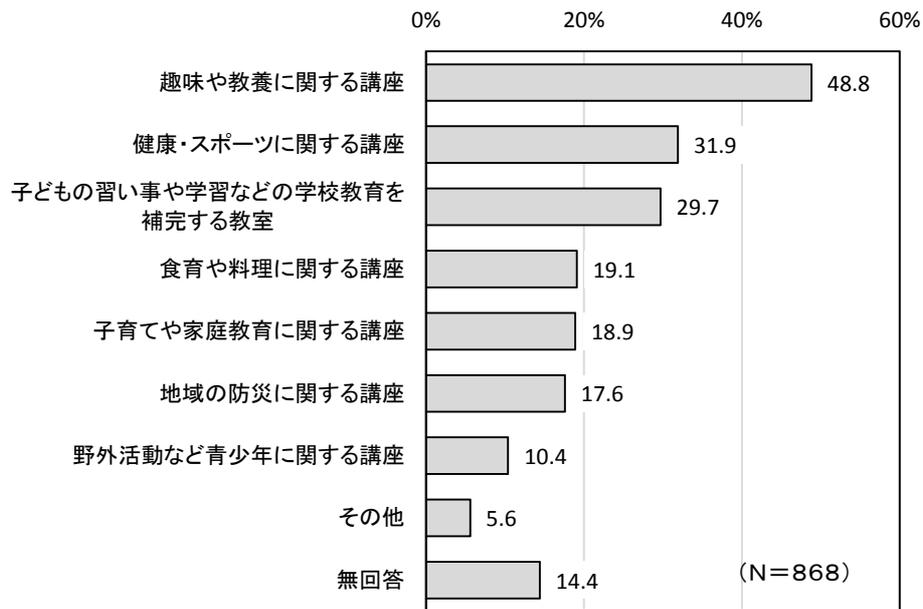


図 2-14 公民館において充実して欲しい取り組み

これを性別にみると、男女ともに「趣味や教養に関する講座」の割合が最も多く、女性は男性より約10ポイント多くなっている。

年代別にみると20代・40代以上では「趣味や教養に関する講座」の割合が最も多く、特に50代では6割を超えている。30代では「子どもの習い事や学習などの学校教育を補完する教室」が48.9%と最も多い。

別海町居住年数別にみると、3年未満及び5年以上では「趣味や教養に関する講座」の割合が最も多く、5年未満では「食育や料理に関する講座」及び「子どもの習い事や学習などの学校教育を補完する教室」が最も多くなっており、子育てに関する講座への回答が多くなっている。また、20年以上では「地域の防災に関する講座」が他の居住年数より多くなっている。

		調査数	趣味や教養に関する講座	健康・スポーツに関する講座	子育てや家庭教育に関する講座	食育や料理に関する講座	地域の防災に関する講座	野外活動に関する講座	子どもを習い事の習い教室や補完する学教	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)									
全体		868 100.0	424 48.8	277 31.9	164 18.9	166 19.1	153 17.6	90 10.4	258 29.7	49 5.6	125 14.4
性別	男性	404 100.0	177 43.8	129 31.9	87 21.5	53 13.1	83 20.5	51 12.6	117 29.0	27 6.7	59 14.6
	女性	454 100.0	242 53.3	144 31.7	75 16.5	110 24.2	67 14.8	38 5.1	140 30.8	22 4.8	65 14.3
年代別	10代	7 100.0	6 85.7	2 28.6	2 28.6	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	27 42.2	20 31.3	22 34.4	17 26.6	10 15.6	5 7.8	19 29.7	6 9.4	3 4.7
	30代	137 100.0	59 43.1	43 31.4	43 31.4	27 19.7	20 14.6	26 19.0	67 48.9	5 3.6	8 5.8
	40代	126 100.0	57 45.2	33 26.2	22 17.5	24 19.0	17 13.5	15 11.9	51 40.5	9 7.1	13 10.3
	50代	163 100.0	98 60.1	64 39.3	27 16.6	36 22.1	31 19.0	10 6.1	46 28.2	8 4.9	17 10.4
	60代	195 100.0	103 52.8	65 33.3	25 12.8	40 20.5	38 19.5	11 5.6	41 21.0	11 5.6	35 17.9
	70歳以上	170 100.0	73 42.9	49 28.8	23 13.5	20 11.8	37 21.8	22 12.9	32 18.8	10 5.9	45 26.5
別海町居住年数	1年未満	12 100.0	5 41.7	6 50.0	3 25.0	4 33.3	2 16.7	2 16.7	5 41.7	0 0.0	0 0.0
	3年未満	34 100.0	18 52.9	9 26.5	8 23.5	5 14.7	3 8.8	2 5.9	14 41.2	3 8.8	4 11.8
	5年未満	38 100.0	14 36.8	12 31.6	13 34.2	16 42.1	3 7.9	5 13.2	16 42.1	2 5.3	1 2.6
	10年未満	53 100.0	23 43.4	17 32.1	14 26.4	11 20.8	8 15.1	6 11.3	20 37.7	4 7.5	4 7.5
	20年未満	94 100.0	51 54.3	29 30.9	22 23.4	18 19.1	9 9.6	12 12.8	33 35.1	5 5.3	12 12.8
	20年以上	634 100.0	311 49.1	202 31.9	104 16.4	112 17.7	127 20.0	62 9.8	169 26.7	35 5.5	104 16.4

表2-3 公民館において充実して欲しい取り組み（性別・年代別・別海町居住年数別）

5) 公民館において充実して欲しい支援

3-5 公民館において充実して欲しい支援は何ですか。(〇は3つまで)
【団体への活動支援について】

公民館において充実して欲しい支援について尋ねたところ、「サークルなどの団体活動に関する指導・助言」が39.1%と最も多く、以下、「ボランティア活動団体に関する指導・助言」27.8%、「各種団体への財政的支援」19.8%、「関連団体や講師などの照会」17.7%、「団体リーダーの育成」16.4%、「NPOなどの市民活動団体に関する指導・助言」13.5%となっている。

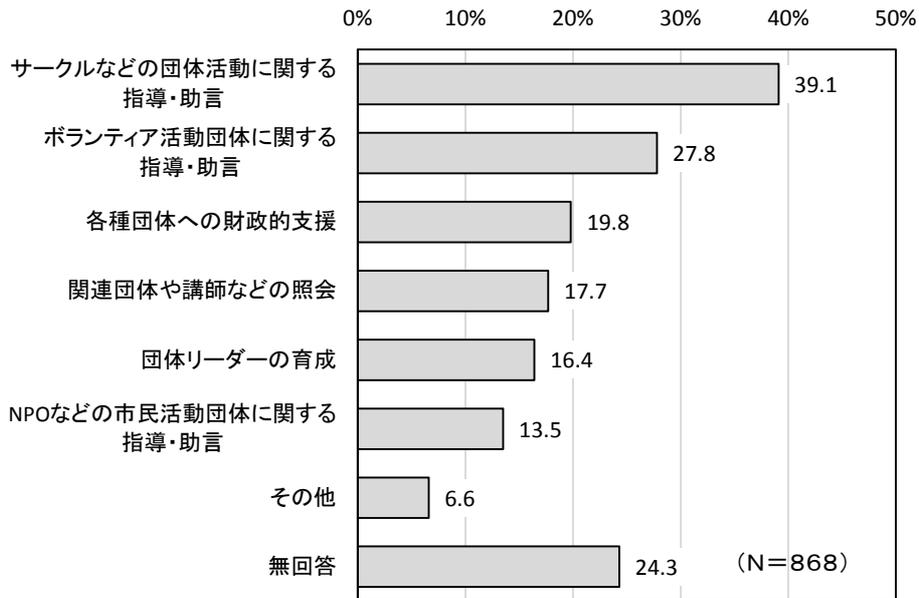


図 2-15 公民館において充実して欲しい支援

これを性別にみると、男女間で差はみられない。

年代別にみると、いずれの年代も「サークルなどの団体活動に関する指導・助言」の割合が最も多くなっている。

別海町居住年数別にみると、10年未満では「ボランティア活動団体に関する指導・助言」の割合が最も多く、10年未満以外の居住年数では「サークルなどの団体活動に関する指導・助言」が最も多くなっている。

		調査数	サークルなどの指導・団体活動	NPOなどの市民活動	ボランティア指導・活動団体	各種団体への財政的支援	関連団体や講師などの照会	団体リーダーの育成	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)								
全体		868 100.0	339 39.1	117 13.5	241 27.8	172 19.8	154 17.7	142 16.4	57 6.6	211 24.3
性別	男性	404 100.0	149 36.9	57 14.1	112 27.7	90 22.3	75 18.6	80 19.8	32 7.9	83 20.5
	女性	454 100.0	184 40.5	57 12.6	123 27.1	79 17.4	78 17.2	61 5.1	25 5.5	127 28.0
年代別	10代	7 100.0	7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	22 34.4	8 12.5	17 26.6	11 17.2	6 9.4	8 12.5	9 14.1	11 17.2
	30代	137 100.0	55 40.1	20 14.6	33 24.1	33 24.1	32 23.4	21 15.3	7 5.1	29 21.2
	40代	126 100.0	47 37.3	23 18.3	32 25.4	20 15.9	27 21.4	18 14.3	8 6.3	27 21.4
	50代	163 100.0	76 46.6	29 17.8	52 31.9	25 15.3	37 22.7	30 18.4	11 6.7	30 18.4
	60代	195 100.0	69 35.4	20 10.3	54 27.7	41 21.0	25 12.8	37 19.0	15 7.7	54 27.7
	70歳以上	170 100.0	60 35.3	17 10.0	50 29.4	41 24.1	26 15.3	27 15.9	7 4.1	57 33.5
別海町居住年数	1年未満	12 100.0	5 41.7	5 41.7	5 41.7	3 25.0	2 16.7	2 16.7	1 8.3	0 0.0
	3年未満	34 100.0	17 50.0	3 8.8	4 11.8	2 5.9	6 17.6	6 17.6	3 8.8	9 26.5
	5年未満	38 100.0	17 44.7	4 10.5	9 23.7	6 15.8	6 15.8	5 13.2	4 10.5	8 21.1
	10年未満	53 100.0	15 28.3	13 24.5	18 34.0	5 9.4	8 15.1	3 5.7	2 3.8	15 28.3
	20年未満	94 100.0	41 43.6	9 9.6	27 28.7	15 16.0	25 26.6	14 14.9	8 8.5	17 18.1
	20年以上	634 100.0	242 38.2	83 13.1	178 28.1	140 22.1	105 16.6	112 17.7	39 6.2	162 25.6

表2-4 公民館において充実して欲しい支援（性別・年代別・別海町居住年数別）

(4) 今後の別海町・別海地区の目指すべき姿について

1) 別海地区市街地へ行く頻度

4-1 別海地区市街地には、週または月に何回くらい行きますか。(○は1つだけ)

別海地区市街地をどのくらいの頻度で行くかについて尋ねたところ、全体では「住んでいる・ほぼ毎日」が34.8%と最も多くなっている。

一方「ほぼ行かない・行かない」は1割未満となっている。

これを年代別にみると、どの年代も「住んでいる・ほぼ毎日」が最も多いが、70歳以上は他の年代に比べて低くなっている。

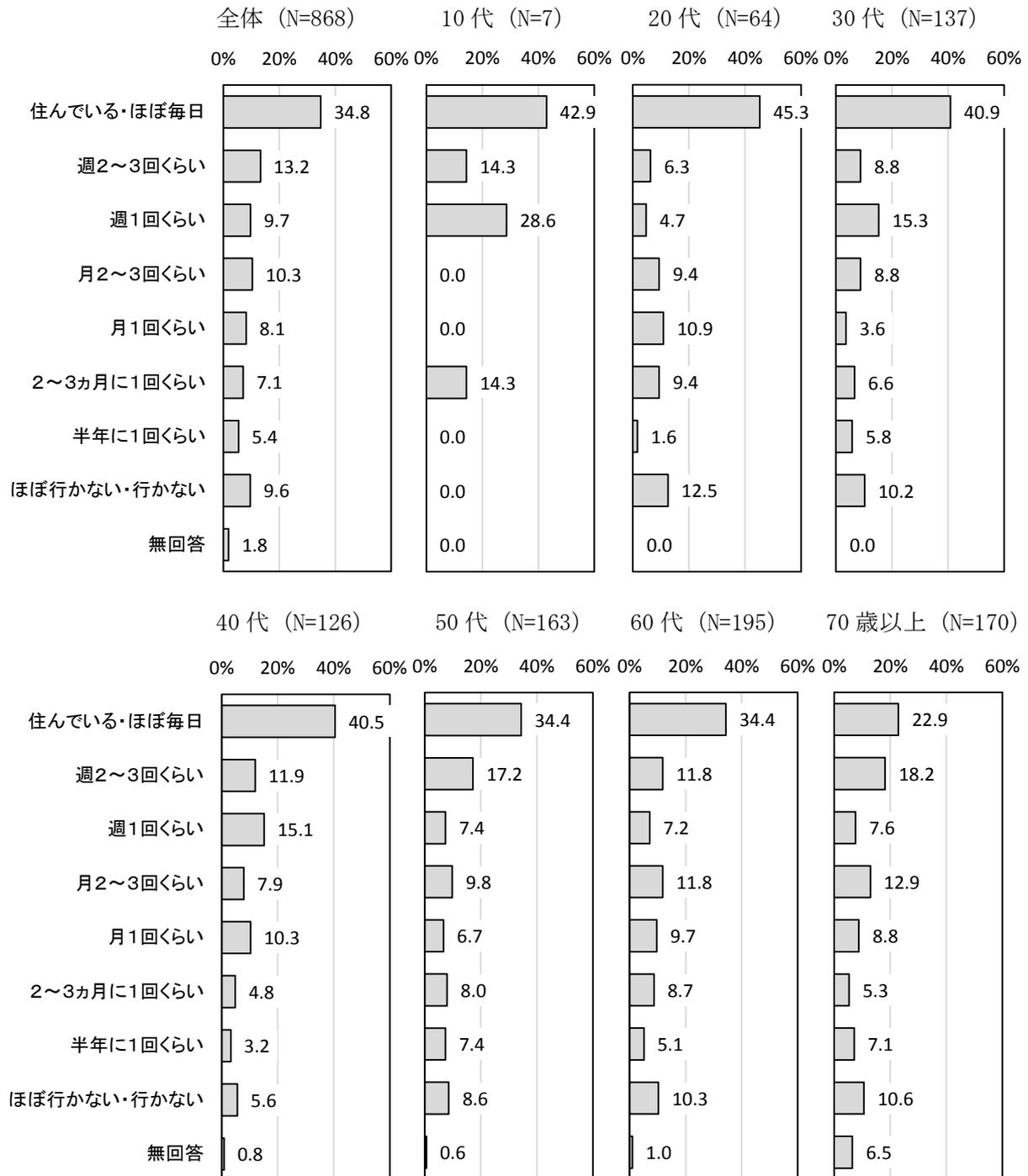


図2-16 別海地区市街地へ行く頻度 (全体・年代別)

居住歴別にみると、「住んでいる・ほぼ毎日」がいずれの居住歴でも最も多い。

一方、道外の他の市町村からの転入してきた人では「ほぼ行かない・行かない」と回答した人の割合が14.2%と他の居住歴よりもやや多くなっている。

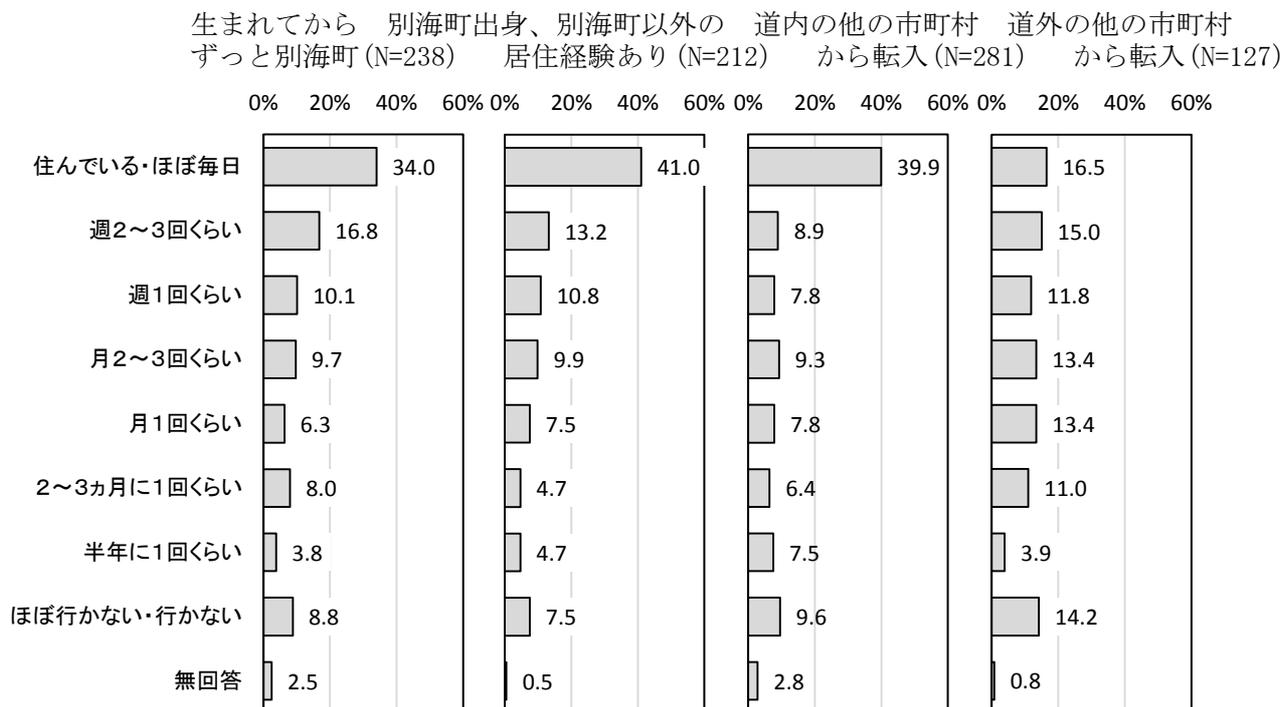


図2-17 別海地区市街地へ行く頻度（居住歴）

2) 別海地区市街地に行く主な目的

4-2 別海地区市街地に行く主な目的を教えてください。(〇は3つまで)

別海地区市街地に行く主な目的を尋ねたところ、「買い物」が68.2%と約7割を占め、以下、「病院や薬局」37.9%、「仕事」20.8%、「郵便局や信金の利用」20.2%などとなっている。

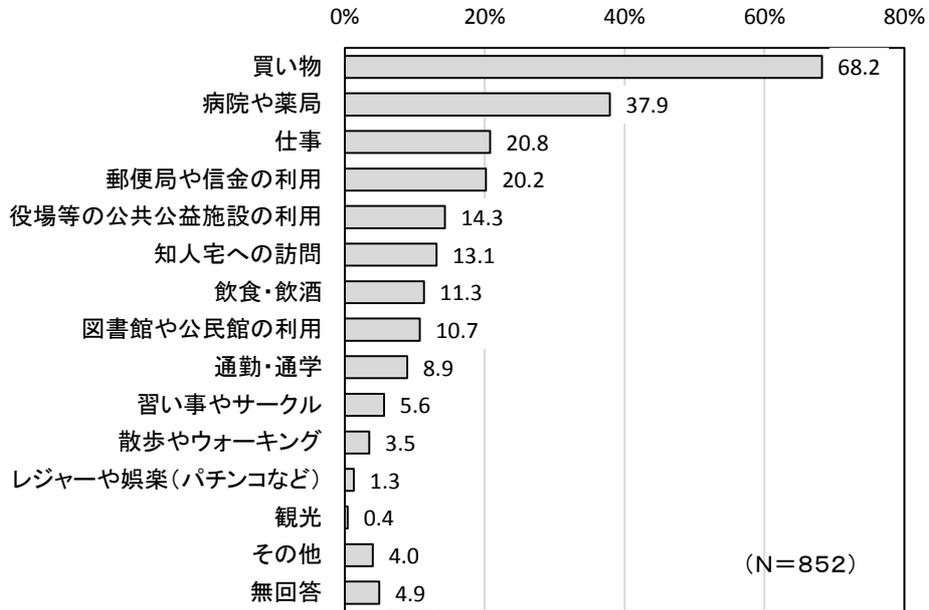


図2-18 別海地区市街地に行く主な目的

性別でみると、男女とも「買い物」が最も多くなっている。また、男性は女性より「仕事」「役場等の公共公益施設の利用」「飲食・飲酒」の割合が多く、逆に女性は男性より「買い物」「病院や薬局」「郵便局や信金の利用」「図書館や公民館の利用」の割合が多くなっている。

年代別でみると、いずれの年代も「買い物」が最も多く、6割以上となっている。70歳以上では「病院や薬局」が他の年代より大きく上回っている。

居住歴別にみると、「買い物」がいずれの居住歴でも6割以上と最も多くなっている。

一方、道外の他の市町村からの転入してきた人では「病院や薬局」「役場等の公共公益施設の利用」「図書館や公民館の利用」と回答した人の割合が他の居住歴の人よりもやや多くなっている。

		調査数	買い物	飲食・飲酒	レジャーや娯楽(ヘチ)	通勤・通学	仕事	病院や薬局	図書館や公民館の利用	習い事やサークル	観光	散歩やウォーキング	郵便局や信金の利用	知人宅への訪問	役場等の公共公益施設の利用	その他	無回答
(上段：実数) (下段：割合)																	
全体		852 100.0	581 68.2	96 11.3	11 1.3	76 8.9	177 20.8	323 37.9	91 10.7	48 5.6	3 0.4	30 3.5	172 20.2	112 13.1	122 14.3	34 4.0	42 4.9
性別	男性	396 100.0	257 64.9	62 15.7	9 2.3	39 9.8	101 25.5	140 35.4	31 7.8	11 2.8	1 0.3	16 4.0	68 17.2	43 10.9	71 17.9	13 3.3	19 4.8
	女性	446 100.0	318 71.3	34 7.6	2 0.4	37 8.3	76 17.0	174 5.1	60 13.5	36 8.1	2 0.4	14 3.1	101 22.6	67 15.0	48 10.8	20 4.5	23 5.2
年代別	10代	7 100.0	5 71.4	3 42.9	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	43 67.2	14 21.9	2 3.1	3 4.7	17 26.6	22 34.4	6 9.4	2 3.1	2 3.1	3 4.7	11 17.2	6 9.4	6 9.4	4 6.3	1 1.6
	30代	137 100.0	97 70.8	32 23.4	3 2.2	24 17.5	40 29.2	45 32.8	14 10.2	8 5.8	0 0.0	3 2.2	20 14.6	17 12.4	14 10.2	4 2.9	4 2.9
	40代	125 100.0	87 69.6	14 11.2	0 0.0	17 13.6	42 33.6	40 32.0	16 12.8	8 6.4	0 0.0	2 1.6	26 20.8	4 3.2	15 12.0	6 4.8	6 4.8
	50代	162 100.0	108 66.7	17 10.5	2 1.2	18 11.1	38 23.5	48 29.6	16 9.9	7 4.3	1 0.6	3 1.9	32 19.8	22 13.6	32 19.8	6 3.7	9 5.6
	60代	193 100.0	135 69.9	13 6.7	1 0.5	10 5.2	32 16.6	69 35.8	14 7.3	13 6.7	0 0.0	9 4.7	45 23.3	34 17.6	30 15.5	9 4.7	8 4.1
	70歳以上	159 100.0	103 64.8	3 1.9	3 1.9	4 2.5	7 4.4	95 59.7	24 15.1	10 6.3	0 0.0	10 6.3	37 23.3	27 17.0	25 15.7	4 2.5	13 8.2
居住歴	生まれてから、 別海町にずっと住んでいる	232 100.0	159 68.5	20 8.6	1 0.4	21 9.1	43 18.5	97 41.8	19 8.2	9 3.9	2 0.9	13 5.6	43 18.5	36 15.5	32 13.8	7 3.0	10 4
	別海町出身だが、 別海町以外での居住経験がある	211 100.0	153 72.5	28 13.3	4 1.9	26 12.3	61 28.9	66 31.3	13 6.2	11 5.2	0 0.0	6 2.8	53 25.1	33 15.6	33 15.6	5 2.4	7 3.3
	道内の他の市町村から 転入してきた	273 100.0	179 65.6	37 13.6	5 1.8	23 8.4	59 21.6	95 34.8	32 11.7	17 6.2	0 0.0	10 3.7	58 21.2	28 10.3	33 12.1	10 3.7	17 6
	道外の市町村から転入してきた	126 100.0	85 67.5	10 7.9	1 0.8	6 4.8	13 10.3	61 48.4	27 21.4	11 8.7	1 0.8	0 0.0	17 13.5	13 10.3	24 19.0	12 9.5	6 4.8

表 2-5 別海地区市街地に行く主な目的（性別・年代別・居住歴別）

3) 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うもの

4-3 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うものを尋ねたところ、「地元産品を使ったレストラン・カフェ」が44.8%と僅差で最も多く、次いで、「地元農水産品を買える場所」44.5%、「子どもの遊び場(屋内・屋外)」35.4%、「トレーニングジムや軽スポーツのスペース」27.9%、「芝生広場やベンチ・イスが設置された憩い空間」22.7%などとなっている。

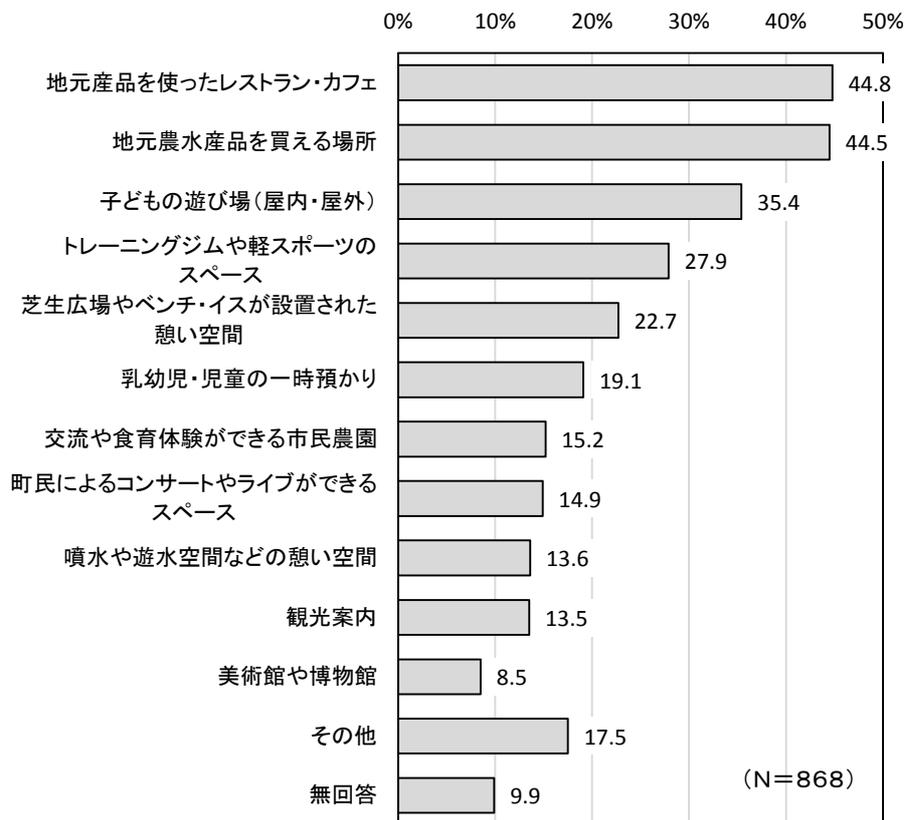


図 2-19 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うもの

性別でみると、男性では「地元農水産品を買える場所」が45.8%と最も多く。女性では「地元産品を使ったレストラン・カフェ」が最も多くなっている。また、男性は女性より「トレーニングジムや軽スポーツのスペース」「芝生広場やベンチ・イスが設置された憩い空間」の割合が多く、女性は男性より「子どもの遊び場（屋内・屋外）」「乳幼児・児童の一時預かり」の割合が多くなっている。

年代別でみると、20代・30代で「子どもの遊び場（屋内・屋外）」、40代・50代では「地元産品を使ったレストラン・カフェ」、60代以上では「地元農水産品を買える場所」が最も多くなっている。

		調査数	憩い空間	噴水や遊水空間などの	間が設置された憩い空間	芝生広場やベンチ・イス	内・屋外の遊び場	子どもの遊び場	ベラスイブができるサート	町民によるコンサート	地元産品を使ったレストラン・カフェ	乳幼児・児童の一時預かり	地元農水産品を買える場所	交流や食育体験ができる市民農園	美術館や博物館	スポーツのスペースや軽	観光案内	その他	無回答	
		(上段：実数)																		(下段：割合)
全体		868	118	197	307	129	389	166	386	132	74	242	117	152	86					
		100.0	13.6	22.7	35.4	14.9	44.8	19.1	44.5	15.2	8.5	27.9	13.5	17.5	9.9					
性別	男性	404	56	99	136	72	172	68	185	55	32	127	46	63	41					
		100.0	13.9	24.5	33.7	17.8	42.6	16.8	45.8	13.6	7.9	31.4	11.4	15.6	10.1					
性別	女性	454	59	94	169	56	212	97	197	75	41	112	69	87	44					
		100.0	13.0	20.7	37.2	12.3	46.7	5.1	43.4	16.5	9.0	24.7	15.2	19.2	9.7					
年代別	10代	7	1	1	4	2	4	1	2	1	2	1	0	0	0					
		100.0	14.3	14.3	57.1	28.6	57.1	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0					
	20代	64	14	13	31	9	21	17	11	11	4	29	7	7	2					
		100.0	21.9	20.3	48.4	14.1	32.8	26.6	17.2	17.2	6.3	45.3	10.9	10.9	3.1					
	30代	137	30	31	87	11	74	44	56	22	11	49	26	31	5					
		100.0	21.9	22.6	63.5	8.0	54.0	32.1	40.9	16.1	8.0	35.8	19.0	22.6	3.6					
	40代	126	12	20	57	23	65	33	46	14	13	38	17	27	8					
		100.0	9.5	15.9	45.2	18.3	51.6	26.2	36.5	11.1	10.3	30.2	13.5	21.4	6.3					
50代	163	24	39	41	30	88	25	82	14	11	53	20	30	13						
	100.0	14.7	23.9	25.2	18.4	54.0	15.3	50.3	8.6	6.7	32.5	12.3	18.4	8.0						
60代	195	18	47	54	30	78	27	95	45	14	46	30	31	21						
	100.0	9.2	24.1	27.7	15.4	40.0	13.8	48.7	23.1	7.2	23.6	15.4	15.9	10.8						
70歳以上	170	19	44	32	24	58	18	92	25	19	26	17	26	35						
	100.0	11.2	25.9	18.8	14.1	34.1	10.6	54.1	14.7	11.2	15.3	10.0	15.3	20.6						

表2-6 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うもの（性別・年代別）

4) 一次産業のまちとして、今後の必要な取り組み

4-4 一次産業のまちとして、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

一次産業のまちとして、今後の必要な取り組みを尋ねたところ、「特産品の開発」が41.2%と最も多く、以下、「環境の保護」34.9%、「地場産品を使った給食」34.0%、「町内家庭での地場産品の消費」31.6%、「一次産業の職業体験」27.6%などとなっている。

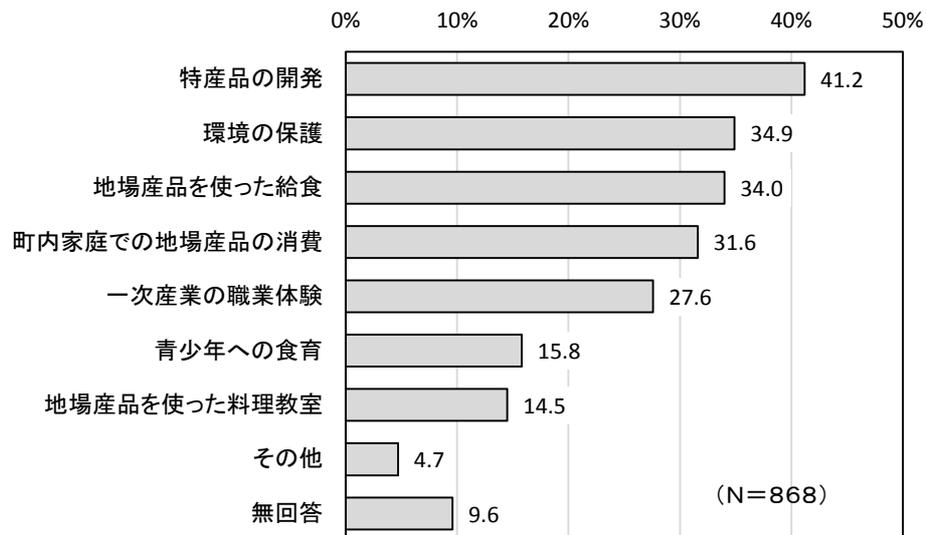


図2-20 一次産業のまちとして、今後の必要な取り組み

性別でみると、男性では「特産品の開発」が45.5%、女性では「地元産品を使った給食」が37.9%と最も多くなっている。

年代別でみると、40代を除く年代で「特産品の開発」、40代では「地場産品を使った給食」が最も多くなっている。

居住歴別にみると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人では「地場産品を使った給食」及び「特産品の開発」がともに38.2%と最も多い。別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある人・道内の他の市町村から転入してきた人では「特産品の開発」、道外の市町村から転入してきた人では「環境の保護」が35.4%と最も多くなっている。

		調査数	地場産品を使った給食	環境の保護	青少年への食育	教室地場産品を使った料理	一次産業の職業体験	特産品の開発	町内家庭での地場産品の消費	その他	無回答
		(上段：実数)									
		(下段：割合)									
全体		868	295	303	137	126	240	358	274	41	83
		100.0	34.0	34.9	15.8	14.5	27.6	41.2	31.6	4.7	9.6
性別	男性	404	121	143	58	46	108	184	125	25	34
		100.0	30.0	35.4	14.4	11.4	26.7	45.5	30.9	6.2	8.4
	女性	454	172	158	78	76	130	169	144	15	48
		100.0	37.9	34.8	17.2	16.7	28.6	37.2	31.7	3.3	10.6
年代別	10代	7	3	1	1	1	3	4	1	0	0
		100.0	42.9	14.3	14.3	14.3	42.9	57.1	14.3	0.0	0.0
	20代	64	18	25	9	4	26	32	17	3	2
		100.0	28.1	39.1	14.1	6.3	40.6	50.0	26.6	4.7	3.1
	30代	137	48	45	33	18	52	52	45	11	8
		100.0	35.0	32.8	24.1	13.1	38.0	38.0	32.8	8.0	5.8
	40代	126	48	44	19	12	44	40	33	8	9
	100.0	38.1	34.9	15.1	9.5	34.9	31.7	26.2	6.3	7.1	
50代	163	58	59	24	26	37	74	54	5	12	
	100.0	35.6	36.2	14.7	16.0	22.7	45.4	33.1	3.1	7.4	
60代	195	61	72	36	38	43	84	65	7	17	
	100.0	31.3	36.9	18.5	19.5	22.1	43.1	33.3	3.6	8.7	
70歳以上	170	55	55	15	26	34	69	58	7	34	
	100.0	32.4	32.4	8.8	15.3	20.0	40.6	34.1	4.1	20.0	
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238	91	71	39	35	61	91	84	7	28
		100.0	38.2	29.8	16.4	14.7	25.6	38.2	35.3	2.9	11.8
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212	71	78	34	32	68	97	67	12	15
		100.0	33.5	36.8	16.0	15.1	32.1	45.8	31.6	5.7	7.1
道内の他の市町村から転入してきた	281	93	106	43	40	73	123	81	15	25	
	100.0	33.1	37.7	15.3	14.2	26.0	43.8	28.8	5.3	8.9	
道外の市町村から転入してきた	127	38	45	21	18	37	42	39	6	14	
	100.0	29.9	35.4	16.5	14.2	29.1	33.1	30.7	4.7	11.0	

表2-7 一次産業のまちとして、今後の必要な取り組み（性別・年代別・居住歴）

(5) 災害に備える 減災のまちの実現について

1) 災害発生時、最も不安に思うこと

5-1 災害が発生した場合に、もっとも不安に思っていることは何ですか。(○は3つまで)

災害発生時、最も不安に思うことについて尋ねたところ、「電気、水道の確保」が77.6%と最も多く7割以上を占めている。以下、「交通網の確保」44.5%、「医療体制の確保」44.4%、「災害に関する情報の確保」37.0%、「自宅の食料確保」35.7%、「電話などの通信手段の確保」19.2%となっている。

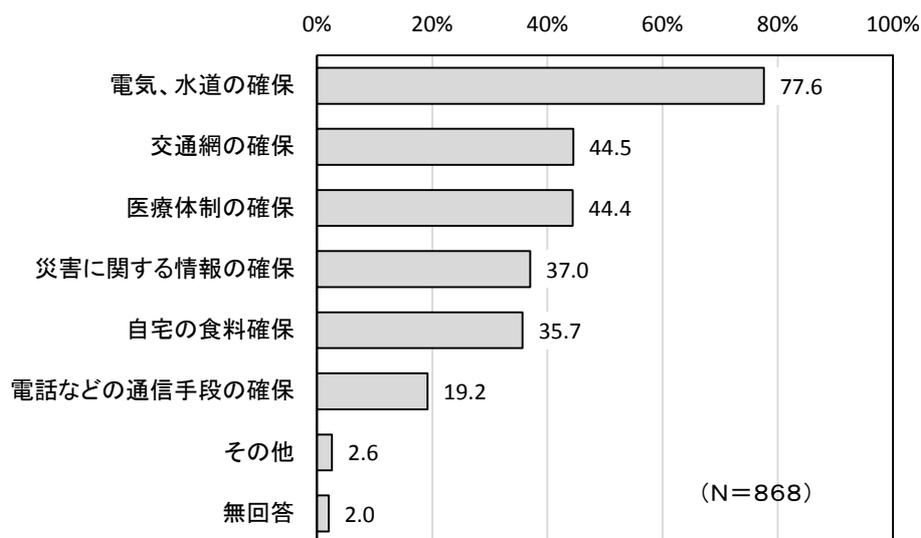


図2-2-1 災害発生時、最も不安に思うこと

性別でみると、男女間の差はみられない。

年代別でみると、いずれの年代も「電気、水道の確保」が最も多くなっている。

また、30代では「自宅の食料確保」が、70歳以上では「電話などの通信手段の確保」が他の年代に比べて多い。

		調査数	自宅の食料確保	の災害に関する情報	交通網の確保	電気、水道の確保	医療体制の確保	電話などの通信手段	その他	無回答
		(上段：実数)								
		(下段：割合)								
全体		868 100.0	310 35.7	321 37.0	386 44.5	674 77.6	385 44.4	167 19.2	23 2.6	17 2.0
性別	男性	404 100.0	134 33.2	135 33.4	189 46.8	308 76.2	191 47.3	73 18.1	11 2.7	7 1.7
	女性	454 100.0	172 37.9	184 40.5	192 42.3	357 78.6	190 41.9	92 5.1	12 2.6	10 2.2
年代別	10代	7 100.0	4 57.1	1 14.3	3 42.9	4 57.1	3 42.9	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	29 45.3	24 37.5	32 50.0	40 62.5	20 31.3	13 20.3	7 10.9	0 0.0
	30代	137 100.0	70 51.1	48 35.0	62 45.3	106 77.4	65 47.4	19 13.9	3 2.2	0 0.0
	40代	126 100.0	48 38.1	45 35.7	59 46.8	92 73.0	51 40.5	24 19.0	6 4.8	0 0.0
	50代	163 100.0	57 35.0	59 36.2	73 44.8	139 85.3	71 43.6	33 20.2	1 0.6	1 0.6
	60代	195 100.0	56 28.7	80 41.0	86 44.1	158 81.0	87 44.6	30 15.4	4 2.1	5 2.6
	70歳以上	170 100.0	44 25.9	61 35.9	70 41.2	129 75.9	84 49.4	46 27.1	2 1.2	11 6.5

表2-8 災害発生時、最も不安に思うこと（性別・年代別）

2) 地域で防災・減災に取り組むために必要なこと

5-2 地域で防災・減災に取り組むために必要なことは何ですか。(〇はいくつでも)

地域で防災・減災に取り組むために必要なことについて尋ねたところ、「近隣住民や町内会による自主的な助け合い」が71.3%と最も多く7割以上を占めている。以下、「自衛隊や消防等の救助機関との連携」58.8%、「行政による財政的な支援」32.9%、「避難訓練や防災講座等の実施」29.4%、「近隣自治体との連携」27.4%、などとなっている。

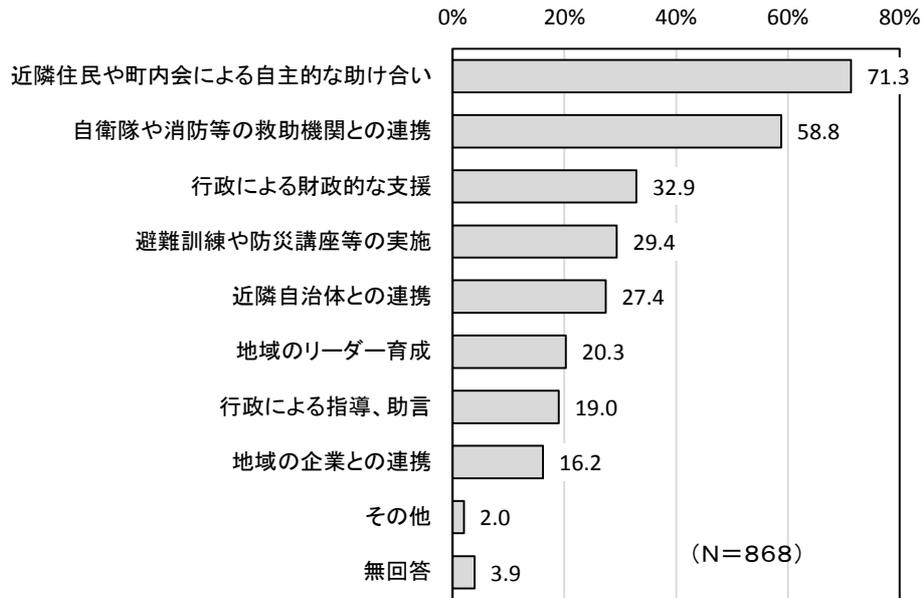


図2-22 地域で防災・減災に取り組むために必要なこと

性別でみると、男女ともに「近隣住民や町内会による自主的な助け合い」が最も多く、女性は男性より11.6ポイント多くなっている。

年代別でみると、いずれの年代も「近隣住民や町内会による自主的な助け合い」が最も多く6割を超えている。また、20代では「行政による財政的な支援」が、30代・70歳以上では「近隣自治体との連携」が他の年代に比べて多くなっている。また70歳以上では「地域のリーダーの育成」も他の年代に比べて多い。

		調査数	近隣住民や町内会による自主的な助け合い	地域のリーダー育成	自衛隊や消防等の救助	地域の企業との連携	近隣自治体との連携	避難訓練や防災講座等の実施	行政による指導、助言	行政による財政的な支援	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)										
全体		868 100.0	619 71.3	176 20.3	510 58.8	141 16.2	238 27.4	255 29.4	165 19.0	286 32.9	17 2.0	34 3.9
性別	男性	404 100.0	263 65.1	77 19.1	241 59.7	75 18.6	103 25.5	117 29.0	75 18.6	142 35.1	10 2.5	17 4.2
	女性	454 100.0	348 76.7	98 21.6	262 57.7	64 14.1	134 29.5	134 29.5	87 19.2	140 30.8	7 1.5	17 3.7
年代別	10代	7 100.0	4 57.1	1 14.3	4 57.1	2 28.6	1 14.3	3 42.9	1 14.3	3 42.9	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	39 60.9	4 6.3	33 51.6	12 18.8	16 25.0	14 21.9	11 17.2	26 40.6	2 3.1	3 4.7
	30代	137 100.0	98 71.5	25 18.2	85 62.0	22 16.1	45 32.8	41 29.9	18 13.1	41 29.9	1 0.7	1 0.7
	40代	126 100.0	79 62.7	14 11.1	72 57.1	23 18.3	29 23.0	33 26.2	23 18.3	42 33.3	3 2.4	5 4.0
	50代	163 100.0	106 65.0	29 17.8	106 65.0	25 15.3	40 24.5	52 31.9	27 16.6	51 31.3	3 1.8	7 4.3
	60代	195 100.0	154 79.0	47 24.1	106 54.4	30 15.4	52 26.7	67 34.4	43 22.1	68 34.9	4 2.1	4 2.1
	70歳以上	170 100.0	135 79.4	54 31.8	100 58.8	25 14.7	52 30.6	42 24.7	40 23.5	53 31.2	4 2.4	14 8.2

表2-9 地域で防災・減災に取り組むために必要なこと（性別・年代別）

3) 災害に際して、町内に不足している施設・設備

5-3 災害に際して、町内に不足している施設・設備は何だと思いますか。(〇は3つまで)

災害に際して、町内に不足している施設・設備について尋ねたところ、「備蓄物資や支援物資」が39.1%と最も多く。以下、「町内への物資の供給拠点」34.4%、「地域の避難施設」28.6%、「地域の備蓄倉庫」28.3%などとなっている。

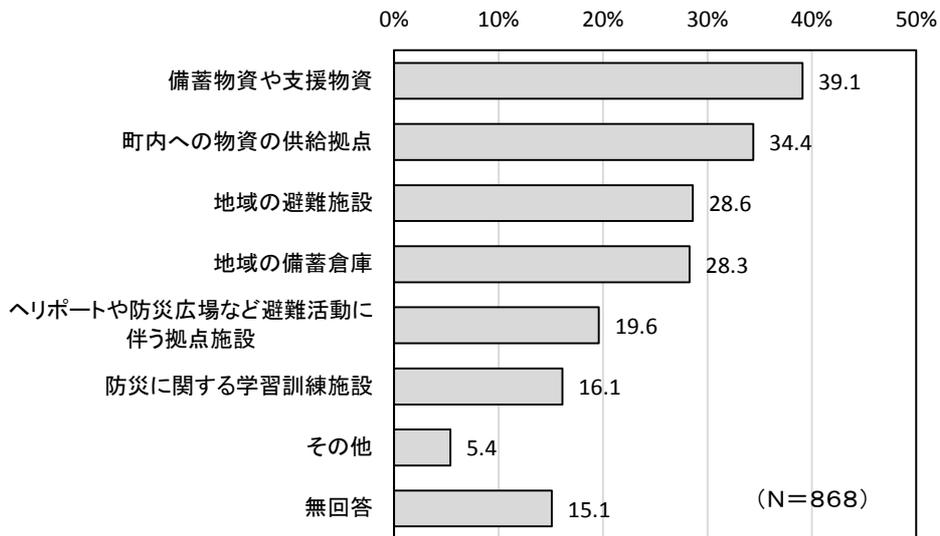


図2-23 災害に際して、町内に不足している施設・設備

性別でみると、男女ともに「備蓄物資や支援物資」が最も多くなっている。また男性は女性より「ヘリポートや防災広場など避難活動に伴う拠点施設」が10ポイント多くなっている。

年代別でみると、20代を除く全ての年代で「備蓄物資や支援物資」が最も多くなっている。20代では「地域の避難施設」が最も多い。また、20代では「ヘリポートや防災広場など避難活動に伴う拠点施設」、30代では「町内への物資の供給拠点」、30代及び70歳以上では「地域の備蓄倉庫」が他の年代に比べて多くなっている。

居住歴別にみると、いずれの居住歴も「備蓄物資や支援物資」が最も多くなっている。また、別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある人は「地域の備蓄倉庫」の割合が他の居住歴の人よりやや多くなっている。

		調査数 (上段：実数) (下段：割合)	備蓄物資 や支援物資	地域の 避難施設	地域の 備蓄倉庫	町内への 物資の 供給拠 点	なへり 施点 設避 難ポ ー ト 活 動 に 防 災 う 広 場	防 災 に 関 す る 学 習 訓 練	そ の 他	無 回 答
全 体		868 100.0	339 39.1	248 28.6	246 28.3	299 34.4	170 19.6	140 16.1	47 5.4	131 15.1
性 別	男性	404 100.0	165 40.8	107 26.5	115 28.5	146 36.1	101 25.0	70 17.3	16 4.0	49 12.1
	女性	454 100.0	169 37.2	140 30.8	130 28.6	148 32.6	68 15.0	67 14.8	31 6.8	80 17.6
年 代 別	10代	7 100.0	5 71.4	2 28.6	2 28.6	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	19 29.7	20 31.3	13 20.3	18 28.1	17 26.6	5 7.8	9 14.1	6 9.4
	30代	137 100.0	59 43.1	41 29.9	46 33.6	55 40.1	19 13.9	21 15.3	10 7.3	13 9.5
	40代	126 100.0	45 35.7	28 22.2	28 22.2	39 31.0	29 23.0	22 17.5	7 5.6	19 15.1
	50代	163 100.0	65 39.9	46 28.2	42 25.8	54 33.1	26 16.0	19 11.7	9 5.5	28 17.2
	60代	195 100.0	75 38.5	55 28.2	55 28.2	67 34.4	39 20.0	37 19.0	9 4.6	29 14.9
	70歳以上	170 100.0	66 38.8	56 32.9	58 34.1	61 35.9	36 21.2	35 20.6	3 1.8	36 21.2
居 住 歴	生まれてから、 別海町にずっと住んでいる	238 100.0	98 41.2	63 26.5	62 26.1	84 35.3	59 24.8	45 18.9	7 2.9	37 15.5
	別海町出身だが、 別海町以外での居住経験がある	212 100.0	90 42.5	64 30.2	69 32.5	76 35.8	36 17.0	27 12.7	13 6.1	25 11.8
	道内の他の市町村から 転入してきた	281 100.0	107 38.1	86 30.6	75 26.7	101 35.9	46 16.4	49 17.4	14 5.0	43 15.3
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	42 33.1	33 26.0	35 27.6	32 25.2	24 18.9	19 15.0	12 9.4	25 19.7

表2-10 災害に際して、町内に不足している施設・設備（性別・年代別・居住歴）

4) 避難所で困ったこと、困ること

5-4 避難所で困ったこと、困ることは、何だと思えますか。(〇は3つまで)

避難所で困ったこと。困ることは、何だと思うか尋ねたところ、「お風呂やトイレ」が62.7%と最も多い。以下、「水や食料の供給」60.7%、「十分なプライバシーが確保されないこと」40.8%、「医療的支援」37.4%、「家族などとの連絡手段」23.3%などとなっている。

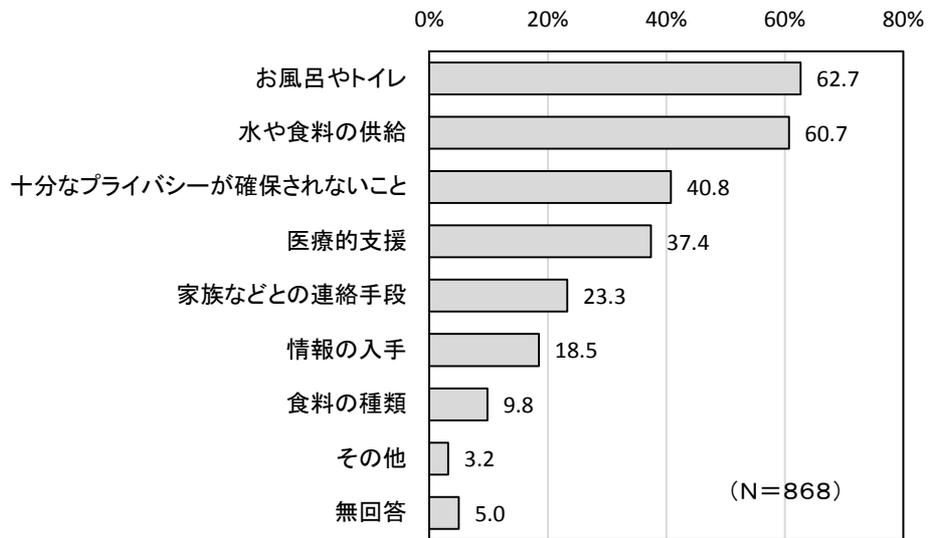


図2-24 避難所で困ったこと、困ること

性別でみると、男性では「水や食料の供給」が60.9%と最も多く、女性は「お風呂やトイレ」が67.0%と最も多くなっている。また女性は男性より「十分なプライバシーが確保されないこと」が43.8%と約6ポイント多くなっている。

年代別でみると、20代及び70歳以上では「水や食料の供給」、30代～60代では「お風呂やトイレ」が最も多くなっている。また、30代・40代では「十分なプライバシーが確保されないこと」が半数以上、60代以上では「医療的支援」が4割以上と他の年代より多くなっている。

居住歴別にみると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人は「水や食料の供給」が最も多く6割以上となっている。それ以外の居住歴の人は「お風呂やトイレ」が最も多く、また、「十分なプライバシーが確保されないこと」の割合が、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人よりやや多くなっている。

		調査数 (上段：実数) (下段：割合)	水や食料の供給	食料の種類	家族などとの連絡手段	情報の入手	十分なプライバシーが確保されないこと	医療的支援	お風呂やトイレ	その他	無回答
全体		868 100.0	527 60.7	85 9.8	202 23.3	161 18.5	354 40.8	325 37.4	544 62.7	28 3.2	43 5.0
性別	男性	404 100.0	246 60.9	34 8.4	87 21.5	86 21.3	152 37.6	152 37.6	234 57.9	7 1.7	26 6.4
	女性	454 100.0	275 60.6	49 10.8	113 24.9	74 16.3	199 43.8	169 5.1	304 67.0	20 4.4	17 3.7
年代別	10代	7 100.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	2 28.6	7 100.0	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	33 51.6	6 9.4	17 26.6	14 21.9	24 37.5	20 31.3	31 48.4	4 6.3	2 3.1
	30代	137 100.0	86 62.8	13 9.5	32 23.4	16 11.7	73 53.3	43 31.4	92 67.2	7 5.1	5 3.6
	40代	126 100.0	65 51.6	16 12.7	31 24.6	22 17.5	67 53.2	33 26.2	90 71.4	5 4.0	3 2.4
	50代	163 100.0	109 66.9	15 9.2	34 20.9	32 19.6	73 44.8	60 36.8	110 67.5	1 0.6	6 3.7
	60代	195 100.0	109 55.9	20 10.3	37 19.0	38 19.5	76 39.0	85 43.6	122 62.6	6 3.1	9 4.6
	70歳以上	170 100.0	113 66.5	15 8.8	49 28.8	37 21.8	35 20.6	78 45.9	89 52.4	5 2.9	18 10.6
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238 100.0	152 63.9	22 9.2	60 25.2	57 23.9	80 33.6	94 39.5	142 59.7	7 2.9	14 5.9
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212 100.0	126 59.4	15 7.1	54 25.5	34 16.0	97 45.8	67 31.6	132 62.3	7 3.3	10 4.7
	道内の他の市町村から転入してきた	281 100.0	173 61.6	36 12.8	56 19.9	40 14.2	128 45.6	119 42.3	191 68.0	6 2.1	11 3.9
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	70 55.1	11 8.7	31 24.4	26 20.5	47 37.0	41 32.3	74 58.3	7 5.5	7 5.5

表2-11 避難所で困ったこと。困ること。(性別・年代別・居住歴)

(6) 自衛隊の地域貢献等について

1) 自衛隊の印象

6-1 自衛隊の印象についてお聞かせください。(○は1つまで)

自衛隊の印象について尋ねたところ、「どちらかといえば良い印象を持っている」が40.8%と最も多く、「良い印象を持っている」24.5%を合わせた『良い印象を持っている』は65.3%と6割以上となっている。

一方、「悪い印象を持っている」3.0%と「どちらかといえば悪い印象を持っている」9.6%を合わせた『悪い印象を持っている』は12.6%と1割ほどである。

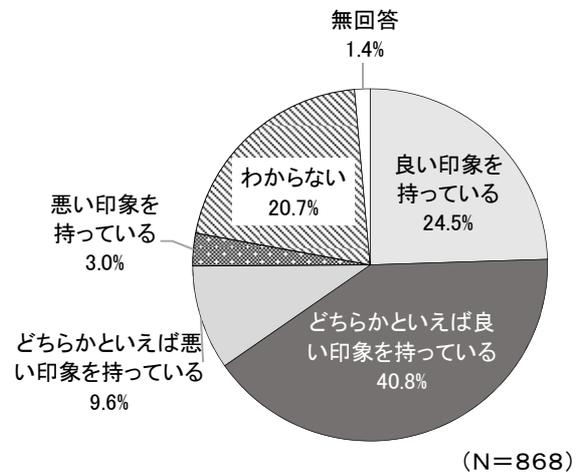


図2-25 自衛隊の印象

性別でみると、『良い印象を持っている』人は男性が72.2%、女性が59.2%と、男性が13ポイント上回っている。

年代別でみると、年代が高くなるにつれて『良い印象を持っている』人の割合が多くなる傾向がみられる。

別海町居住年数別でみると、20年以上居住している人は『良い印象を持っている』割合が約7割と他の居住年数に比べて多くなっている。

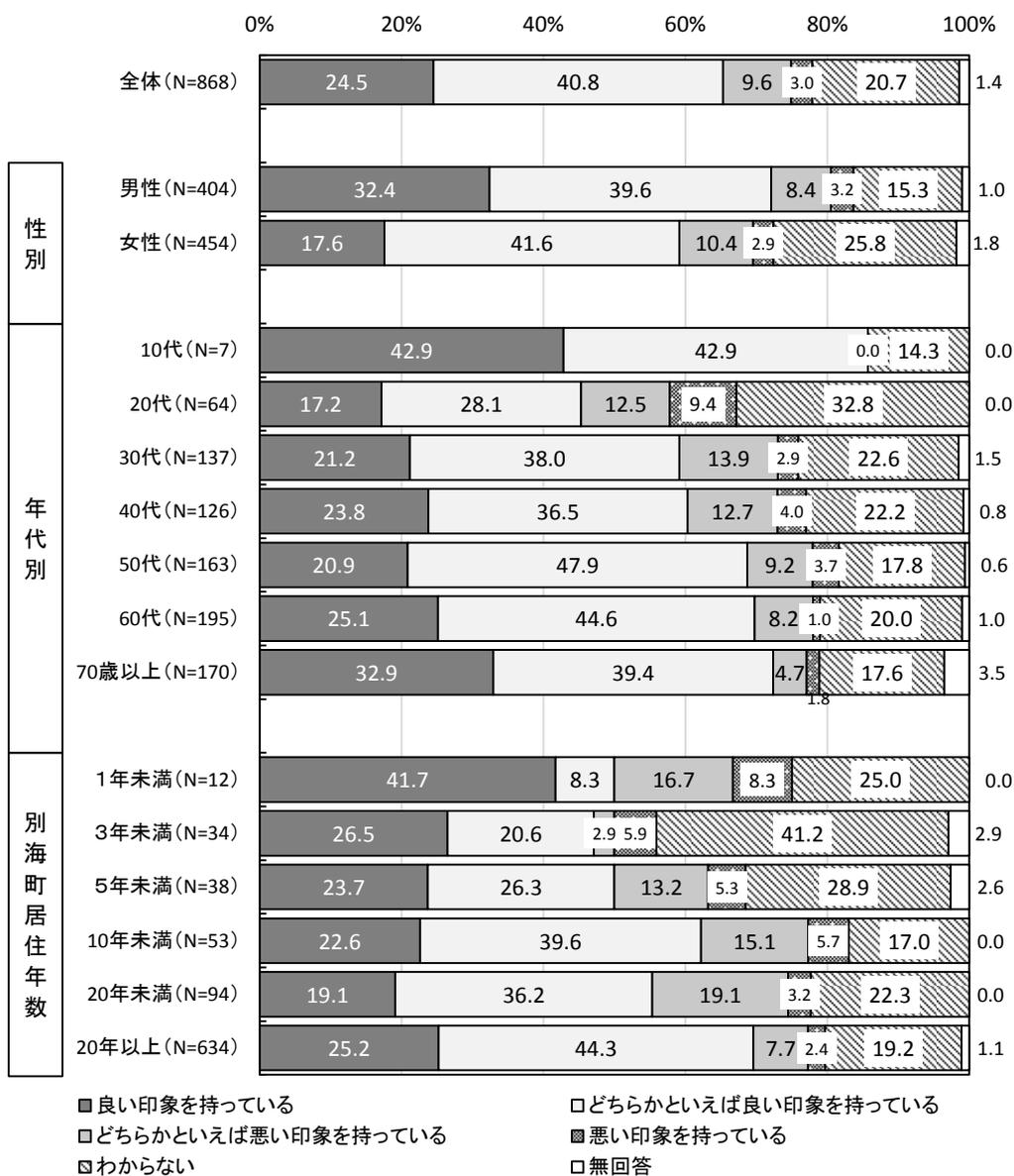


図 2 - 2 6 自衛隊の印象 (性別・年代別・別海町居住年数)

2) 米海兵隊の印象

6-2 米海兵隊の印象についてお聞かせください。(○は1つまで)

米海兵隊の印象について尋ねたところ、「わからない」が35.7%と最も多く。「どちらかといえば良い印象を持っている」19.1%と「良い印象を持っている」7.5%を合わせた『良い印象を持っている』は26.6%となっている。

一方、「悪い印象を持っている」13.9%と「どちらかといえば悪い印象を持っている」22.5%を合わせた『悪い印象を持っている』は36.4%と『良い印象を持っている』を約10ポイント上回っている。

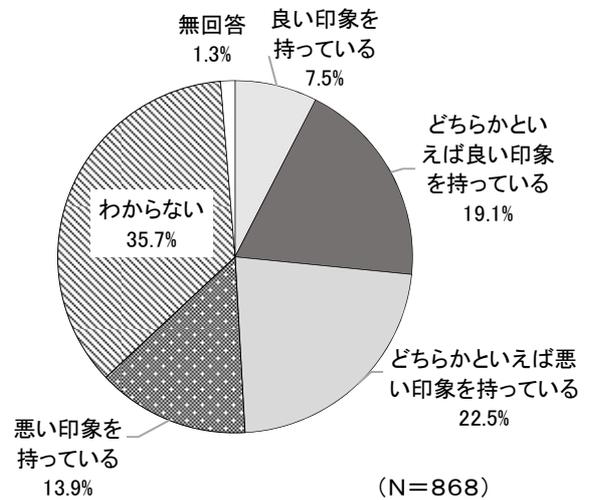


図2-27 米海兵隊の印象

性別でみると、男女ともに「わからない」が最も多くなっており、女性の方が男性より10.1ポイント上回っている。また、『良い印象を持っている』人は男性が38.6%、女性が15.9%と、男性が22.7ポイント上回っている。

一方、『悪い印象を持っている』人は男性が30.0%、女性が42.1%と女性の方が12.1ポイント多くなっている。

年代別でみると、30代～50代で『悪い印象を持っている』人が4割以上となっている。

別海町居住年数別でみると、長く居住するにしたがって、「わからない」と回答した人は少なくなる傾向がみられる。

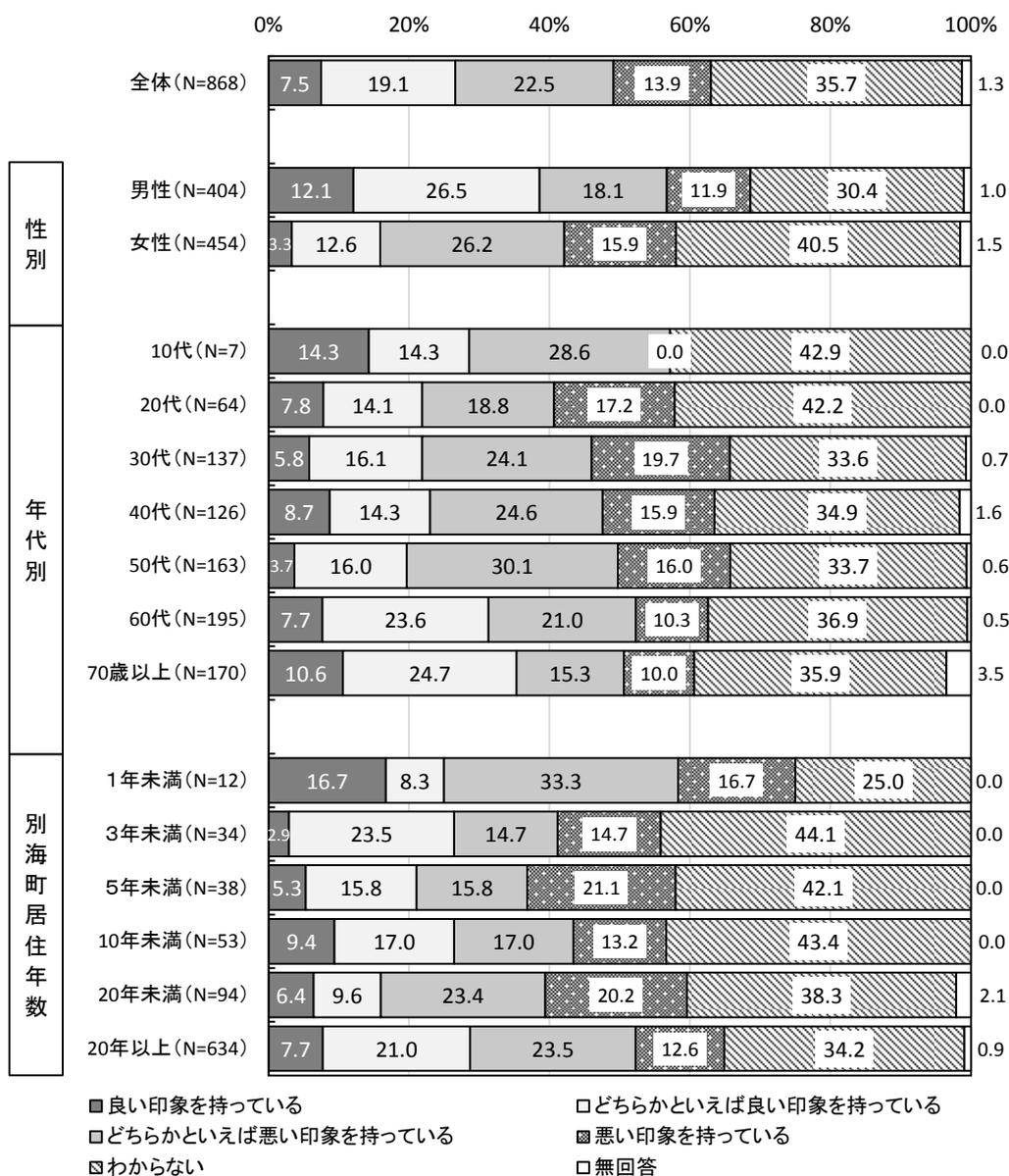


図2-28 米海兵隊の印象（性別・年代別・別海町居住年数）

3) 自衛隊等に期待することについて

6-3 自衛隊等に期待することについて、お聞かせください。

【交流活動について】(○はいくつでも)

交流活動について自衛隊等に期待することについて尋ねたところ、「地域内での奉仕活動」が49.9%と最も多く。以下、「地域イベントへの協力」37.2%、「演奏会などの文化交流」27.2%、「自衛隊活動に関するイベント開催」27.0%、「専門分野を生かした講師派遣」24.3%となっている。

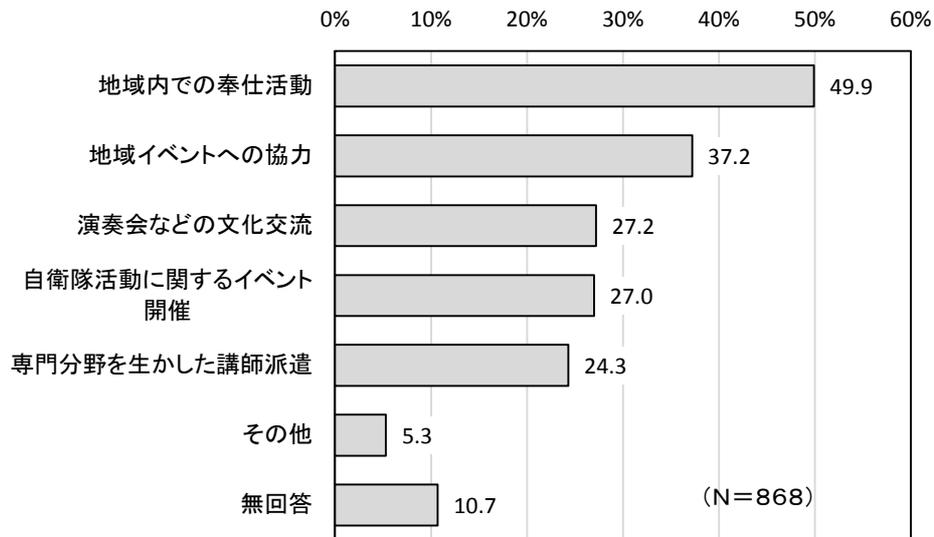


図2-29 自衛隊等に期待することについて【交流活動について】

性別でみると、男女ともに「地域内での奉仕活動」が最も多くなっている。また、「自衛隊活動に関するイベント開催」は男性が33.9%、女性が20.9%と、男性が13ポイント上回っている。

年代別でみると、いずれの年代も「地域内での奉仕活動」が最も多くなっている。30代・40代では「専門分野を生かした講師派遣」、70歳以上では「演奏会などの文化交流」が他の年代と比べて多くなっている。

		調査数	演奏会などの文化交流	専門分野を生かした講師派遣	地域内での奉仕活動	自衛隊活動に関するイベント開催	地域イベントへの協力	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)							
全体		868 100.0	236 27.2	211 24.3	433 49.9	234 27.0	323 37.2	46 5.3	93 10.7
性別	男性	404 100.0	109 27.0	112 27.7	194 48.0	137 33.9	157 38.9	21 5.2	39 9.7
	女性	454 100.0	124 27.3	99 21.8	234 51.5	95 20.9	161 35.5	25 5.5	53 11.7
年代別	10代	7 100.0	4 57.1	0 0.0	1 14.3	5 71.4	3 42.9	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	15 23.4	15 23.4	23 35.9	13 20.3	19 29.7	5 7.8	8 12.5
	30代	137 100.0	26 19.0	44 32.1	67 48.9	42 30.7	57 41.6	6 4.4	12 8.8
	40代	126 100.0	32 25.4	39 31.0	54 42.9	24 19.0	44 34.9	8 6.3	10 7.9
	50代	163 100.0	37 22.7	41 25.2	86 52.8	43 26.4	60 36.8	8 4.9	18 11.0
	60代	195 100.0	51 26.2	45 23.1	98 50.3	54 27.7	75 38.5	13 6.7	21 10.8
	70歳以上	170 100.0	69 40.6	25 14.7	100 58.8	51 30.0	63 37.1	6 3.5	23 13.5

表2-12 自衛隊等に期待することについて【交流活動について】(性別・年代別)

6-3 自衛隊等に期待することについて、お聞かせください。

【災害支援について】(〇はいくつでも)

災害支援について自衛隊等に期待することについて尋ねたところ、「被災者の救助・搬送」が80.5%と8割以上と最も多く。以下、「支援物資の輸送」75.8%、「災害復旧活動」72.8%、「避難所での炊き出し」43.2%、「防災訓練等の連携」26.6%、「災害支援活動の講演会」8.8%となっている。

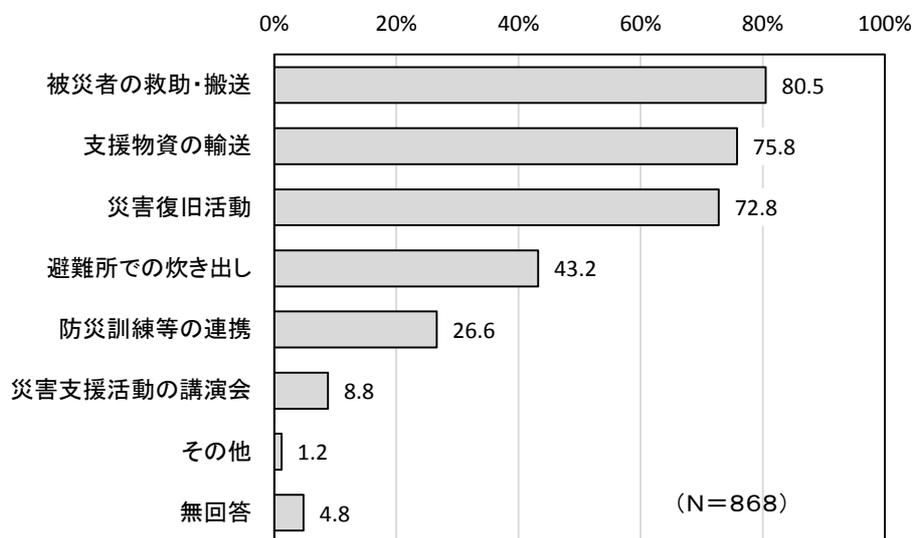


図2-30 自衛隊等に期待することについて【災害支援について】

性別でみると、男女間で差はみられない。

年代別でも大きな差はみられない。

		調査数	支援物資の輸送	避難所での炊き出し	被災者の救助・搬送	防災訓練等の連携	災害復旧活動	災害支援活動の講演会	その他	無回答
		(上段：実数)								
		(下段：割合)								
全体		868 100.0	658 75.8	375 43.2	699 80.5	231 26.6	632 72.8	76 8.8	10 1.2	42 4.8
性別	男性	404 100.0	308 76.2	182 45.0	317 78.5	112 27.7	294 72.8	37 9.2	6 1.5	21 5.2
	女性	454 100.0	341 75.1	188 41.4	375 82.6	119 26.2	331 72.9	38 8.4	4 0.9	21 4.6
年齢別	10代	7 100.0	6 85.7	3 42.9	6 85.7	1 14.3	4 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	43 67.2	28 43.8	50 78.1	16 25.0	39 60.9	4 6.3	2 3.1	2 3.1
	30代	137 100.0	110 80.3	68 49.6	117 85.4	39 28.5	97 70.8	14 10.2	2 1.5	3 2.2
	40代	126 100.0	92 73.0	54 42.9	100 79.4	33 26.2	92 73.0	13 10.3	2 1.6	5 4.0
	50代	163 100.0	126 77.3	64 39.3	135 82.8	42 25.8	126 77.3	8 4.9	1 0.6	8 4.9
	60代	195 100.0	149 76.4	71 36.4	161 82.6	53 27.2	153 78.5	18 9.2	1 0.5	5 2.6
	70歳以上	170 100.0	126 74.1	84 49.4	126 74.1	46 27.1	116 68.2	18 10.6	2 1.2	19 11.2

表2-13 自衛隊等に期待することについて【災害支援について】(性別・年代別)

(7) より多くの人が住むまちを目指して

1) 現在住んでいる住宅の選んだ視点

7-2 現在住んでいる住宅は、どのような視点で選びましたか。(〇は1つまで)

現在住んでいる住宅の選んだ視点について尋ねたところ、「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」が25.2%と最も多く、以下、「生まれた時からずっと住んでいる」20.0%、「静かな環境だったから」14.1%、「購入価格、または家賃が安かった」8.5%、「公共交通や幹線道路へのアクセスが良かったから」1.7%となっている。

その他の意見としては「結婚したため」「親の土地」「社宅」などが多かった。

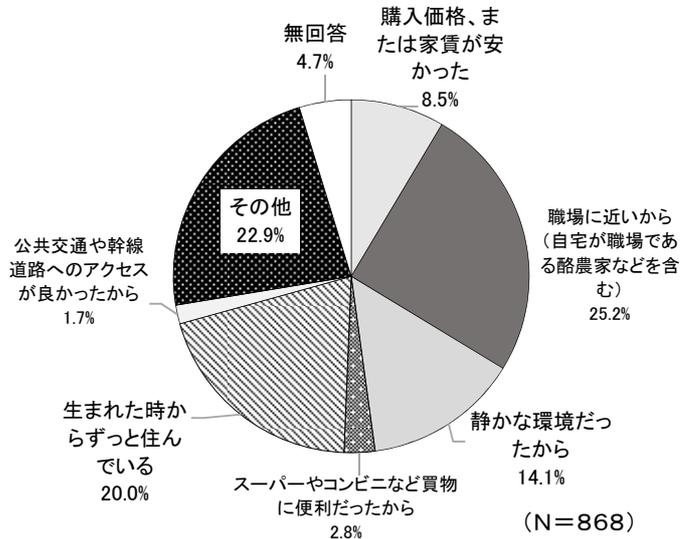


図2-3-1 現在住んでいる住宅の選んだ視点

性別でみると、男女ともに「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」が最も多くなっている。また男性は「生まれた時から住んでいる」が23.8%と女性の16.5%を7.3ポイント上回っている。

年代別でみると、20代・30代では「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」が他の年代よりやや多くなっている。70歳以上では「生まれた時からずっと住んでいる」が21.8%と最も多い。

居住歴別でみると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人は、「生まれた時からずっと住んでいる」の割合が4割を超えている。

別海町居住年数別でみると、20年以上居住している人は「生まれた時からずっと住んでいる」という割合が多い。

居住形態でみると、一戸建て持ち家は「生まれた時からずっと住んでいる」の割合が多く、社宅・寮及び民間の賃貸住宅では「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」割合が多くなっている。

		調査数	購入価格、または家賃が安かった	酪農家などを含む職場に近いから	静かな環境だった	道路が広いから	バスやコンビニなどから買物や買い物に便利	生まれた時から住んでいる	公共交通や幹線道路からアクセスが	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)									
全体		868 100.0	74 8.5	219 25.2	122 14.1	24 2.8	174 20.0	15 1.7	199 22.9	41 4.7	
性別	男性	404 100.0	28 6.9	111 27.5	66 16.3	13 3.2	96 23.8	6 1.5	66 16.3	18 4.5	
	女性	454 100.0	46 10.1	105 23.1	54 11.9	11 2.4	75 16.5	9 2.0	133 29.3	21 4.6	
年代別	10代	7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	3 42.9	0 0.0	
	20代	64 100.0	8 12.5	22 34.4	2 3.1	2 3.1	16 25.0	1 1.6	12 18.8	1 1.6	
	30代	137 100.0	15 10.9	49 35.8	14 10.2	6 4.4	27 19.7	2 1.5	24 17.5	0 0.0	
	40代	126 100.0	10 7.9	30 23.8	19 15.1	1 0.8	22 17.5	2 1.6	39 31.0	3 2.4	
	50代	163 100.0	13 8.0	37 22.7	23 14.1	2 1.2	29 17.8	1 0.6	51 31.3	7 4.3	
	60代	195 100.0	19 9.7	48 24.6	28 14.4	5 2.6	39 20.0	2 1.0	39 20.0	15 7.7	
	70歳以上	170 100.0	9 5.3	32 18.8	34 20.0	7 4.1	37 21.8	7 4.1	30 17.6	14 8.2	
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238 100.0	18 7.6	32 13.4	33 13.9	5 2.1	109 45.8	5 2.1	27 11.3	9 3.8	
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212 100.0	21 9.9	51 24.1	25 11.8	3 1.4	58 27.4	3 1.4	42 19.8	9 4.2	
	道内の他の市町村から転入してきた	281 100.0	28 10.0	93 33.1	43 15.3	11 3.9	2 0.7	3 1.1	84 29.9	17 6.0	
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	6 4.7	40 31.5	17 13.4	5 3.9	3 2.4	4 3.1	46 36.2	6 4.7	
別海町居住年数	1年未満	12 100.0	0 0.0	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 58.3	0 0.0	
	3年未満	34 100.0	3 8.8	19 55.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 26.5	3 8.8	
	5年未満	38 100.0	2 5.3	16 42.1	5 13.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 39.5	0 0.0	
	10年未満	53 100.0	3 5.7	23 43.4	3 5.7	3 5.7	0 0.0	1 1.9	16 30.2	4 7.5	
	20年未満	94 100.0	10 10.6	20 21.3	17 18.1	5 5.3	9 9.6	1 1.1	29 30.9	3 3.2	
	20年以上	634 100.0	56 8.8	136 21.5	97 15.3	16 2.5	165 26.0	13 2.1	122 19.2	29 4.6	
居住形態	一戸建て持ち家	630 100.0	41 6.5	132 21.0	112 17.8	18 2.9	159 25.2	11 1.7	131 20.8	26 4.1	
	一戸建て借家	33 100.0	8 24.2	6 18.2	1 3.0	1 3.0	1 3.0	1 3.0	13 39.4	2 6.1	
	社宅・寮	81 100.0	5 6.2	46 56.8	1 1.2	0 0.0	2 2.5	0 0.0	21 25.9	6 7.4	
	民間の賃貸住宅（アパート等）	39 100.0	5 12.8	18 46.2	3 7.7	3 7.7	0 0.0	0 0.0	10 25.6	0 0.0	
	公営住宅	45 100.0	14 31.1	11 24.4	2 4.4	0 0.0	3 6.7	3 6.7	8 17.8	4 8.9	
	その他	24 100.0	0 0.0	3 12.5	3 0.0	0 0.0	2 8.3	3 12.5	0 0.0	13 54.2	3 12.5

表2-14 現在住んでいる住宅の選んだ視点（性別・年代別）

2) 住宅の周辺環境として不足していると感じるもの

7-3 住宅の周辺環境として、不足していると感じるものは何ですか。(〇は3つまで)

住宅の周辺環境として不足していると感じるものについて尋ねたところ、「公共交通機関」が35.9%と最も多く、以下、「スーパーやコンビニ」30.4%、「飲食店・スナック」19.7%、「公園や公民館、スポーツ施設などの公共施設」18.7%、「地域的なつながり」17.4%、「レジャーや娯楽（パチンコなど）施設」12.2%となっている。

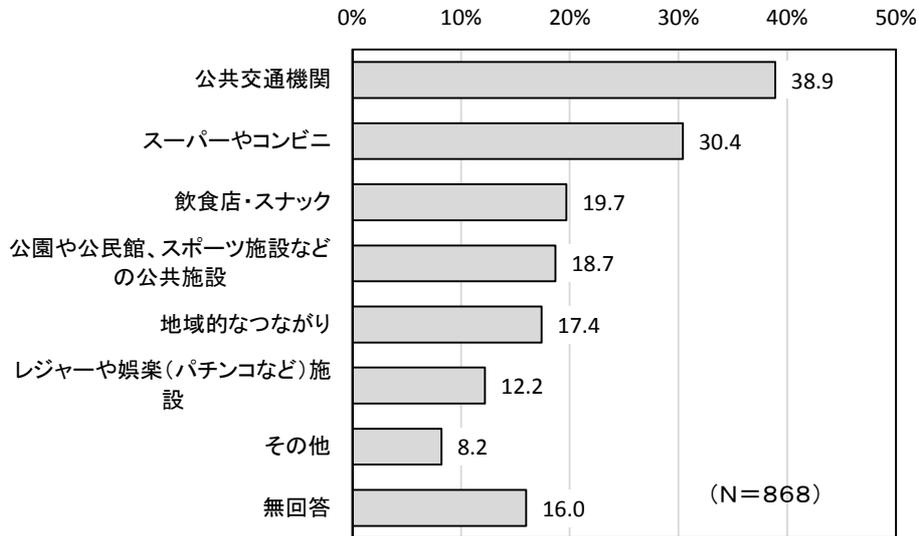


図2-32 住宅の周辺環境として不足していると感じるもの

性別でみると、男女ともに「公共交通機関」が最も多くなっている。

年代別でみると、20代～40代では「スーパーやコンビニ」が最も多く、50代以上では「公共交通機関」が最も多くなっている。また20代～50代では「飲食店・スナック」が他の年代よりやや多く、60代以上では「地域的なつながり」が他の年代より多くなっている。

居住歴別でみると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人は、「地域的なつながり」が他の居住歴よりやや多くなっている。

		調査数 (上段：実数) (下段：割合)	公共交通機関	公園や公民館、施設などの公共施設	スーパーやコンビニ	レジャーや娯楽施設 (パチンコなど)	飲食店・スナック	地域的なつながり	その他	無回答
全体		868 100.0	338 38.9	162 18.7	264 30.4	106 12.2	171 19.7	151 17.4	71 8.2	139 16.0
性別	男性	404 100.0	150 37.1	77 19.1	119 29.5	61 15.1	85 21.0	85 21.0	25 6.2	58 14.4
	女性	454 100.0	184 40.5	84 18.5	144 31.7	43 9.5	84 18.5	64 14.1	46 10.1	79 17.4
年代別	10代	7 100.0	5 71.4	0 0.0	1 14.3	2 28.6	5 71.4	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	18 28.1	21 32.8	27 42.2	15 23.4	21 32.8	7 10.9	5 7.8	6 9.4
	30代	137 100.0	42 30.7	41 29.9	50 36.5	31 22.6	42 30.7	11 8.0	14 10.2	13 9.5
	40代	126 100.0	40 31.7	20 15.9	41 32.5	19 15.1	29 23.0	14 11.1	15 11.9	16 12.7
	50代	163 100.0	80 49.1	22 13.5	49 30.1	14 8.6	35 21.5	23 14.1	16 9.8	25 15.3
	60代	195 100.0	78 40.0	29 14.9	45 23.1	16 8.2	18 9.2	52 26.7	15 7.7	35 17.9
	70歳以上	170 100.0	73 42.9	27 15.9	51 30.0	9 5.3	21 12.4	43 25.3	6 3.5	41 24.1
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238 100.0	81 34.0	37 15.5	69 29.0	22 9.2	44 18.5	48 20.2	9 3.8	53 22.3
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212 100.0	89 42.0	42 19.8	68 32.1	33 15.6	39 18.4	38 17.9	26 12.3	30 14.2
	道内の他の市町村から転入してきた	281 100.0	109 38.8	61 21.7	88 31.3	37 13.2	57 20.3	50 17.8	22 7.8	38 13.5
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	57 44.9	21 16.5	35 27.6	12 9.4	28 22.0	10 7.9	14 11.0	17 13.4

表2-15 住宅の周辺環境として不足していると感じるもの（性別・年代別・居住歴）

3) 今後引っ越すとしたら、住みたい自治体

7-4 今後引っ越すとしたら、どの自治体に住んでみたいですか。(○は1つだけ)

今後引っ越すとしたら、住みたい自治体について尋ねたところ、「中標津町」が42.1%と最も多く、以下、「別海町内の別な地域」6.1%、「標津町」1.0%、「根室市」0.5%、「羅臼町」0.1%となっている。

その他、道内外の自治体としては「札幌市」78件、「釧路市」31件、「帯広市」14件などである。

	件数	割合
札幌市	78	35.8
釧路市	31	14.2
帯広市	14	6.4
その他道内	41	18.8
その他道外	28	12.8
海外	2	0.9
その他	24	11.0
合計	218	100.0

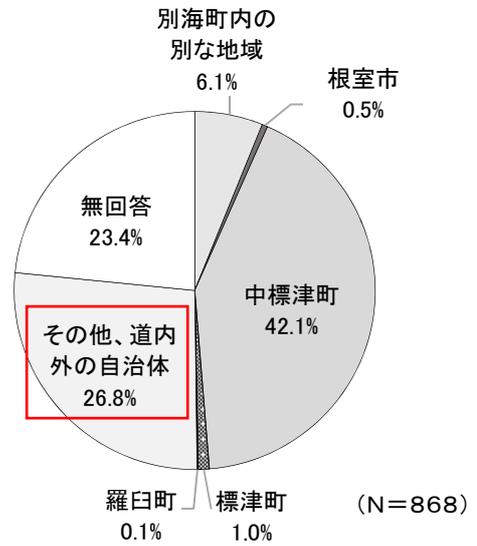
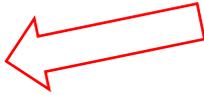


図 2-3-3 今後引っ越すとしたら、住みたい自治体

※ 回答は複数回答である。

表 2-1-6 その他、道内外の自治体内容内訳

性別でみると、男女間で差はみられない。

年代別でも大きな差はみられない。

		調査数	別海町内の別な地域	根室市	中標津町	標津町	羅臼町	体その他、道内外の自治	無回答
		(上段：実数)							
		(下段：割合)							
全 体		868	53	4	365	9	1	233	203
		100.0	6.1	0.5	42.1	1.0	0.1	26.8	23.4
性別	男性	404	24	2	164	5	0	111	98
		100.0	5.9	0.5	40.6	1.2	0.0	27.5	24.3
	女性	454	28	2	194	4	1	121	104
		100.0	6.2	0.4	42.7	0.9	0.2	26.7	22.9
年代別	10代	7	0	0	4	0	0	3	0
		100.0	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	42.9	0.0
	20代	64	2	1	34	2	0	20	5
		100.0	3.1	1.6	53.1	3.1	0.0	31.3	7.8
	30代	137	4	0	71	3	0	41	18
		100.0	2.9	0.0	51.8	2.2	0.0	29.9	13.1
	40代	126	9	2	42	1	0	51	21
		100.0	7.1	1.6	33.3	0.8	0.0	40.5	16.7
	50代	163	14	0	63	0	0	56	30
		100.0	8.6	0.0	38.7	0.0	0.0	34.4	18.4
	60代	195	6	0	95	2	0	38	54
		100.0	3.1	0.0	48.7	1.0	0.0	19.5	27.7
	70歳以上	170	18	1	54	1	1	23	72
		100.0	10.6	0.6	31.8	0.6	0.6	13.5	42.4
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238	16	2	101	1	0	43	75
		100.0	6.7	0.8	42.4	0.4	0.0	18.1	31.5
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212	16	0	90	3	0	66	37
		100.0	7.5	0.0	42.5	1.4	0.0	31.1	17.5
	道内の他の市町村から転入してきた	281	11	1	124	3	1	85	56
	100.0	3.9	0.4	44.1	1.1	0.4	30.2	19.9	
	道外の市町村から転入してきた	127	10	1	45	1	0	36	34
		100.0	7.9	0.8	35.4	0.8	0.0	28.3	26.8
別海町居住年数	1年未満	12	0	0	4	0	0	6	2
		100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	50.0	16.7
	3年未満	34	0	1	13	0	0	18	2
		100.0	0.0	2.9	38.2	0.0	0.0	52.9	5.9
	5年未満	38	3	0	19	0	0	10	6
		100.0	7.9	0.0	50.0	0.0	0.0	26.3	15.8
	10年未満	53	2	1	27	3	0	14	6
	100.0	3.8	1.9	50.9	5.7	0.0	26.4	11.3	
	20年未満	94	6	0	33	1	0	41	13
		100.0	6.4	0.0	35.1	1.1	0.0	43.6	13.8
	20年以上	634	42	2	268	5	1	144	172
		100.0	6.6	0.3	42.3	0.8	0.2	22.7	27.1

表2-17 今後引っ越すとしたら、住みたい自治体
(性別・年代別・居住歴・別海町居住年数)

(8) まちのにぎわいを目指して

1) 別海地区の商店街に行く頻度

8-1 1 別海地区の商店街には、週または月に何回くらい行きますか。(○は1つだけ)

別海町商店街に行く頻度について尋ねたところ「1週間に2~3回程度」が27.0%と最も多く、以下、「ほとんど行かない」22.8%、「1週間に1回程度」17.7%、「月に1回程度」12.6%、「ほぼ毎日」11.3%、「2週間に1回程度」7.7%となっている。『1週間に1回以上』行く人は、半数以上を占めている。

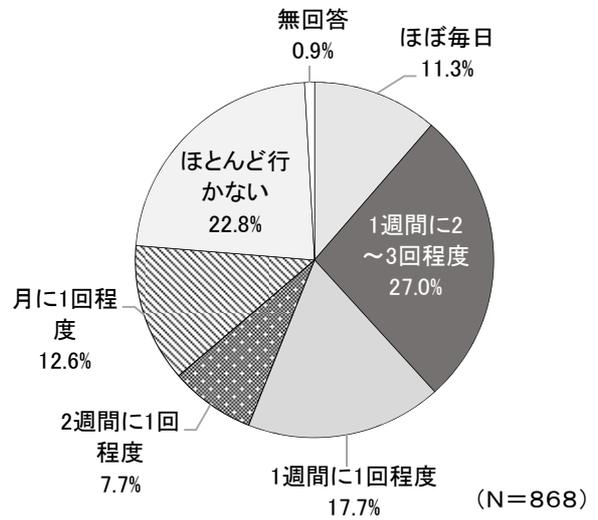


図2-34 別海地区の商店街に行く頻度

性別でみると、男女間で差はみられない。

年代別でみると、20代～40代では、年齢が高くなるにつれ、「ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられる。

居住歴別でみると、道外の市町村から転入してきた人以外は、「ほぼ毎日」に行く人がやや多い。別海町居住年数別でみると、3年未満～20年未満では居住年数が長くなるにつれて『1週間に2回以上』行く人が多くなる傾向にある。

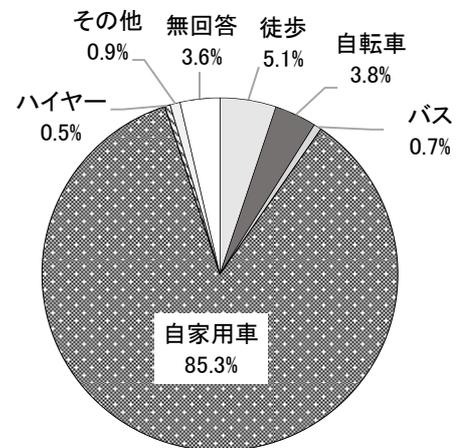


図 2 - 3 5 別海地区の商店街に行く頻度 (性別・年代別・居住歴・別海町居住年数)

2) 別海地区の商店街への主な交通手段

8-2 別海地区の商店街を利用する際の主な交通手段は何ですか。(○は1つだけ)

別海地区の商店街への主な交通手段について尋ねたところ、「自家用車」が85.3%と最も多く8割以上を占める。以下、「徒歩」5.1%、「自転車」3.8%、「バス」0.7%、「ハイヤー」0.5%となっている。



(N=860)

図2-36 別海地区の商店街への主な交通手段

性別で見ると、男女間で差はみられない。
年代別で見ても、差はみられない。

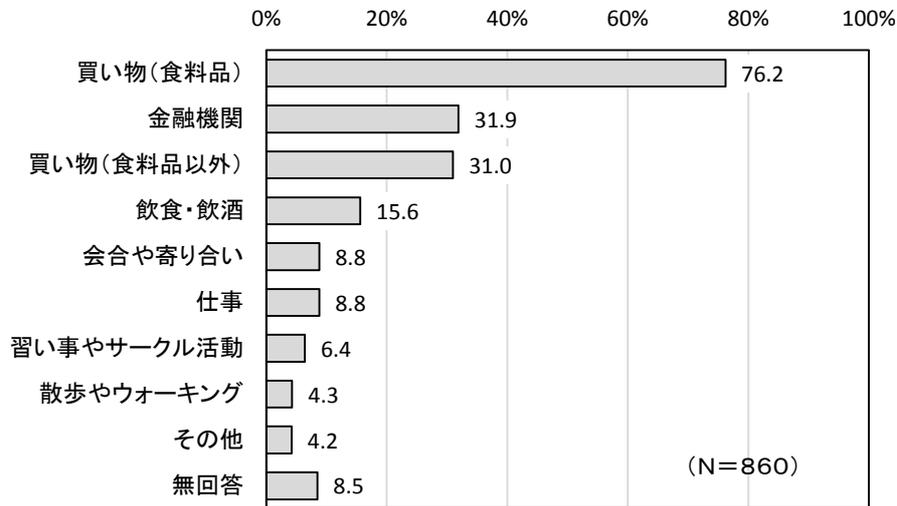
		調査数	徒歩	自転車	バス	自家用車	ハイヤー	その他	無回答
		(上段：実数)							
		(下段：割合)							
全体		860	44	33	6	734	4	8	31
		100.0	5.1	3.8	0.7	85.3	0.5	0.9	3.6
性別	男性	399	19	16	2	344	1	4	13
		100.0	4.8	4.0	0.5	86.2	0.3	1.0	3.3
性別	女性	451	25	17	4	381	3	4	17
		100.0	5.5	3.8	0.9	84.5	0.7	0.9	3.8
年齢別	10代	7	1	1	0	5	0	0	0
		100.0	14.3	14.3	0.0	71.4	0.0	0.0	0.0
	20代	64	3	2	0	58	0	0	1
		100.0	4.7	3.1	0.0	90.6	0.0	0.0	1.6
	30代	136	5	1	0	129	0	0	1
		100.0	3.7	0.7	0.0	94.9	0.0	0.0	0.7
	40代	125	4	11	0	106	1	0	3
	100.0	3.2	8.8	0.0	84.8	0.8	0.0	2.4	
50代	163	5	3	1	144	0	2	8	
	100.0	3.1	1.8	0.6	88.3	0.0	1.2	4.9	
60代	195	14	9	1	163	0	0	8	
	100.0	7.2	4.6	0.5	83.6	0.0	0.0	4.1	
70歳以上	164	12	6	4	126	3	5	8	
	100.0	7.3	3.7	2.4	76.8	1.8	3.0	4.9	

図2-18 別海町商店街に行く頻度 (性別・年代別・居住歴・別海町居住年数)

3) 別海地区の商店街へ行く理由

8-3 別海地区の商店街に行く理由として多い目的は何ですか。(〇は3つまで)

別海地区の商店街へ行く理由について尋ねたところ、「買い物（食料品）」が76.2%と最も多く、以下、「金融機関」31.9%、「買い物（食料品以外）」31.0%、「飲食・飲酒」15.6%などとなっている。



性別でみると、男女とも「買い物（食料品）」が最も多い。また、「金融機関」が女性が36.8%男性が26.3%と、女性の方が10.5ポイント上回っている。

年代別でみると、すべての年代で「買い物（食料品）」が最も多くなっている。また、20代では「金融機関」が39.1%と他の年代よりやや多くなっている。

		調査数	買い物 (食料品)	外 買い物 (食料品 以外)	飲食・ 飲酒	金融 機関	活 習 動 い 事 や サ ー ク ル	会 合 や 寄 り 合 い	グ 散 歩 や ウ ォ ー キ ン	仕 事	そ の 他	無 回 答
		(上段：実数)										
		(下段：割合)										
全 体		860	655	267	134	274	55	76	37	76	36	73
		100.0	76.2	31.0	15.6	31.9	6.4	8.8	4.3	8.8	4.2	8.5
性 別	男性	399	284	124	72	105	13	48	18	41	16	33
		100.0	71.2	31.1	18.0	26.3	3.3	12.0	4.5	10.3	4.0	8.3
	女性	451	363	141	61	166	41	28	16	34	20	40
		100.0	80.5	31.3	13.5	36.8	9.1	6.2	3.5	7.5	4.4	8.9
年 代 別	10代	7	6	1	3	1	0	0	0	0	0	0
		100.0	85.7	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	64	47	25	18	25	0	2	1	10	4	2
		100.0	73.4	39.1	28.1	39.1	0.0	3.1	1.6	15.6	6.3	3.1
	30代	136	115	49	43	33	9	9	3	17	6	5
		100.0	84.6	36.0	31.6	24.3	6.6	6.6	2.2	12.5	4.4	3.7
	40代	125	98	30	25	38	4	5	2	16	3	7
		100.0	78.4	24.0	20.0	30.4	3.2	4.0	1.6	12.8	2.4	5.6
50代	163	119	40	19	58	11	18	4	16	10	15	
	100.0	73.0	24.5	11.7	35.6	6.7	11.0	2.5	9.8	6.1	9.2	
60代	195	144	67	17	70	12	20	9	14	5	20	
	100.0	73.8	34.4	8.7	35.9	6.2	10.3	4.6	7.2	2.6	10.3	
70歳以上	164	123	54	9	49	19	22	18	3	8	21	
	100.0	75.0	32.9	5.5	29.9	11.6	13.4	11.0	1.8	4.9	12.8	

図2-19 別海地区の商店街へ行く理由（性別・年代別）

4) 今後、別海地区の商店街に求める業種

8-4 今後、別海地区の商店街に求める業種は何ですか。(〇はいくつでも)

今後、別海地区の商店街に求める業種について尋ねたところ、「町内の特産品が買える土産店」が40.8%と最も多く。以下、「書店」32.8%、「生鮮食品店」24.1%、「靴屋」23.7%、「雑貨や小物店」20.2%、「家具・インテリアの店」16.9%、「携帯電話販売店」16.6%などとなっている。

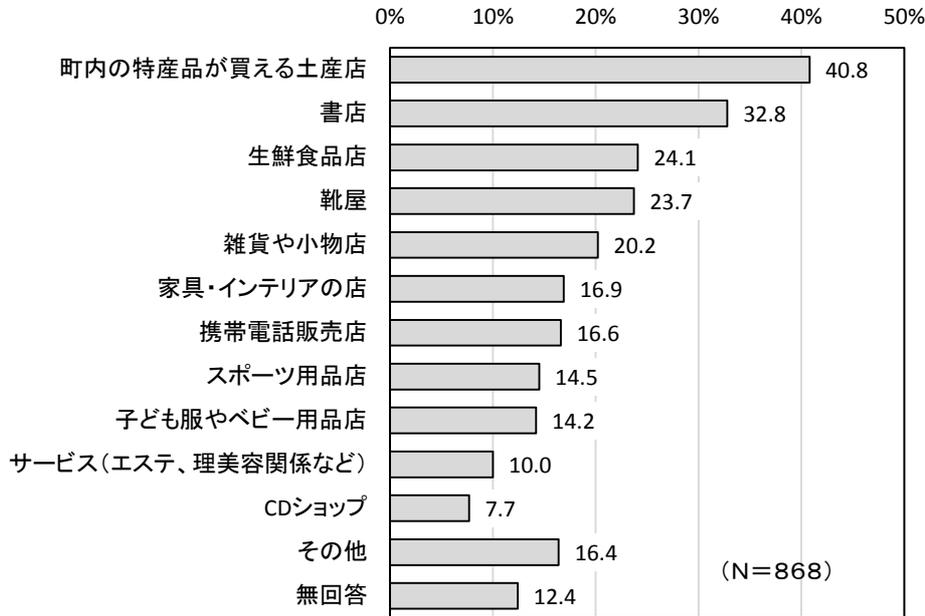


図2-38 今後、別海地区の商店街に求める業種

性別でみると、男女とも「町内の特産品が買える土産店」が最も多い。また、「靴屋」が女性で28.0%、男性が18.6%と、女性の方が9.4ポイント上回っている。

年代別でみると、20代~40代で「書店」が最も多くなっている。また、50代以上では「町内の特産品が買える土産店」が最も多い。

	調査数 (上段:実数) (下段:割合)	生鮮食品店	携帯電話販売店	子ども服やベビー用品店	書店	雑貨や小物店	町内の特産品が買える土産店	C D ショップ	家具・インテリアの店	サービス(エステ、理美容関係など)	靴屋	スポーツ用品店	その他	無回答	
		全体	868 100.0	209 24.1	144 16.6	123 14.2	285 32.8	175 20.2	354 40.8	67 7.7	147 16.9	87 10.0	206 23.7	126 14.5	142 16.4
性別	男性	404 100.0	105 26.0	64 15.8	48 11.9	128 31.7	70 17.3	172 42.6	36 8.9	71 17.6	36 8.9	75 18.6	70 17.3	54 13.4	54 13.4
	女性	454 100.0	98 21.6	78 17.2	75 16.5	156 34.4	103 22.7	178 39.2	30 6.6	76 16.7	50 11.0	127 28.0	53 11.7	85 18.7	54 11.9
年代別	10代	7 100.0	1 14.3	4 57.1	1 14.3	5 71.4	4 57.1	2 28.6	3 42.9	1 14.3	0 0.0	3 42.9	1 14.3	1 14.3	0 0.0
	20代	64 100.0	12 18.8	13 20.3	17 26.6	24 37.5	16 25.0	18 28.1	11 17.2	14 21.9	13 20.3	8 12.5	10 15.6	12 18.8	6 9.4
	30代	137 100.0	19 13.9	29 21.2	45 32.8	62 45.3	43 31.4	42 30.7	11 8.0	29 21.2	22 16.1	32 23.4	29 21.2	26 19.0	10 7.3
	40代	126 100.0	24 19.0	24 19.0	17 13.5	46 36.5	20 15.9	44 34.9	14 11.1	18 14.3	14 11.1	31 24.6	22 17.5	23 18.3	14 11.1
	50代	163 100.0	27 16.6	33 20.2	11 6.7	58 35.6	30 18.4	75 46.0	10 6.1	29 17.8	17 10.4	42 25.8	30 18.4	32 19.6	16 9.8
	60代	195 100.0	62 31.8	21 10.8	22 11.3	50 25.6	34 17.4	88 45.1	10 5.1	37 19.0	13 6.7	53 27.2	21 10.8	26 13.3	27 13.8
	70歳以上	170 100.0	62 36.5	20 11.8	9 5.3	39 22.9	27 15.9	83 48.8	8 4.7	18 10.6	8 4.7	36 21.2	13 7.6	22 12.9	34 20.0

図2-20 別海町商店街に行く頻度 (性別・年代別)

6、まちづくり構想

6-1 構想策定の視点

まちづくり構想の基本的な考え方や方針を検討する上で、構想に密接に関連する、第6次別海町総合計画、別海町地域防災計画、別海町市街地活性化計画～別海地区～、(仮称)別海町生涯学習センター建設基本構想(答申)などの関連計画を踏まえるとともに、住民懇話会やアンケート調査の結果などから、構想策定の視点を次のとおり整理します。

構想策定の視点

輝きつな
がる視点

食料供給
等の災害
対応
の視点

市街地の
コンパクト化
の視点

交流・防
災の視点

商業の
活性化
の視点

つどい支
え合う関
係づくり
の視点

新たな雇
用の創出
の視点

ホール機
能充実の
視点

多機能
化・多世
代交流の
視点

■第6次別海町総合計画(平成21年4月～平成31年3月)

- ・ひとが輝くために:子どもがすこやかに育つ環境づくり
- ・まちが輝くために:別海町の魅力を知ってもらい、来訪者を増加
別海町の産品に触れてもらい、生産者と消費者を結ぶ
- ・みんなのつながりでつくる地域のために:地域の課題を町民とともに解決

■別海町地域防災計画(平成26年4月)

防災計画から関連する内容

- ・災害発生した時の給水、防疫、食料供給等災害応急対策に関すること
- ・防災思想の普及に関すること

■別海町市街地活性化計画～別海地区～(平成26年11月)

- ・拡大する住宅域の位置づけ
- ・市街地のコンパクト化
- ・消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化
- ・空き店舗や未利用地の有効活用
- ・来街者の増加、回遊性や滞留時間の向上
- ・交流拠点、防災拠点となる施設の整備
- ・災害時の避難場所の確保

■(仮称)別海町生涯学習センター建設基本構想(平成26年4月答申)

「つどい、ふれあい、つながり、まなびあい～

人づくりまちづくりの交流連携拠点」

- ・文化ホール、公民館(学習)、共用部(ロビー)、子育て支援、防災機能、図書館機能、社会福祉機能、観光案内機能などの多機能複合化の検討

■住民懇話会及びアンケート調査

- ・高齢者を地域で支え、暮らし続けられる地域に
- ・まちへの愛着心が高まれば外からでも別海を応援
- ・コミュニティの向上と防災機能、防災意識の向上は密接な関係
- ・子供から高齢者までが集えるつながりをつくる多世代交流の場が必要
- ・新たな雇用の場の創造
- ・公民館機能の充実
- ・地元のを地元で買える一次産業を支える地域に

6-2 基本的考え方と基本方針

■ 基本的考え方

構想の基本的考え方は前項で整理した視点を包含するとともに、目指すべきまちの将来像を表す言葉として次のように定めます。

～つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり～
町民が安心安全に暮らし続けるために、多世代がつながり支え合う関係をはぐくむ、多世代・複合交流拠点を創造します。

■ 7つの基本方針

各視点をふまえながら、基本構想の実現に向けて7つの基本方針を次のとおり定めます。

輝きつな
がる視
点

基本方針 1

町民がつながり地域を支える関係づくりを目指します。

つどい支え
合う関係
づくり
の視
点

食料供給等
の災害対応
の視
点

基本方針 2

災害時の対応力強化に資する食料供給や災害対策の充実を図ります。

交流・防災の
視
点

多機能化・多
世代交流の
視
点

基本方針 3

子供から高齢者まで多世代が交流できる場づくりを目指します。

商業の活性化
の視
点

基本方針 4

地域のものを地域で消費でき、町民の買い物を支える場を創造します。

新たな雇用
の創出の
視
点

基本方針 5

別海で暮らし続けるための雇用環境の改善を図ります。

ホール機能
充実の視
点

基本方針 6

町民が集い、憩うための拠点機能（公民館機能）の充実を図ります。

市街地のコ
ンパクト化
の視
点

基本方針 7

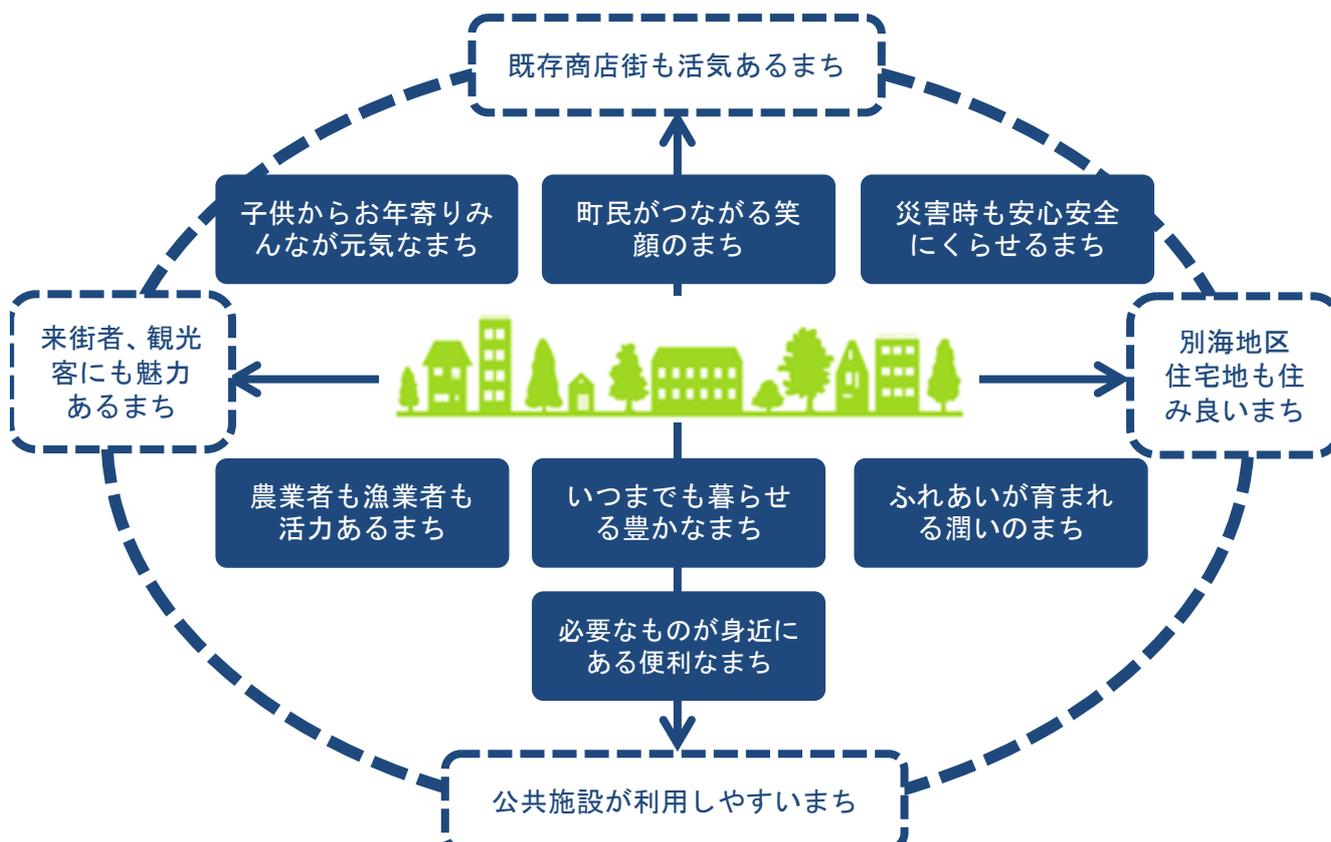
市街地のコンパクト化を目指した、効率化と複合化の公共機能整備を進めます。

6-3 まちづくり構想

■ 7つの基本方針と目指すべきまちの姿

7つの基本方針を具現化する手だてと目指すべきまちの姿を次のように定めます。

基本方針	具現化する手だて	目指すべきまちの姿
基本方針1：町民がつながり地域を支える関係づくりを目指します。	集い、つながる交流機能の充実	町民がつながる笑顔のまち
基本方針2：災害時の対応力強化に資する食料供給や災害対策の充実を図ります。	災害時の食料供給、備蓄機能の整備	災害時も安心安全にくらせるまち
基本方針3：子供から高齢者まで多世代が交流できる場づくりを目指します。	子育て、高齢者を支える環境整備	子供からお年寄りみんなが元気なまち
基本方針4：地域のもを地域で消費でき、町民の買い物を支える場を創造します。	地域を支える商業空間の充実	農業者も漁業者も活力あるまち
基本方針5：別海でくらし続けるための雇用環境の改善を図ります。	雇用環境の改善と場の創造	いつまでも暮らせる豊かなまち
基本方針6：町民が集い、憩うための拠点機能（公民館機能）の充実を図ります。	利便性向上を図る交流拠点の充実	ふれあいが育まれる潤いのまち
基本方針7：市街地のコンパクト化と効率化、複合化の拠点整備を目指します。	支え合う関係をつくる複合機能の整備	必要なものが身近にある便利なまち



■基本方針を具現化する手だてのイメージ

集い、つながる交流機能の充実

■機能イメージ
子供から高齢者、地域の人同士や観光客などの、様々な人々が集い、つながり交流できる機能。

■空間イメージ



災害時の食料供給
備蓄機能の整備

■機能イメージ
災害時の食料供給のための炊き出し拠点、また、それに必要な物資の備蓄ができる設備や倉庫などの防災拠点機能。

■空間イメージ



子育て、高齢者を
支える環境整備

■機能イメージ
高齢者が集うサロンや、子育てを支援する相談、遊戯スペースで、高齢者や子供の交流がうまれる機能。

■空間イメージ



地域を支える
商業空間の充実

■機能イメージ
地元でとれる農産品が購入でき、地域住民の買い物を支え、観光客も立ち寄る機能。

■空間イメージ



雇用環境の改善
と場の創造

■機能イメージ
新たな雇用が生まれるチャ
レンジオフィス、チャレン
ジショップ機能。

■空間イメージ



利便性向上を
図る交流拠点の
充実

■機能イメージ
老朽化した中央公民館の機
能を更新し、利便性の向上
を図る公民館機能。

■空間イメージ



支え合う関係をつ
くる複合機能の整
備

■機能イメージ
様々な機能を複合化そし、
施設を施設を利用する人々
の新たな交流を促し、支え
合う関係を構築する機能。

■空間イメージ

